



YAPOO, THE HUMAN CATTLE
Egawa Tatsuya x Numo Shozo

家畜人ヤプー

かちくじん

YAPOO

作画 江川達也
原作 沼正三

BIRZ
COMICS

BIRZ
COMICS

家畜人ヤプー

原作 江川達也
沼正三

発行 幻冬舎
コミックス



9784344803817

ISBN4-344-80381-7

C9979 ¥590E



1929979005900

雑誌 54242-92
定価：本体590円 + 税
発行 = 幻冬舎コミックス
発売 = 幻冬舎

YAPOO





ヴァス・ウィルド・アオス・イーム
彼は何になるだろうか？

YARPOO, THE HUMAN CALIBRE

BIRZ
CENTRE

家
か
畜
ちく
人
じん

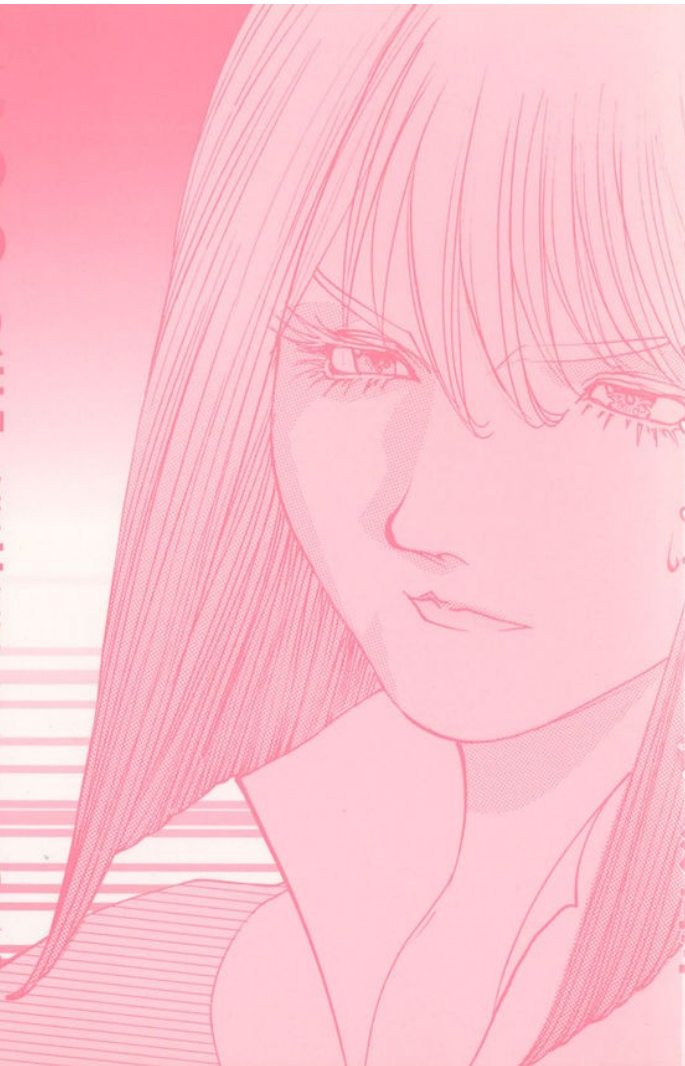
ヤ
プ
ー

二

江川達也
沼正三

発行
創冬舎
コミックス

YAP



YAPOO, THE HUMAN CATTLE
Egawa Tatsuya X Nura Shozo

家畜

かちく
じん

ヤブ

Y
A
P
O
O

二

幻象のアウトロー：文壇作家のVブレイクより

作画 **江川達也**
原作 **沼正三**



YAPOO, THE HUMAN CATTLE 3 CONTENTS

第六章 便所のない世界

第一話 3

第二話 39

第七章 第一の経験

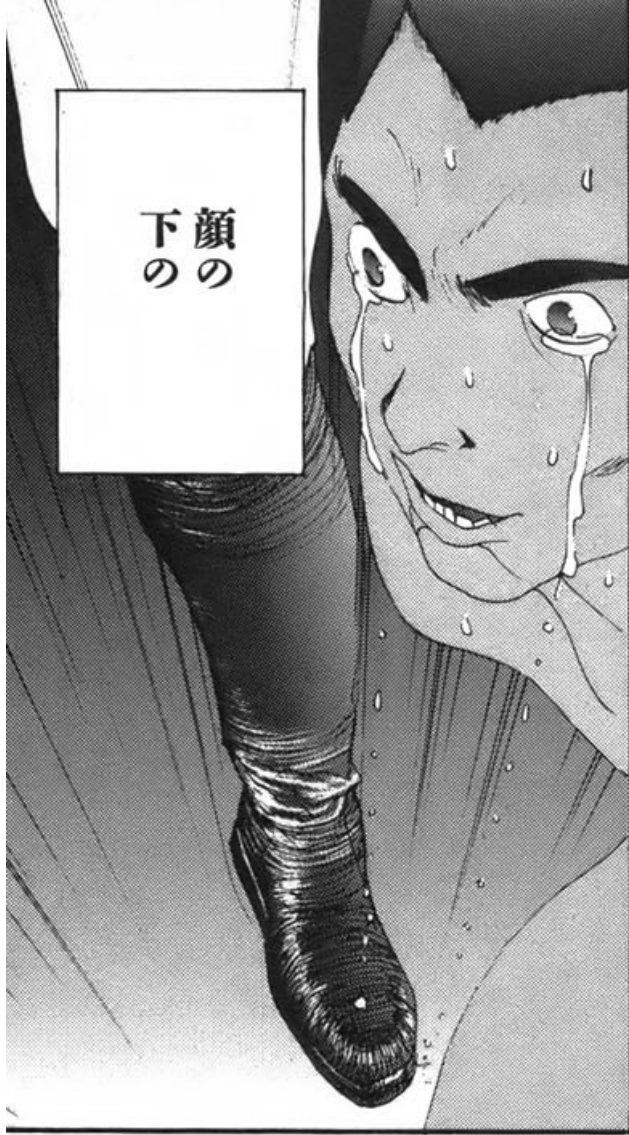
第一話 75

第二話 111

第三話 147



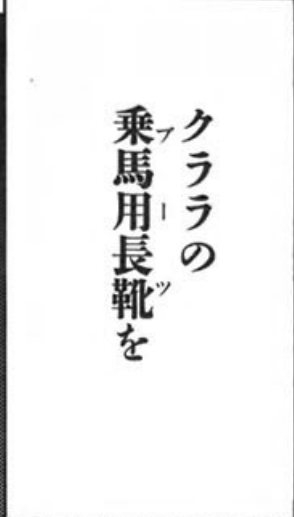
鱗一郎の
目から



顔の
下の



また涙が
ほとばしって



クララの
乗馬用長靴を



濡らした

この災厄に
際しても

なお変わらぬ
恋人の愛情に
感激したのだ

物いえぬ身に
涙だけが
意思の
表明だった

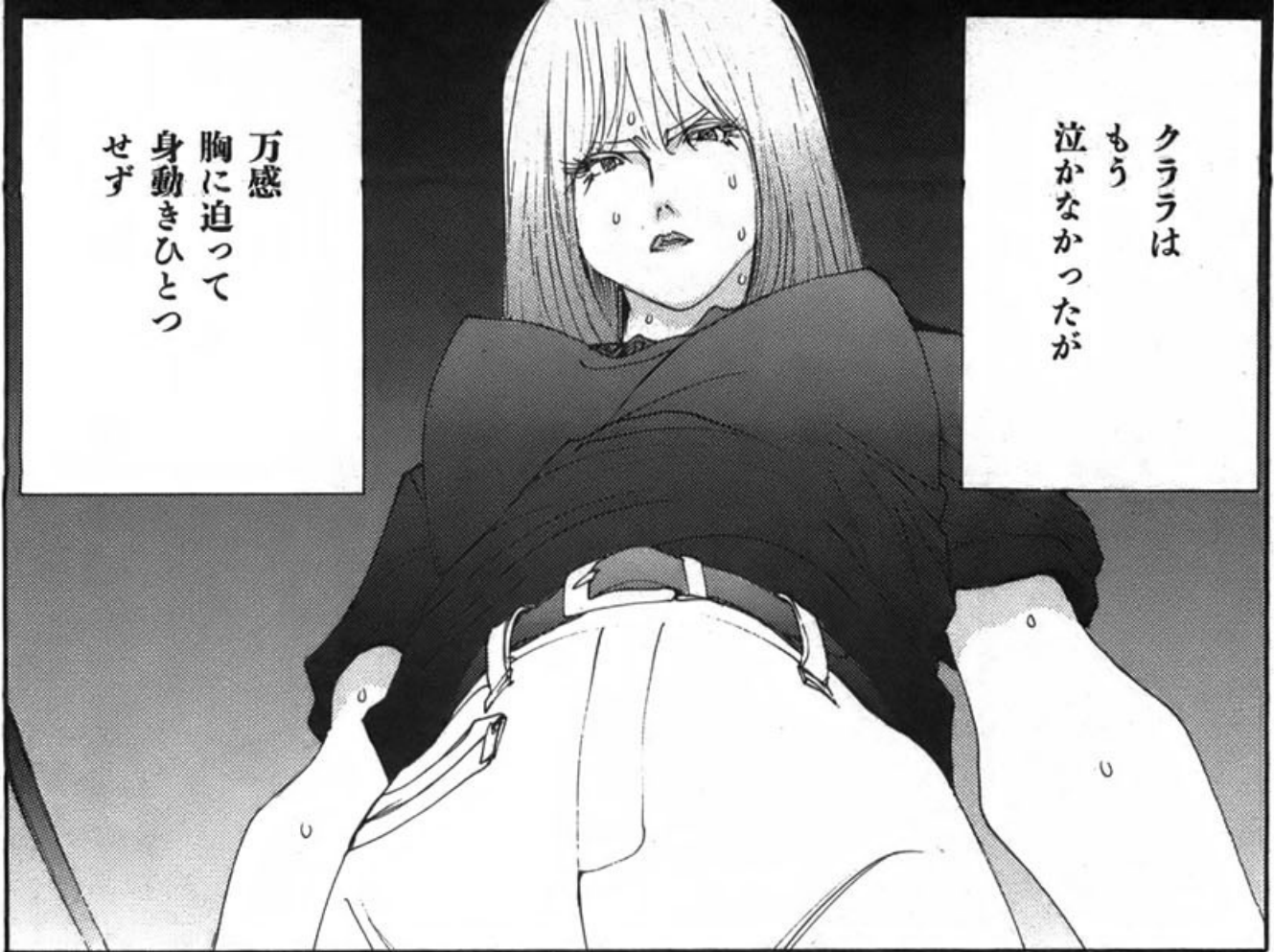
クララ
ありがとう

それでこそ
僕の未来の妻だ…



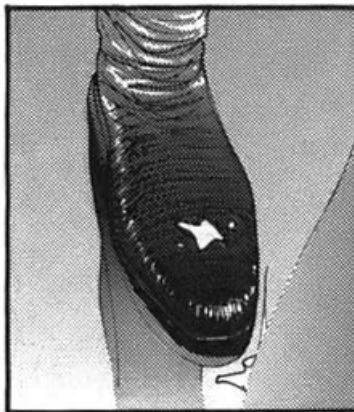
クララは
もう
泣かなかつたが

万感
胸に迫って
身動きひとつ
せず



涙で洗われて
ゆく
靴先を
黙って見つめた

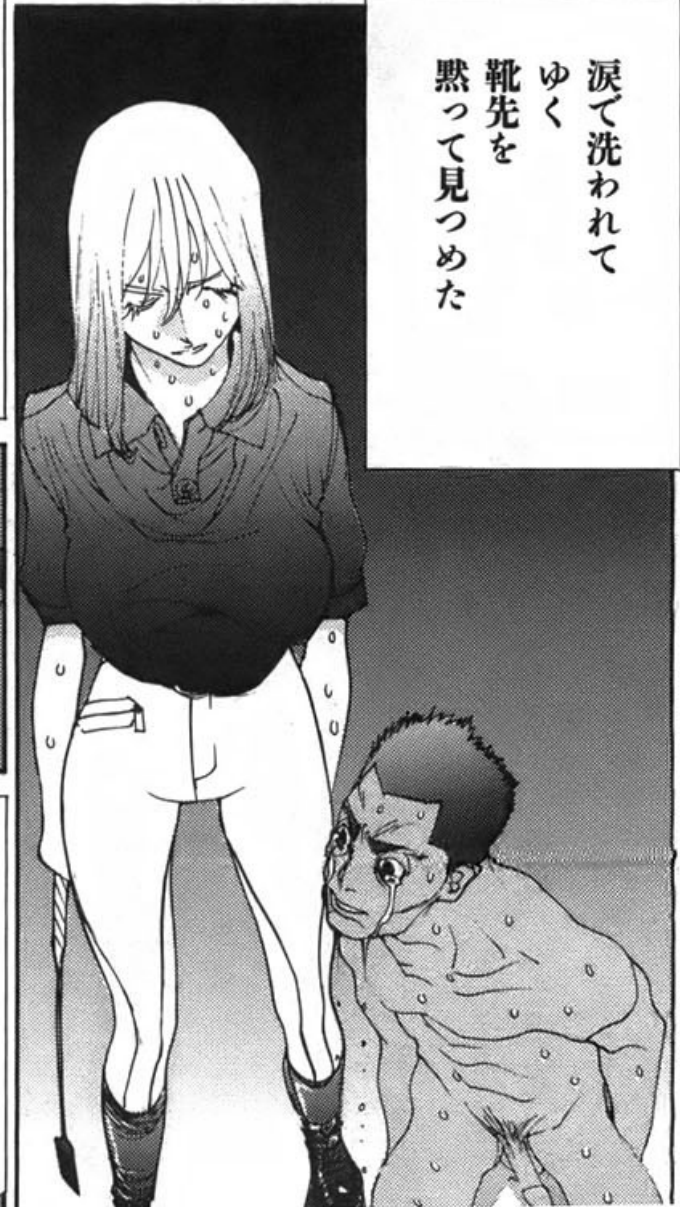
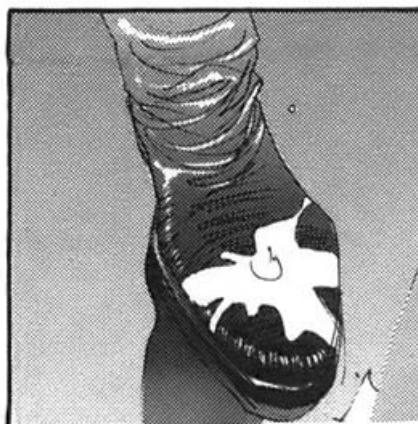
長靴の先は
塵埃をかぶって
いたが



鱗一郎の涙が



それを
洗い流すのだった

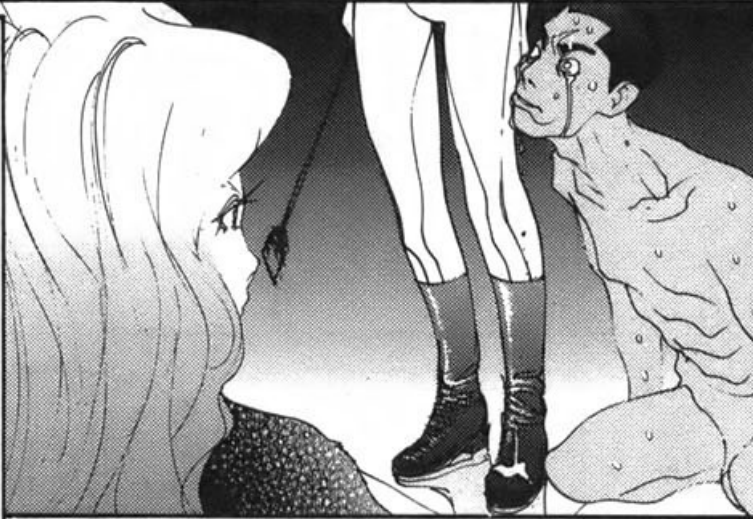


二人が抱擁・接吻した
時には
目をそむけた



ポーリン
だったが

今度は
ごく平静な
気持ちで



それを
ながめていた

靴を
ヤプーの涙で
洗わせる光景は



イースでは



珍しくないの
である

すべて
騎乗に際し



その
乗用畜に
応じて

一定の服装を
要求するのが



イースの
風習だが

鞭じら



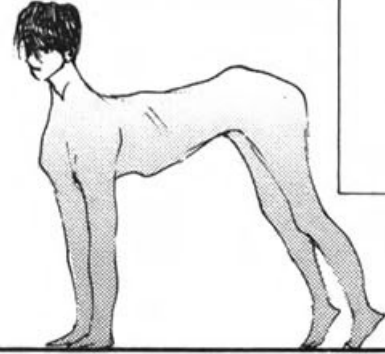
長靴



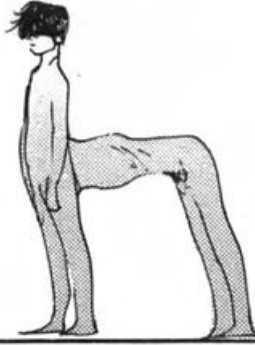
手袋については
特に厳重で



馬や



セント
馬形双対ア



に騎のるときには

※犀さいからシャムボクshankを取るよう
して畜人馬しゆくじんばの巨大なpadから作る

乗馬ホース・ウイップ鞭



乗馬革長靴

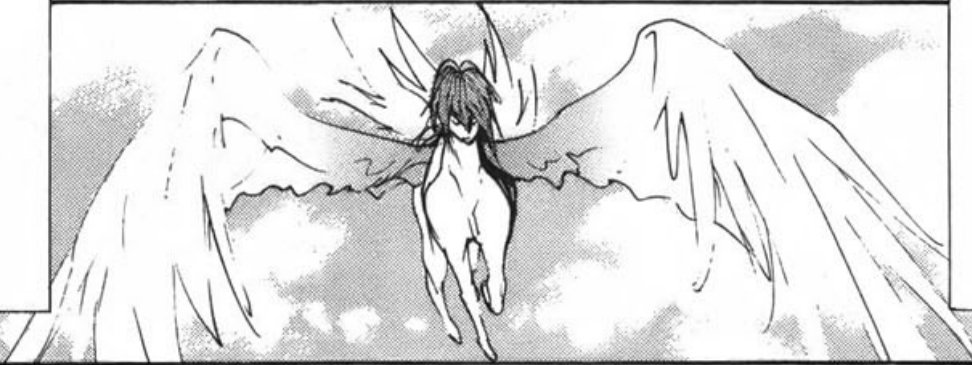


乗馬手袋を



※いずれもヤブー皮革から作る

ベガス
天馬に



騎のるときには

※舌去勢した天馬の舌触手を干して作る

ベガス・ウイップ
天馬鞭



天馬長靴



天馬手袋を



※いずれも天馬皮革から作る
後者は当歳仔のやわらかい皮を使用する

それぞれ
着用することに
なっているのだ



ところで
この天馬皮革は



涙で



光沢が
良くなるという
性質を持っていた



ただし
涙といっても

嬉し涙

悔し涙

苦痛の涙

皆成分が
異なるので



天馬皮革に
効くのは



痛覚が
涙腺を刺激して
分泌させる
特殊の物質

苦痛素
「ドコロゲン」

を含んだ
癒さの涙に
限るのである



人間の涙でも
いいのだが

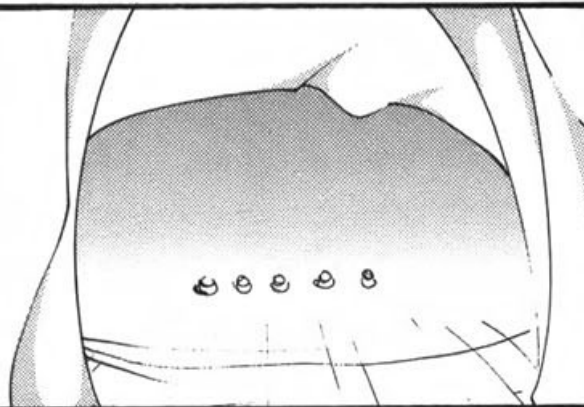
人間を
そんなことには
使えないから

ヤブーを
泣かせるのだ



そこで
貴族の邸宅の
玄関に飼われる

シューズ
靴道具畜
一揃いの
中には



靴奴くつぬぎ

捧靴奴くつもち

舐靴奴ごみとり

磨靴奴等ブララシ

と並んで

洗靴奴がつやだし

欠くことのできぬ
ものになっていた



鞭打ちで

皮膚の
末梢神経を
刺激してやると

鞭数に
応じて

涙を
出し

靴を洗う

ポーリオン自身は
面倒くさがって

ベガス・ライオン
天馬騎乗の
後でも

使わないことが
あるが

ドリスは

ポロ競技の
後では



必ず
これを
使い



つやだし
洗靴
奴を
前に

ひざまずかせ



ピシピシ
鞭をくれて

丁寧に

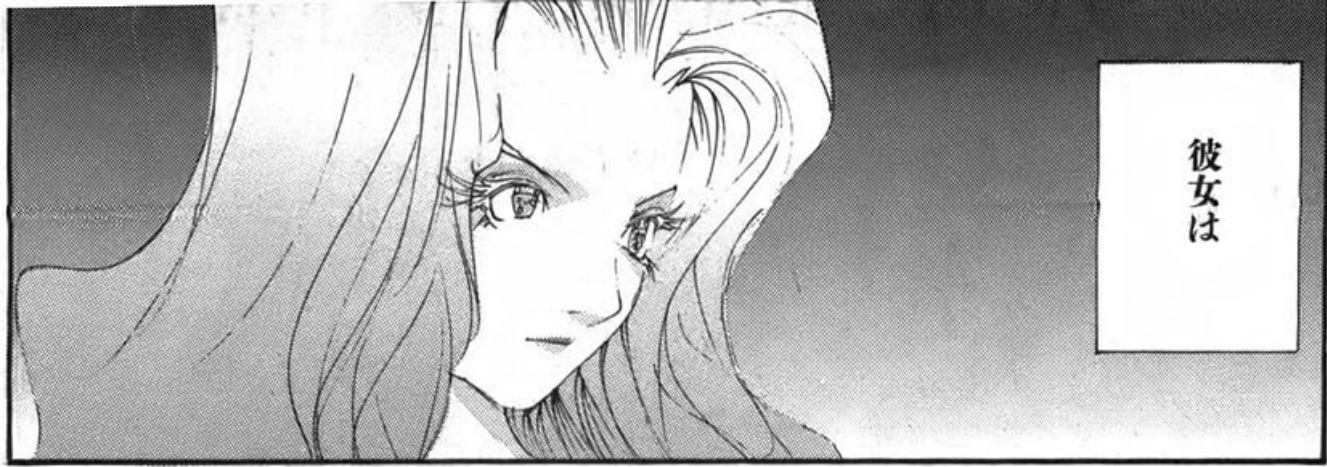
洗わせるのが

常だった

だから
鞭を握って
足元のヤブーの
涙に濡れる靴を

見おろしている
乗馬服の令嬢に





彼女は

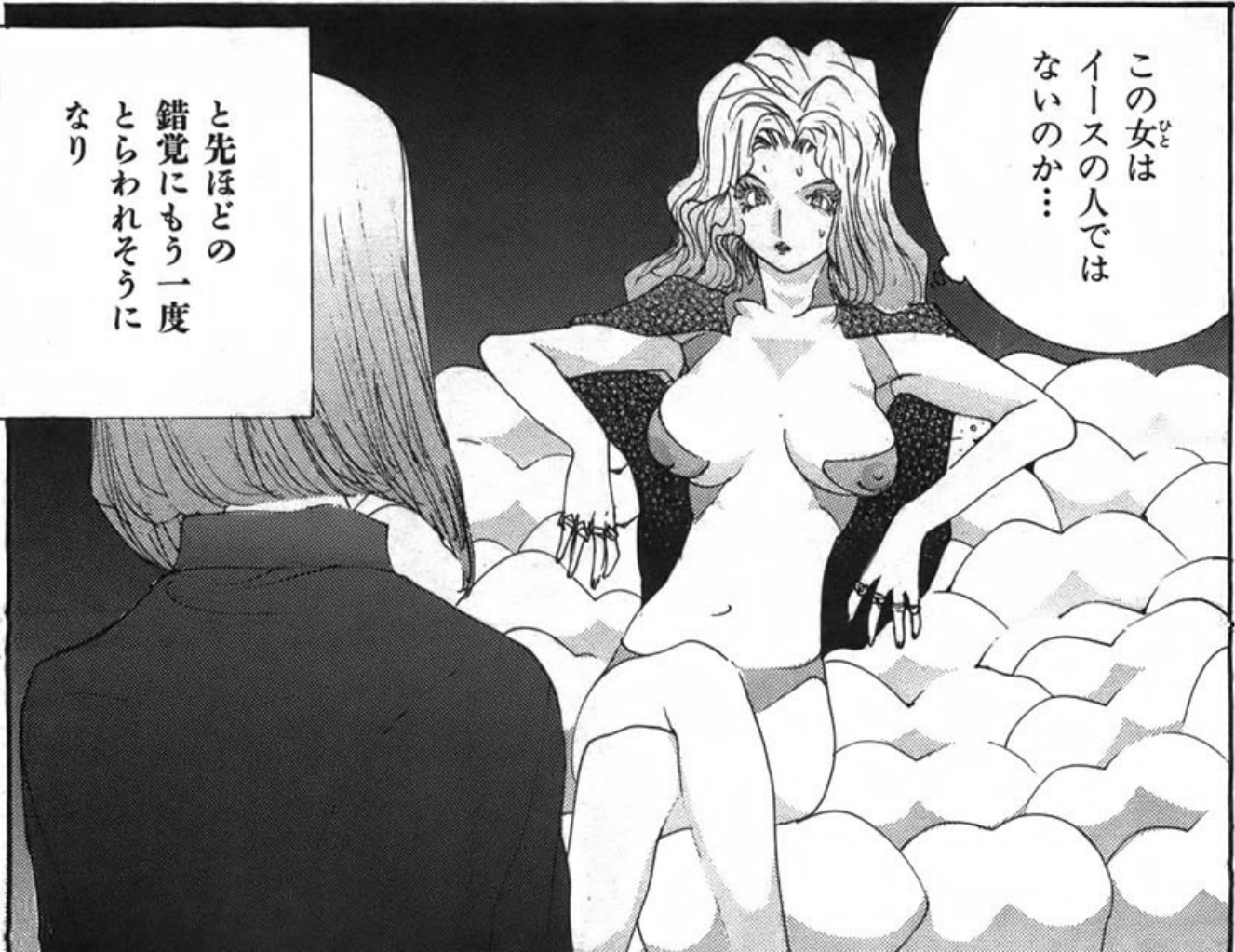


ふつと



見慣れた妹の
姿勢ポーズを思い浮かべ

以前一緒に
暮らしたころの

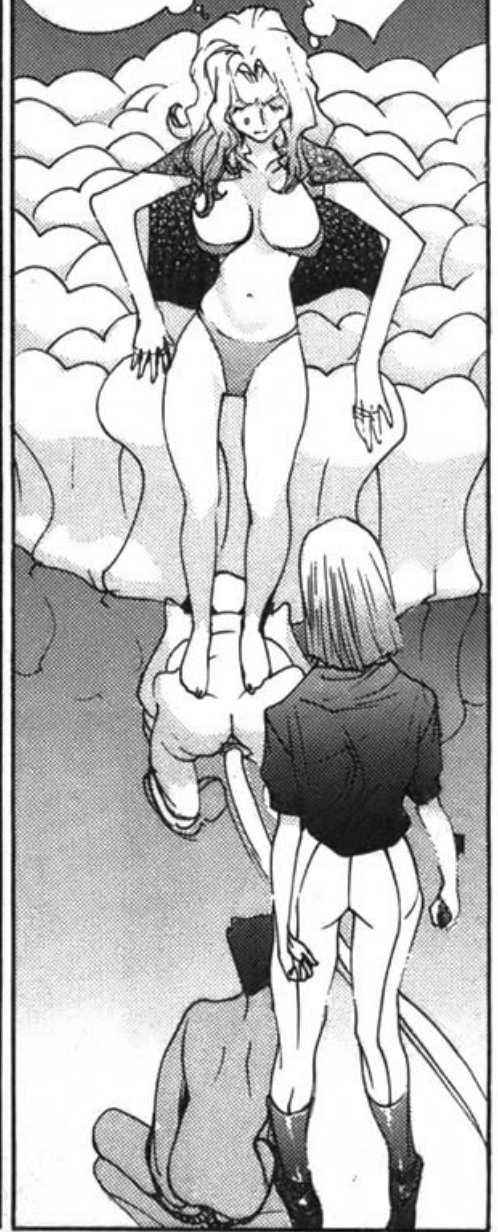


この女ひとは
イースの人では
ないのか…

と先ほどの
錯覚にもう一度
とらわれそうに
なり

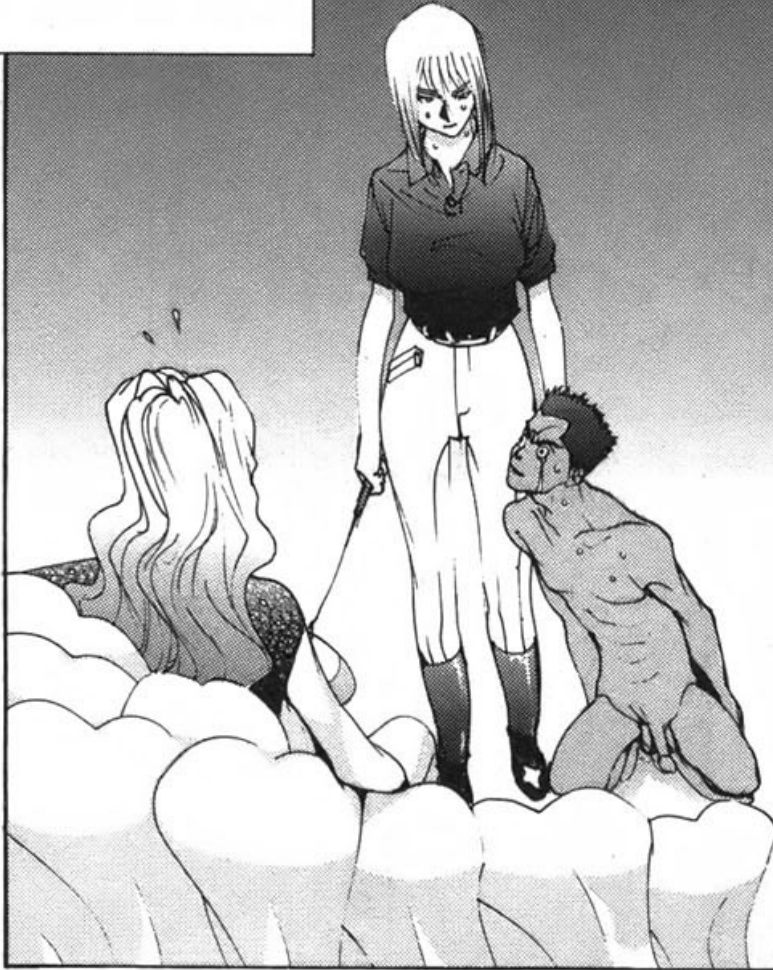
いや
ちがう

この鞭や
長靴は…



あわてて鞭や
長靴が
天馬騎乗用のもので
ないことを確認して
打ち消したくらいで

その光景自体には
何の不自然さも
感じなかったの
である

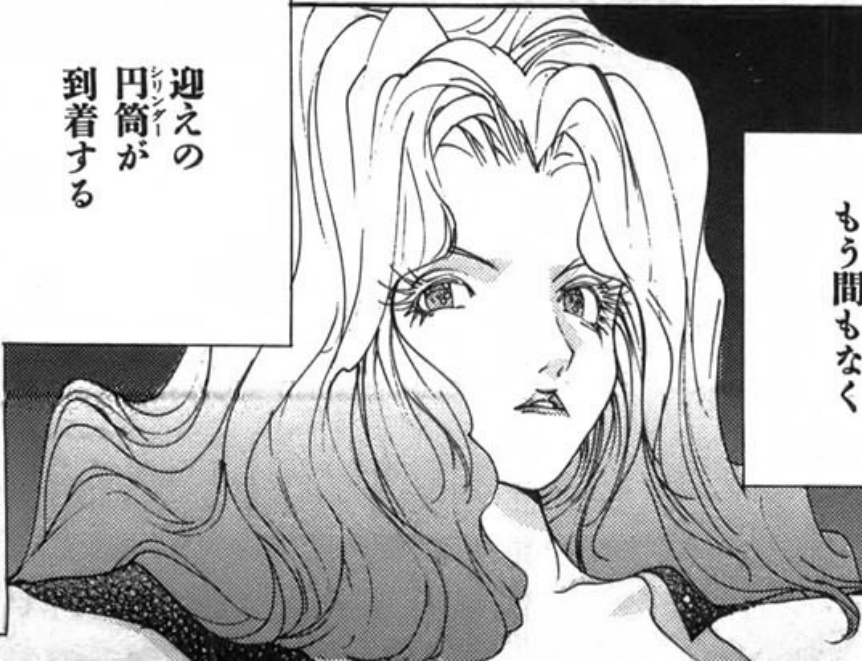


考えて
みると

もう間もなく

迎いの
円筒が
到着する

時刻で
あった





皆様で
お出かけ

とさつき
言っていた
から

ドリスだけ
ではなく

兄や弟も
乗って来るの
だろう



そう思って
ポーリーンは
立ち上がった



着替えて
おこなければ

空気
の存在する
惑星は



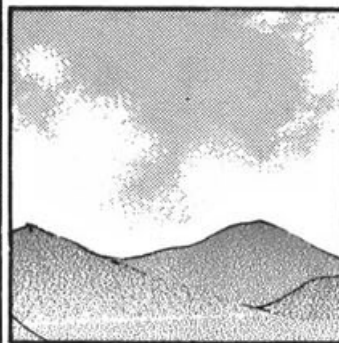
いづれも
完全な
大気調節に
よって



人間の生活を
快適ならしめて
あったが



四季の区別は
わざと
従前どおり
残されている



地球面は
目下
秋であつたが

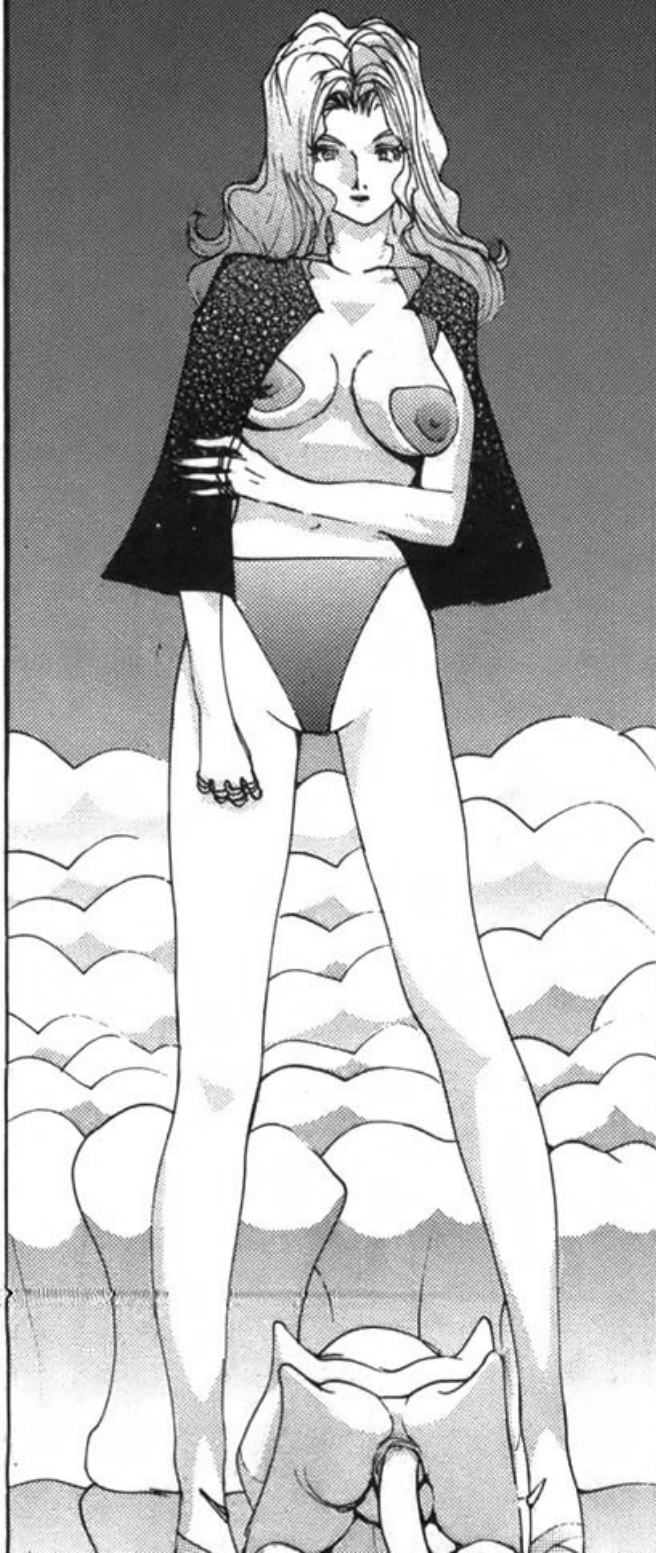


円盤の中は
暖かくして
あつたので



ポーリーンは

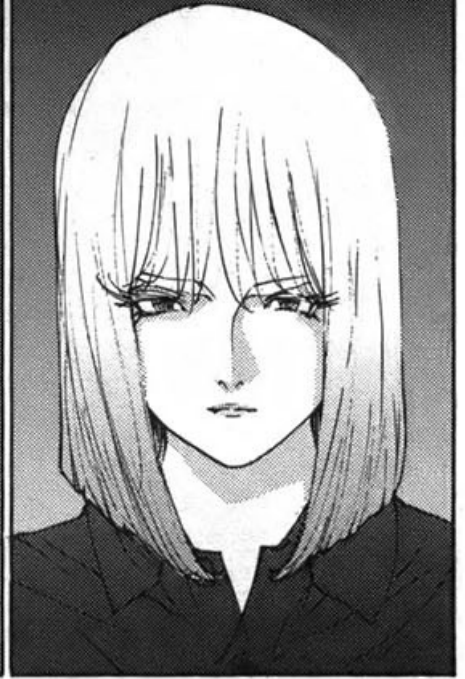
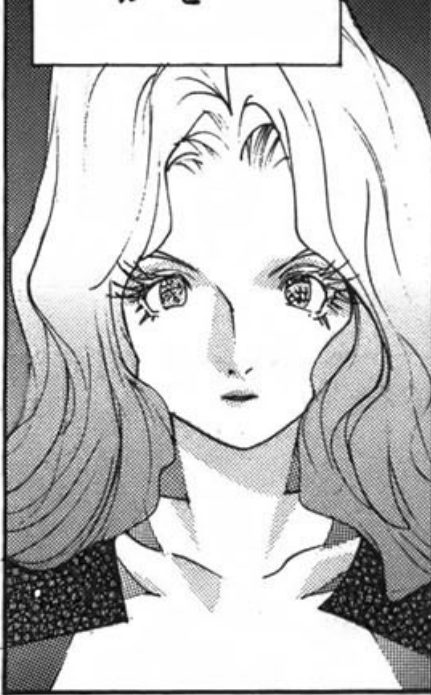
下着にケープだけ
羽織った軽装でいた



クララは
おんな
同性だし

麟一郎は
ヤプーなので

この略装で
べつに彼女は羞恥を
感じなかったのだが



兄弟にせよ
男性の前には

こんな
裸に近い
格好では
出られない

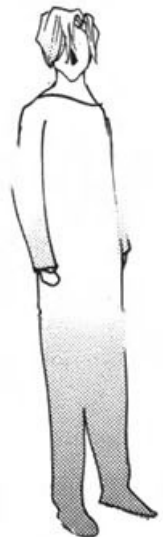
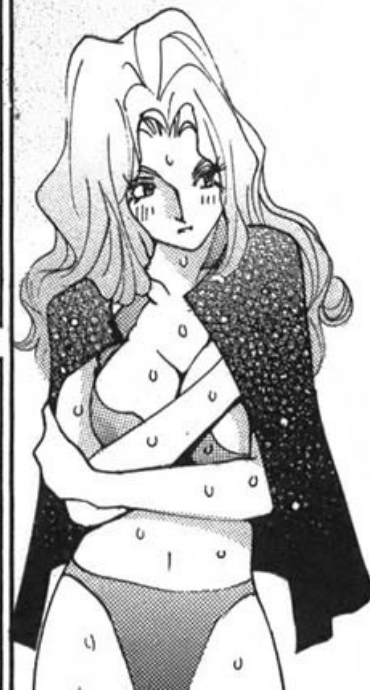
屋敷でなら
黒奴に命じて



着替え
させる
ところだが



この円盤の
中では
自分で着替えねば
ならないのだ



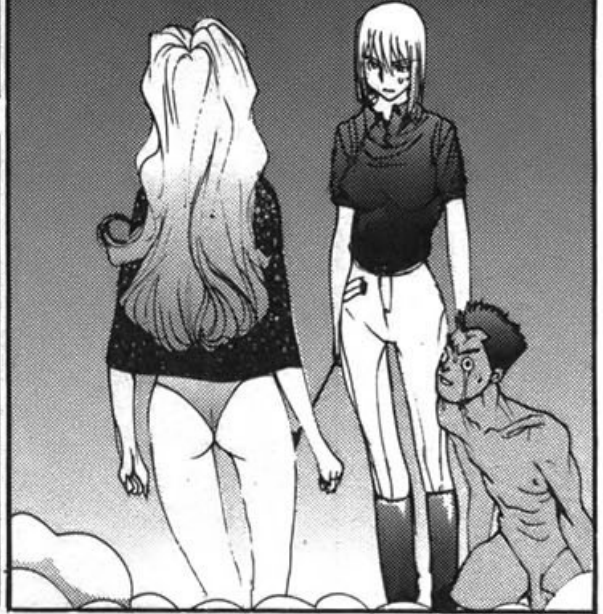
立ち上がりざま
クララのほうを
見ると

彼女は
額に汗を
かいている



夏物の
乗馬服だが

この部屋では
暖か過ぎるのだ



それに
その乗馬服も

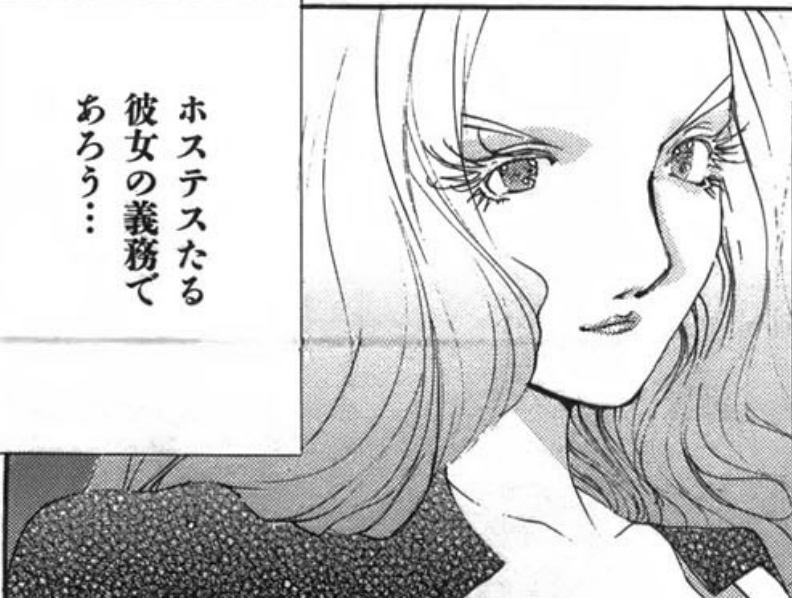
ポーリーンの目には
服地の悪い貧弱な
ものとしたか
見えない



招待した
お客様なんだから

妹たちの目に
みつともなくないように
してあげるのが

ホステスたる
彼女の義務で
あろう…

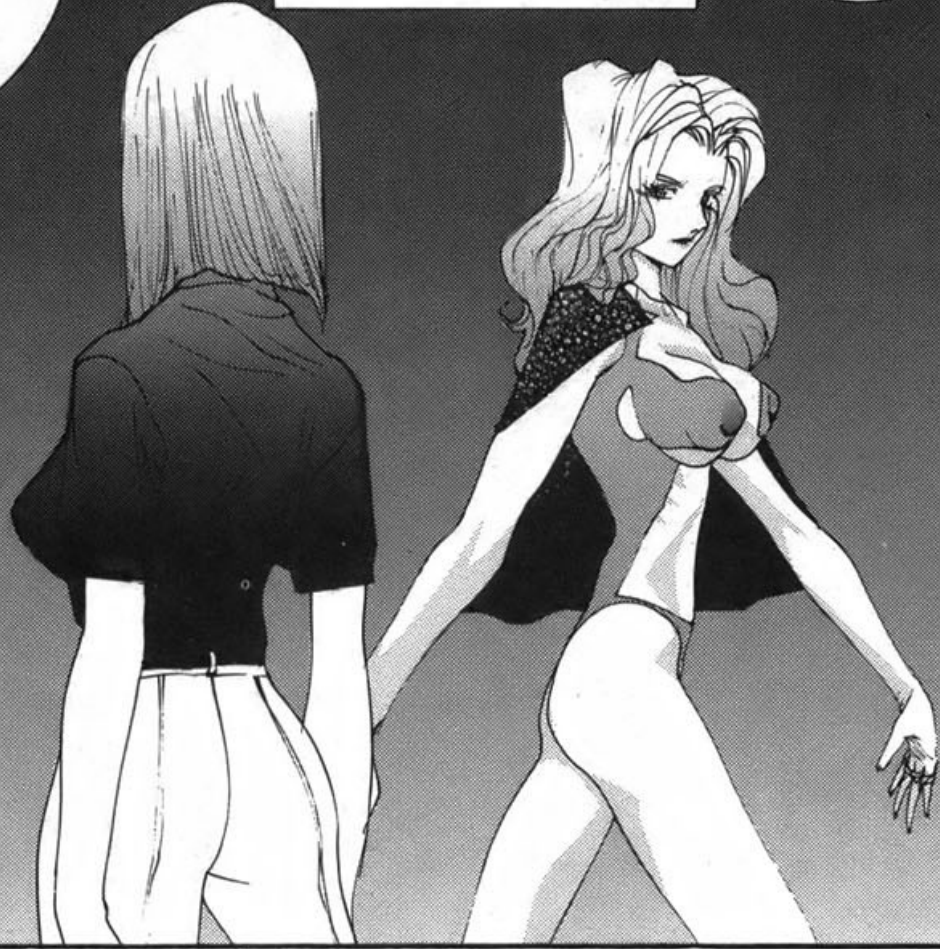


クララ嬢さん

と苗字でなく
名前で
ポーリーンは
呼びかけた

お着替え
なさい

こちらへ
いらっしやい

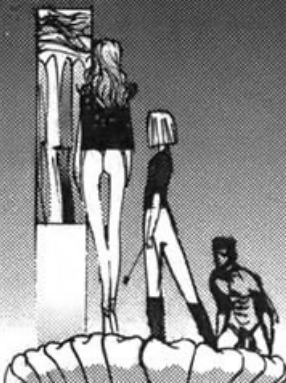


その声には
命令することに
慣れた人に
特有の

抗い難い
調子があった

ポーリーンは
長椅子とは
反対側の壁の
ほうへ近づいた

すると
何かボタンでも
押したのか
壁が割れて
衣装棚が現れた



貴女に
似合うか
どうか？

まあ
しばらくの
ことだから

どれでも
いいのよ

そうね

これになさる？

そうそう

あなた
貴女には
下着も
いるわね

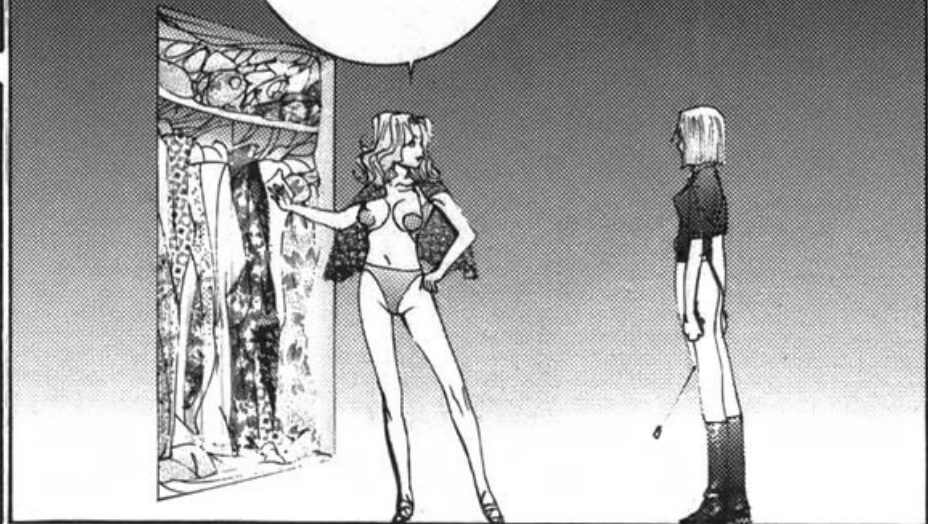
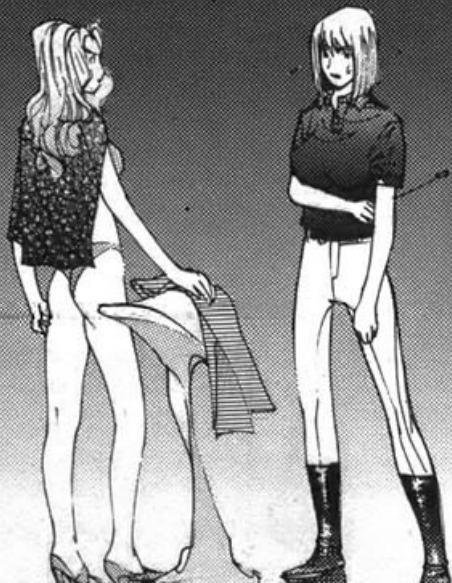
使っていないんだから

気持ち悪く
なさらなくとも
いいのよ

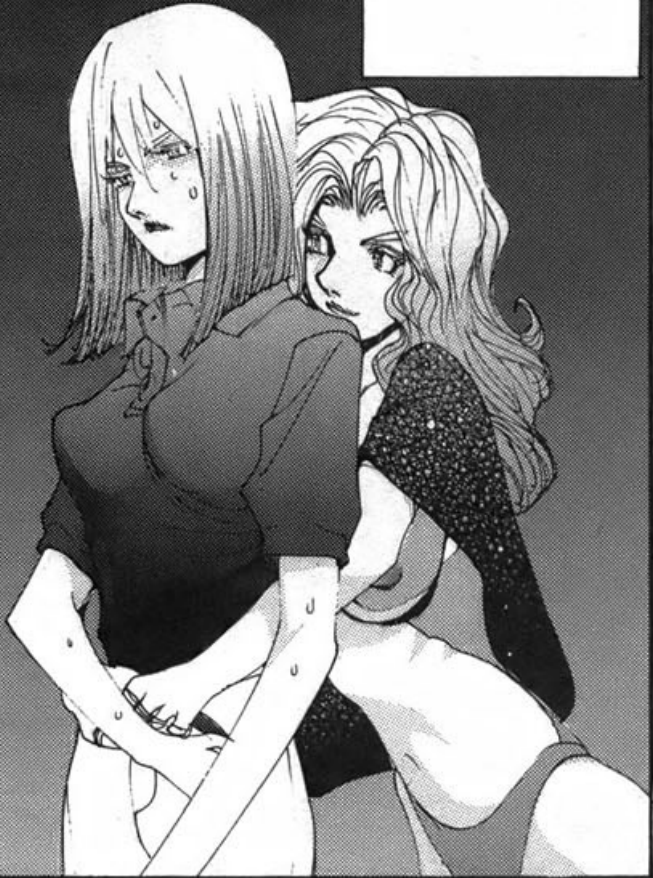
ポーリーンは
一揃いのスーツと
それから下着
ストッキングを取り出すと

はい

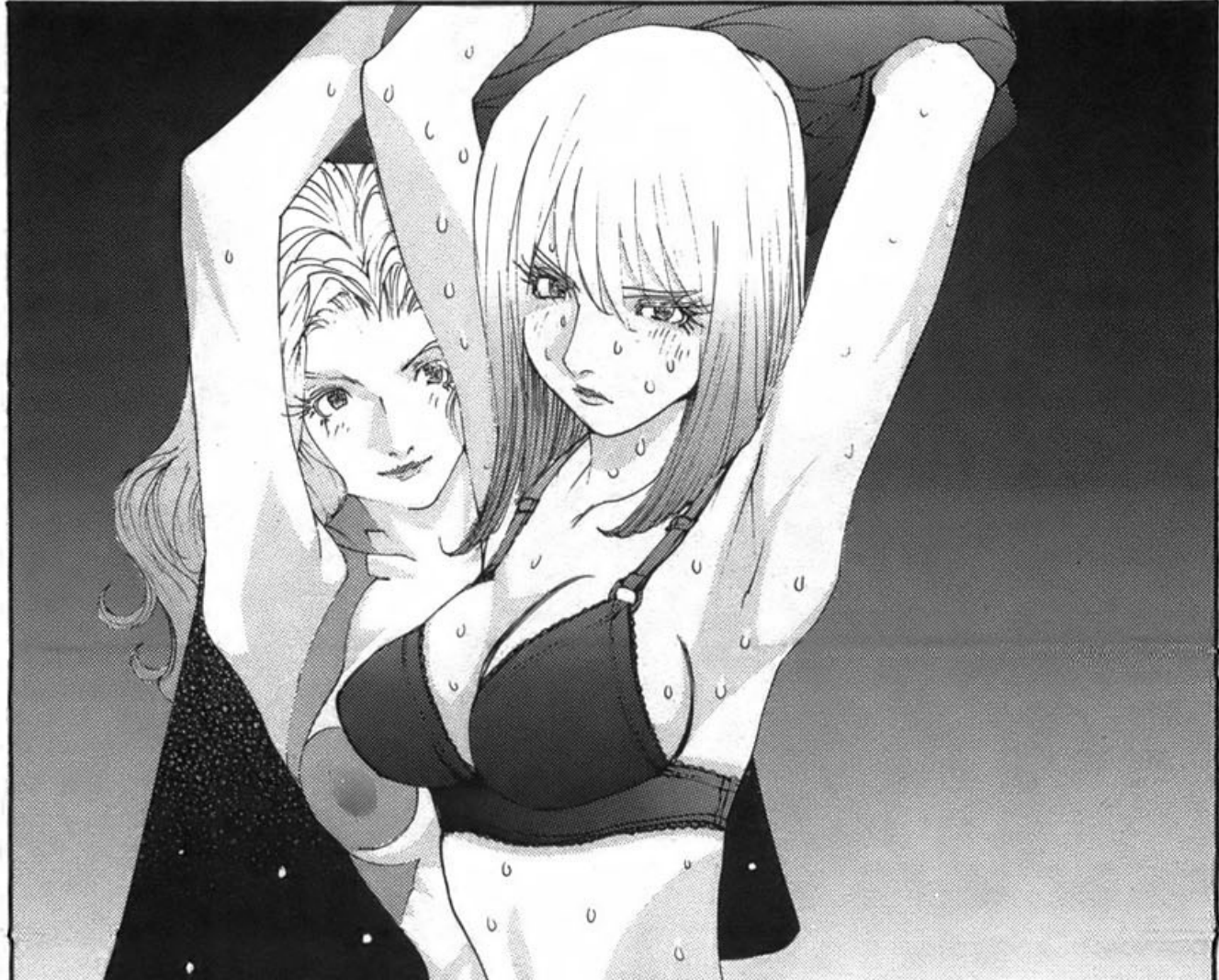
これ

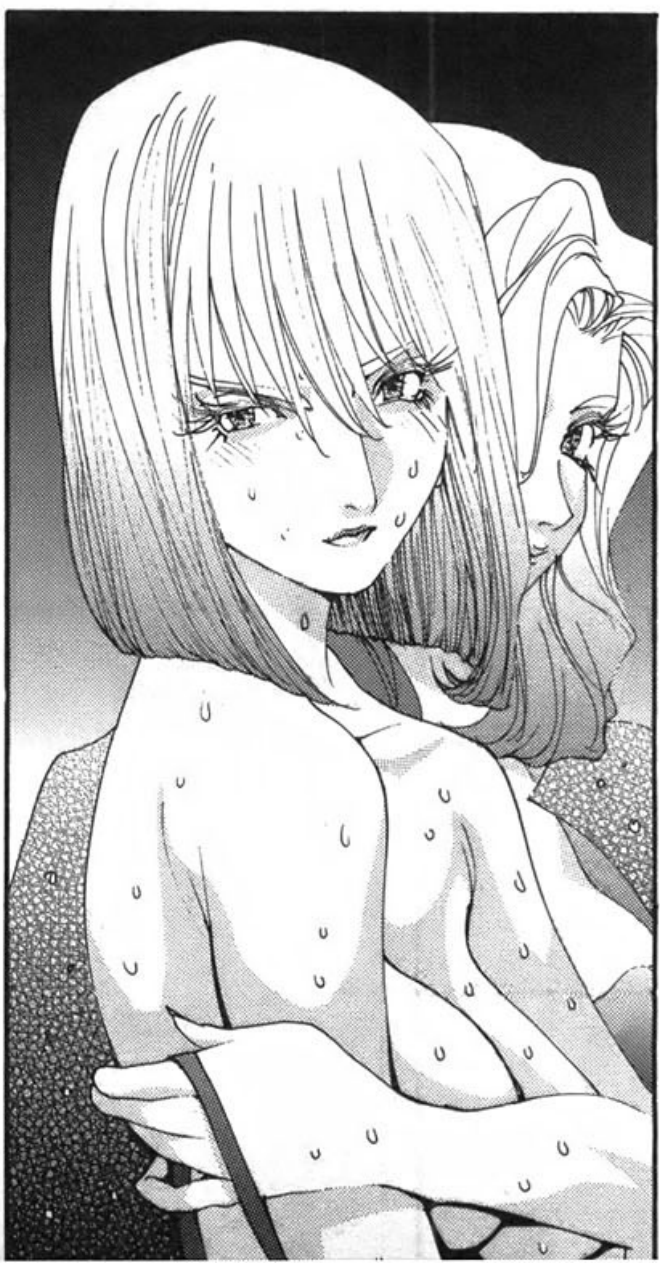
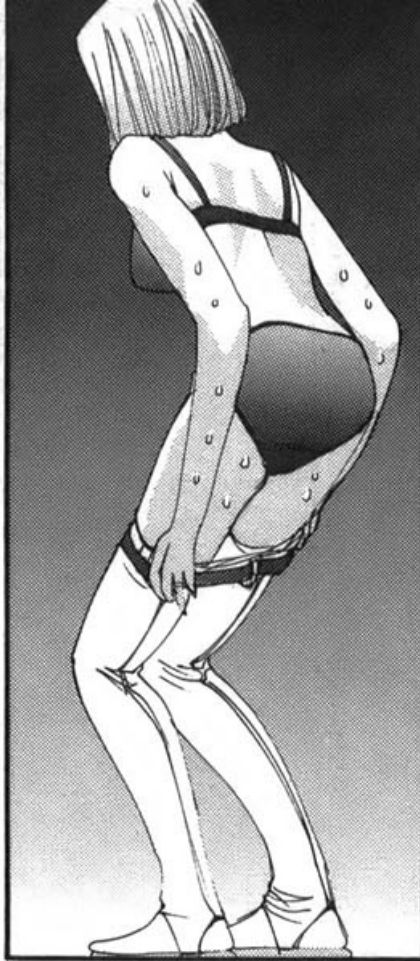
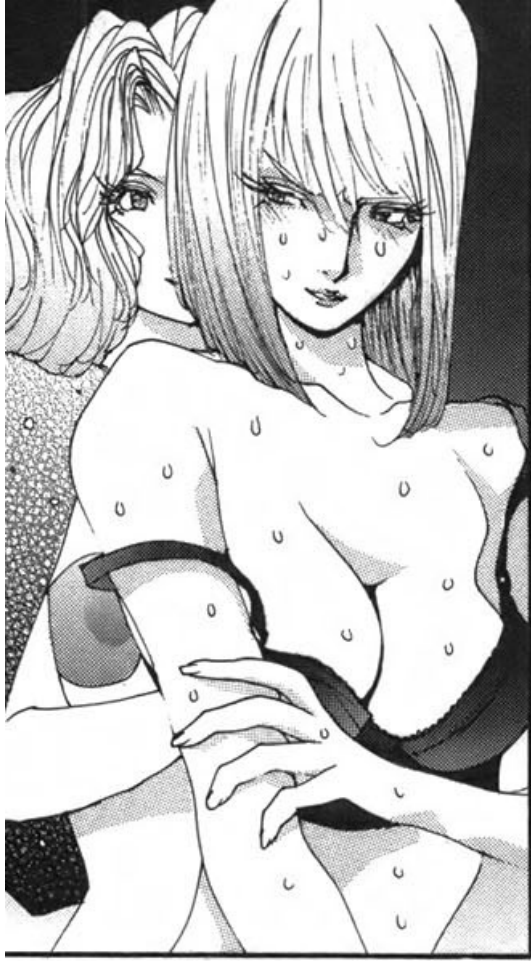


着ている
物を



恥ずかし
がっている
クララを
急ぎ立てて

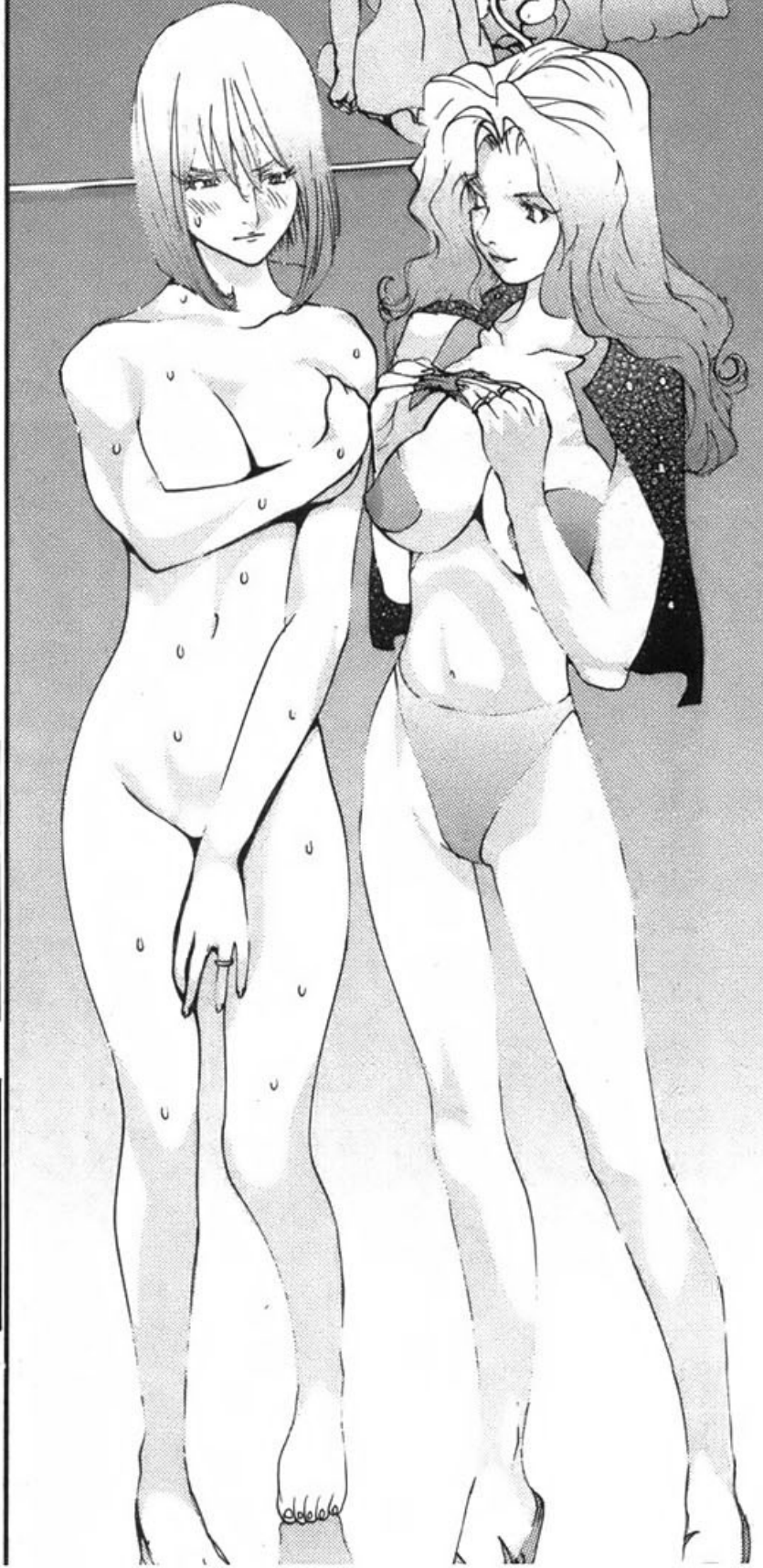
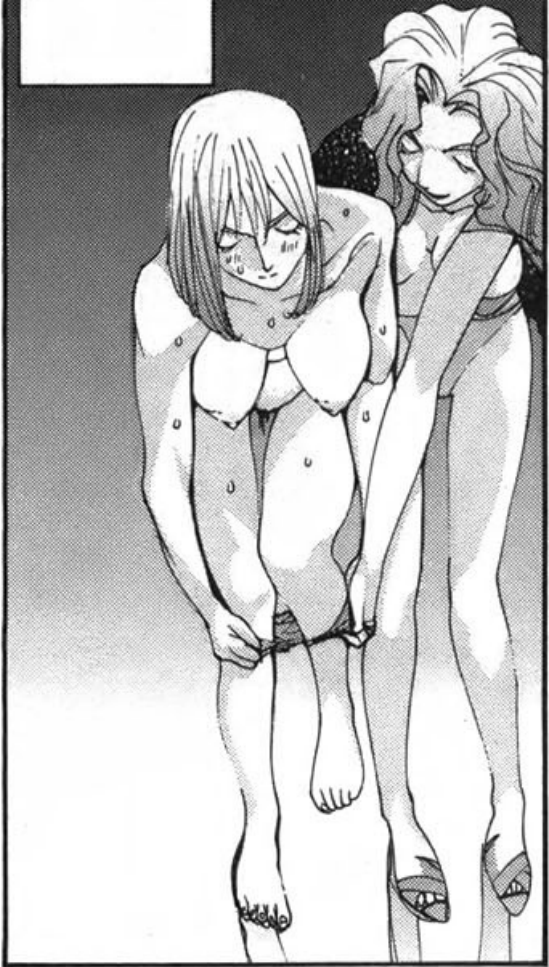




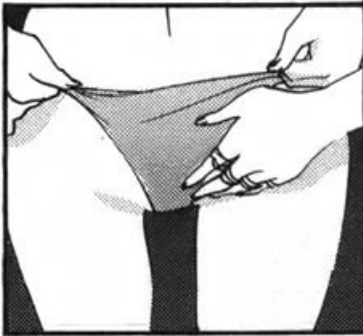
すっかり脱がし

下着の
着方から

手を取って
教え始めた



パンティーも



ブラジャーも

その他の下着も
縫目がなかったが



どれも
伸縮自在で

ピッタリと
体に密着し

今まで
どんな下着からも
味わったことのない
快適な
肌ざわり



ストッキングは
絹でも合成繊維でも
ないようだが

もっとずっと繊細で
透明で

太腿まで
引き上げると

やはり縫目がなく



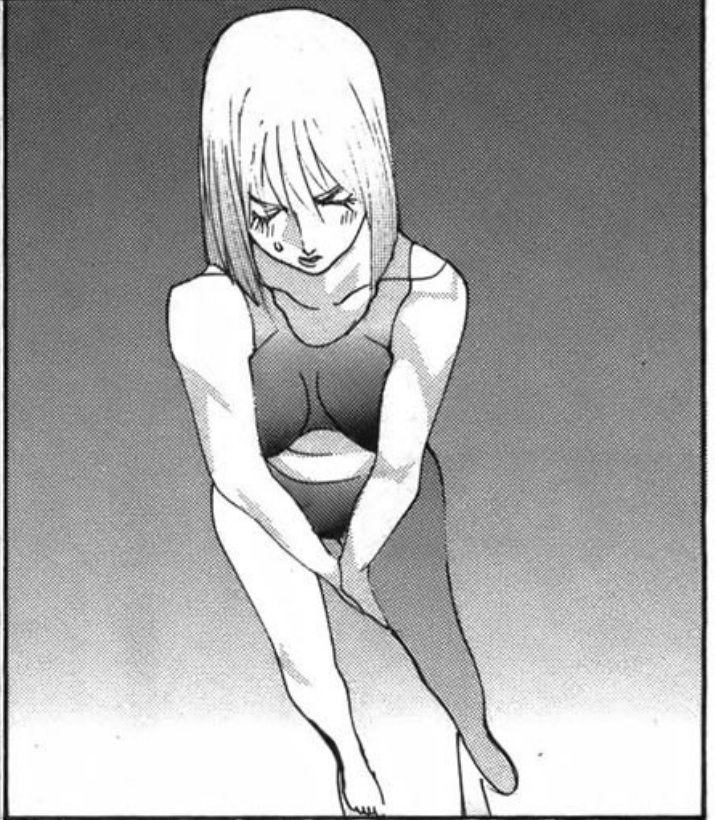
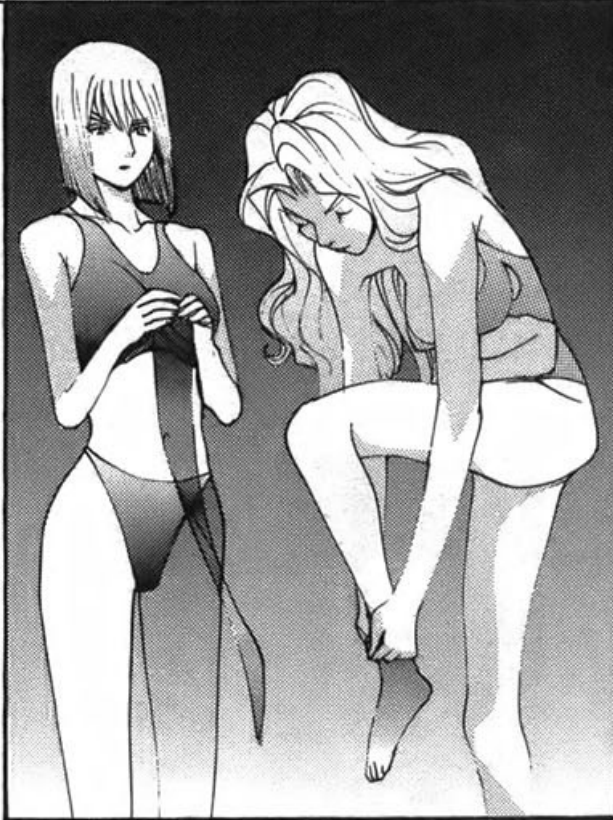


パンティーと
くつついてしまった

ほとんど穿^はいている
ことを意識しない
穿き心地

パンストというものの
存在しなかった
時代からきた妙齡の
女性にとっては
夢^{ゆめ}の靴下であった

ポーリーンは
ケープを脱いで一見
コンビネーション風の
変わった
下着だけに
なっていたが
自分もクララにならって
靴下を穿いた



そのとき
彼女は

クララの

足指が
五本とも
爪を
戴いている
ことに
気づいたが



何もいわなかった

裸になることを
恥ずかしがっていた
クララも

下着を着てしまい
靴下を穿いてしまうと
しだいに大胆になり



若い女性らしい
服飾への好奇心に
駆られ始めた

スーツは
彼女が今までに見た
どんな婦人服とも
違っていたが

しいていうなら

ブラウスと
上着と
細身のズボンの
三揃いに
なっていると
いえばよからうか

その服地は
聞いたこともない
微妙な織物で
下着と同じように
七彩の幻光に
輝いていたが

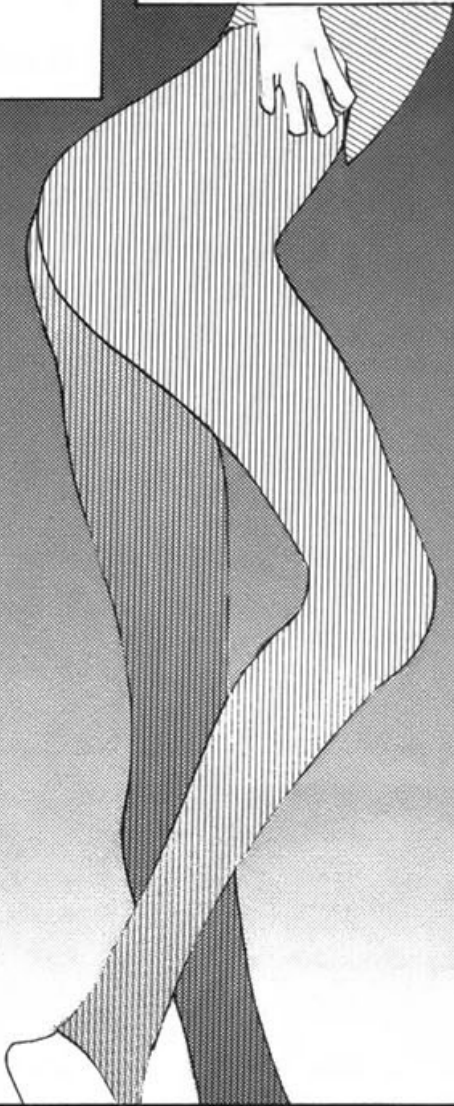


地の色は
ブラウスが
白



やはり
縫目らしい
ものがなく

縮みや釦や帯の
代わりに
布地自体の伸縮力に
頼っている仕立てであった



上着と
ズボンが

茶を主調
にする
縞柄しまがらだった



自分も
セーター風の

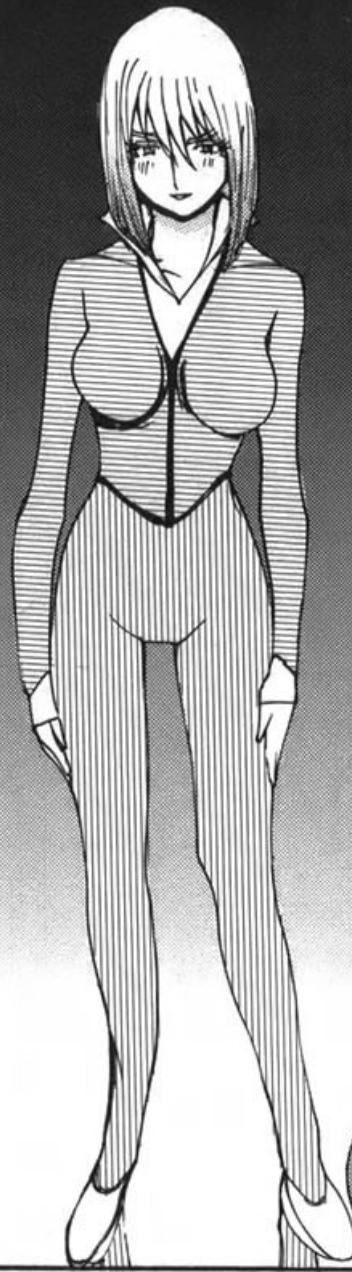
桃色の上着と

紺の
ズボンを着けた

ポーリーンは



着終わった
クララを見て

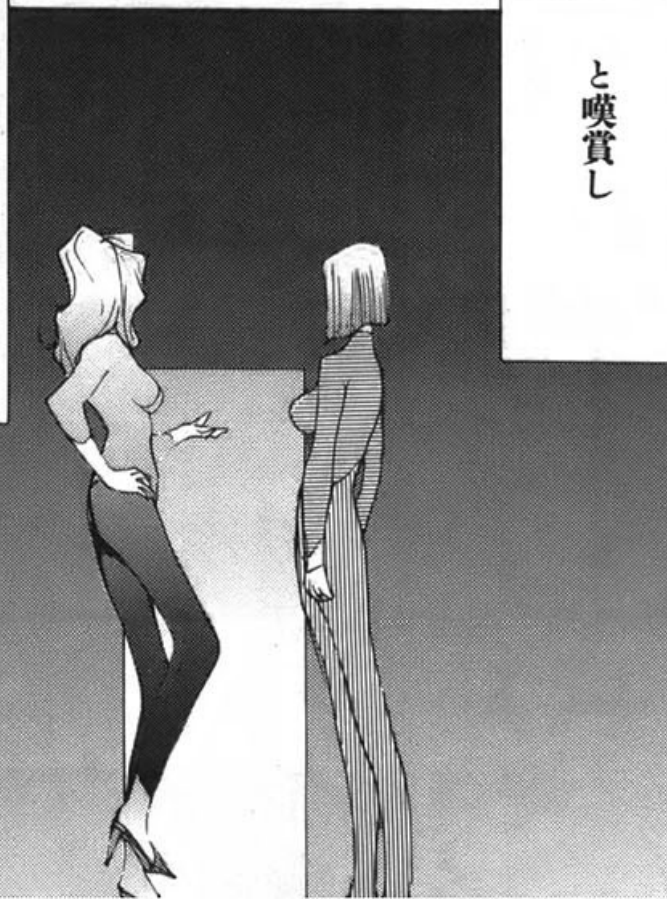


まあ

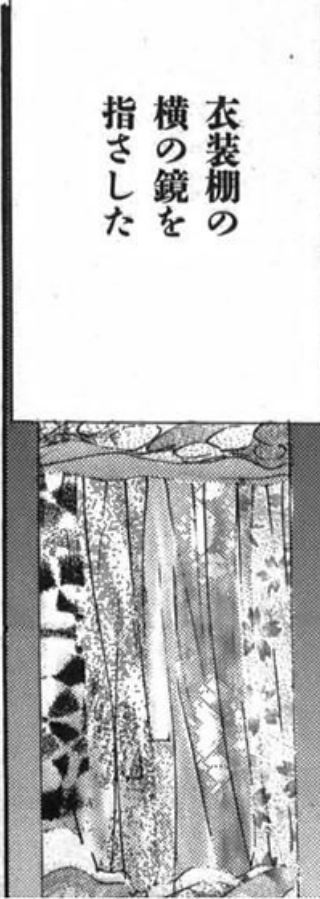
思ったより
よく似合うわ



と嘆賞し



衣装棚の
横の鏡を
指さした



クララが
そのほうを
見ると

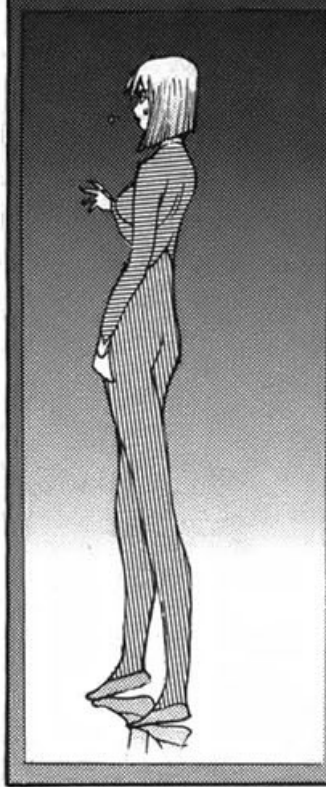
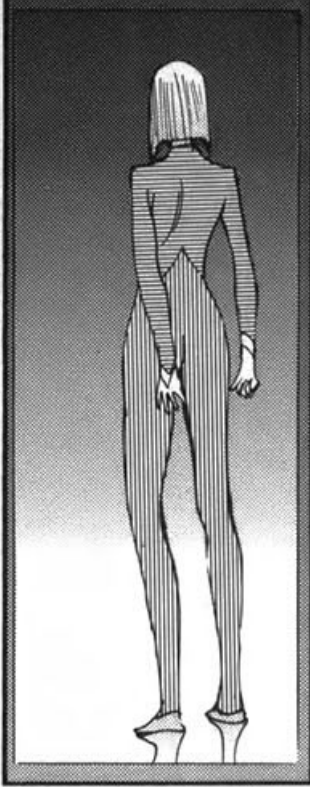
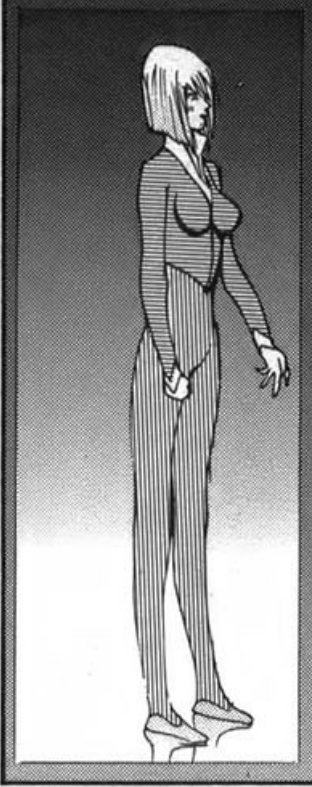
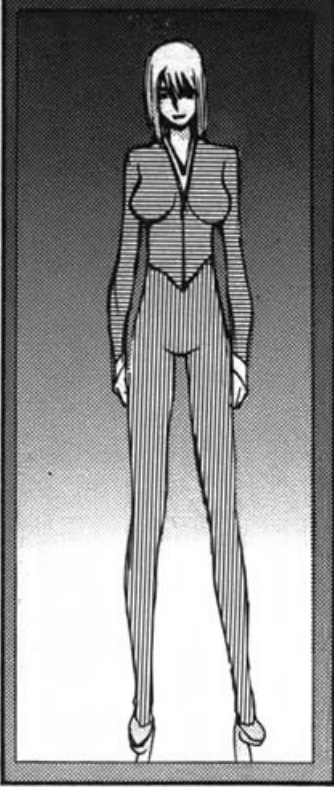


どういう
仕掛けがあるのか

初めに正面から
彼女の像が
映り

鏡自体が
クララの体を
一回りするように

横から背後から
そして
横からの像を
映した



今まで
自分の知らなかった
美しさを

彼女は
感じた



この瞬間には
新しい衣装への
関心のために

一時にも
せよ

彼女の心から
麟一郎のことが
忘れられていた



次に靴を
出してくれた

中ヒールの
パンプスで

何の皮革か
ゴムのよう
に伸縮し



とても軽い



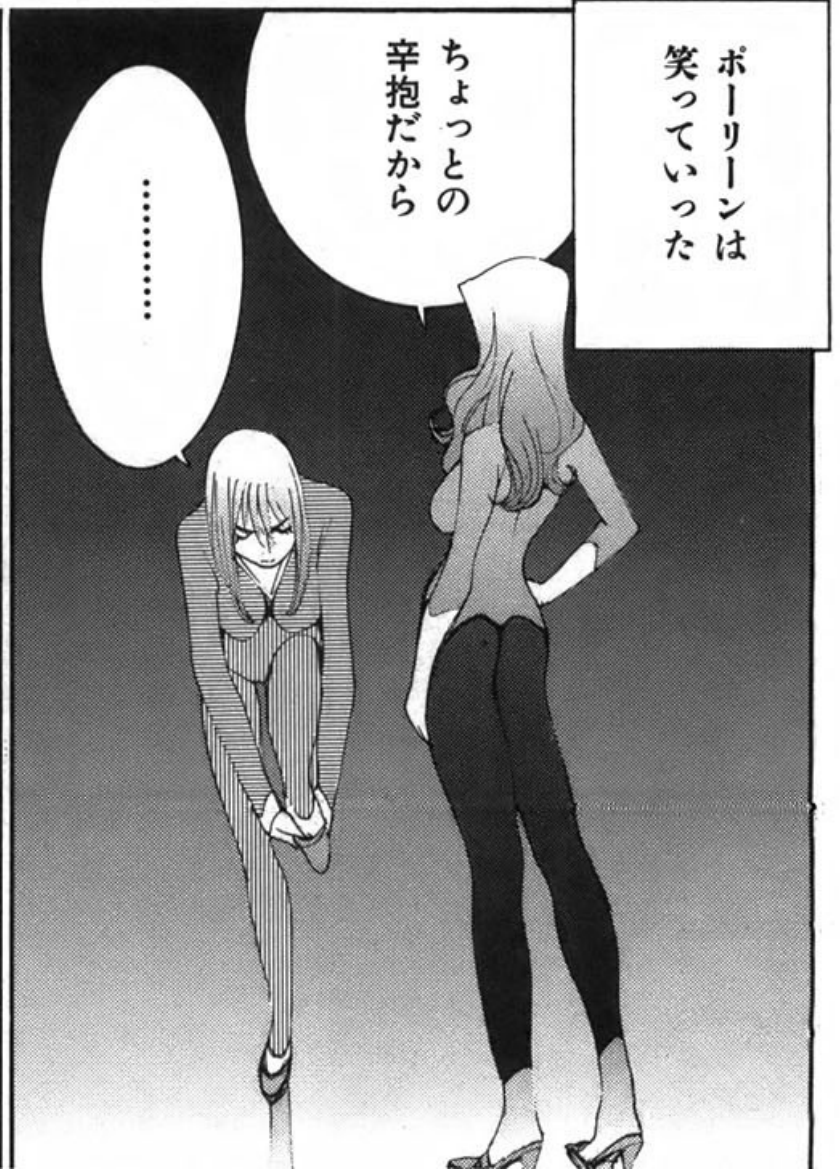
少しきつ目だが
履けぬ
ことはない



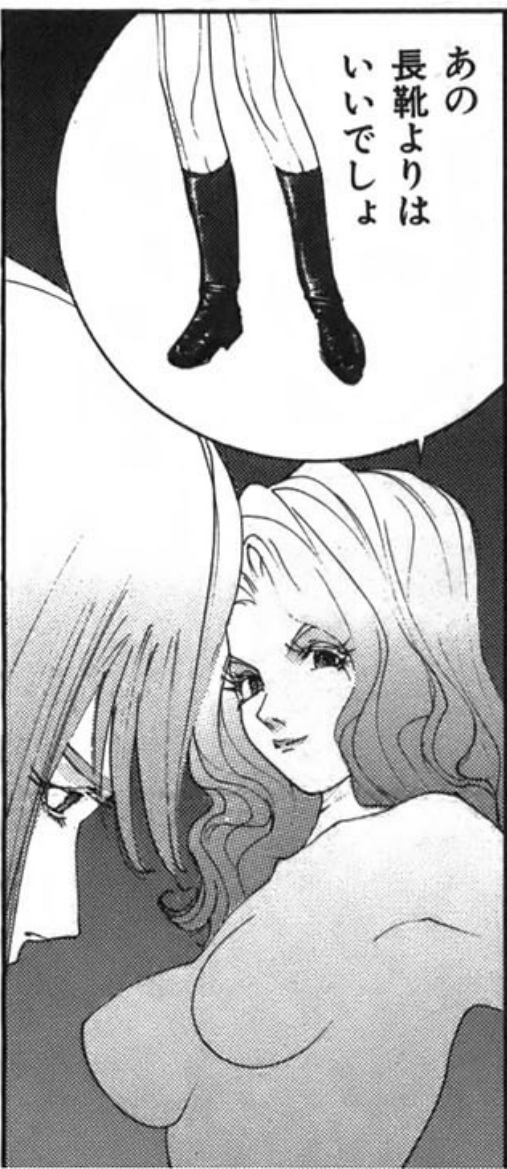
ポーリーンは
笑っていった

ちよつとの
辛抱だから

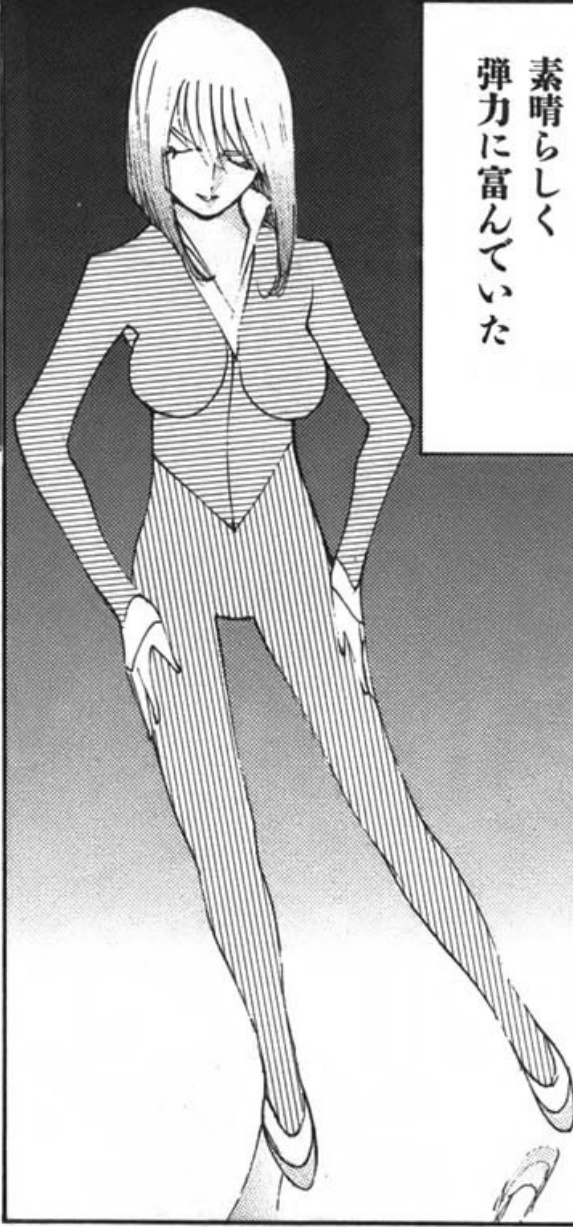
.....



あの
長靴よりは
いいでしょ



底革は
素晴らしく
弾力に富んでいた



クララは
何も気づかずに
その履き心地の
よさだけを感じたが



実は
彼女の足裏は



フランク・クッション
足裏布団の

肉体を
踏んでいたの
だった

ポーリーンの
打ち解けた
態度に
急に気やすさを
感じた
クララは

先ほどの
息詰まるような
緊張が
終わった後



急に
我慢できなく
なってきた

尿意を

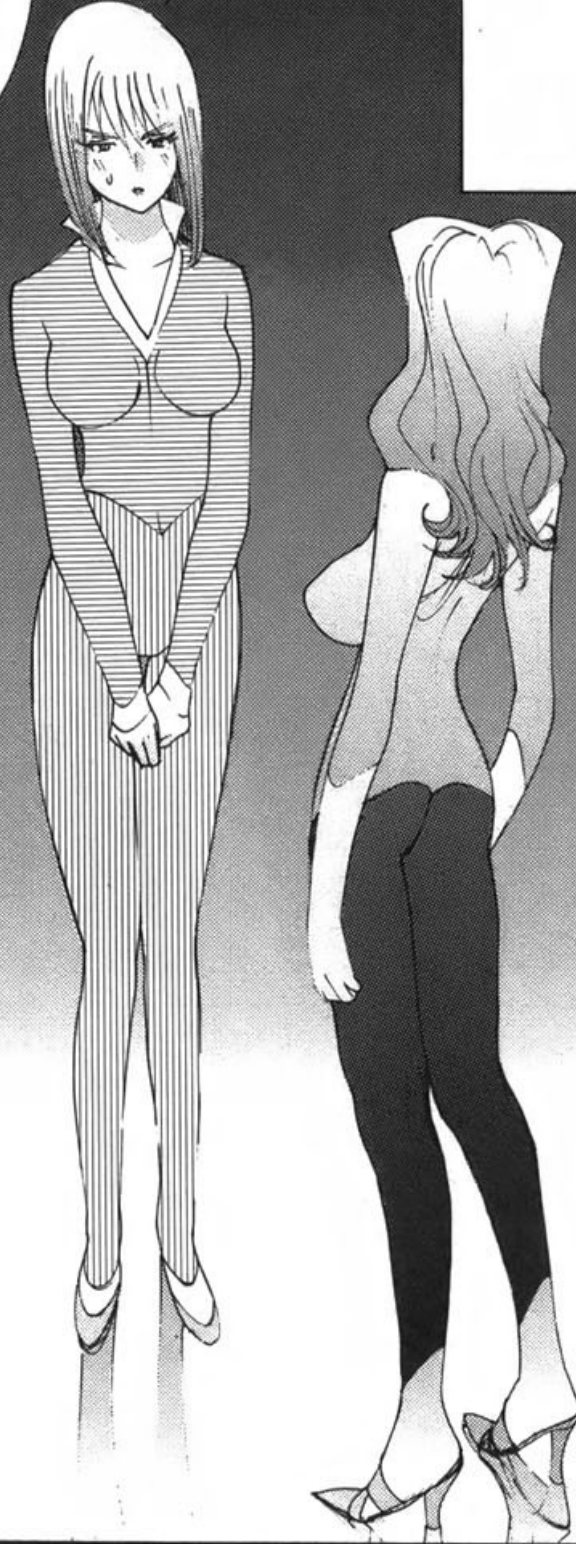


便所の所在を
尋ねること
解決しようと
した

あの

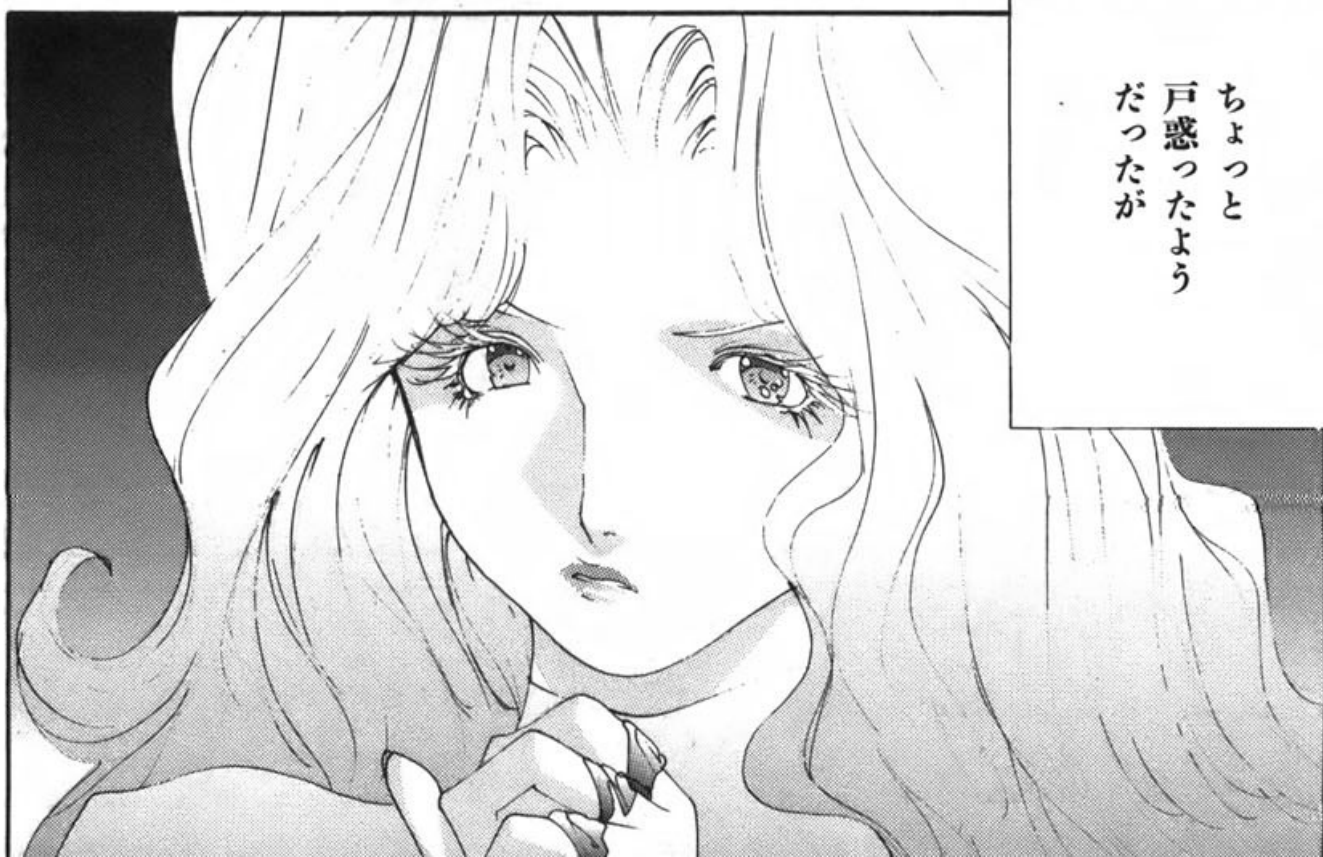
失礼
ですけど

お手洗いを…





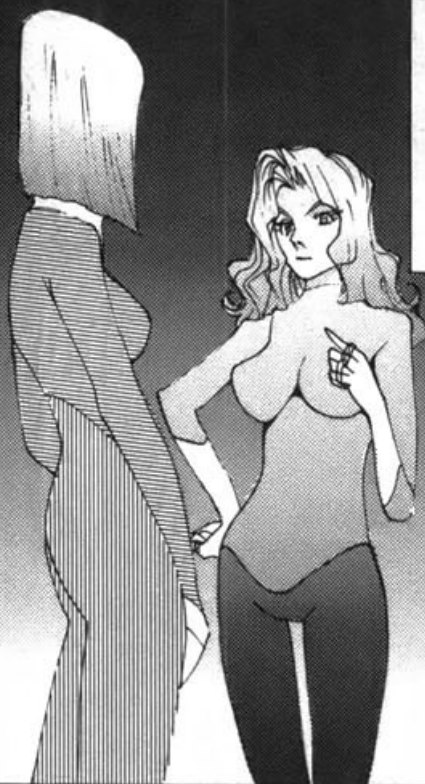
お手洗い？



ちよつと
戸惑つたよう
だったが

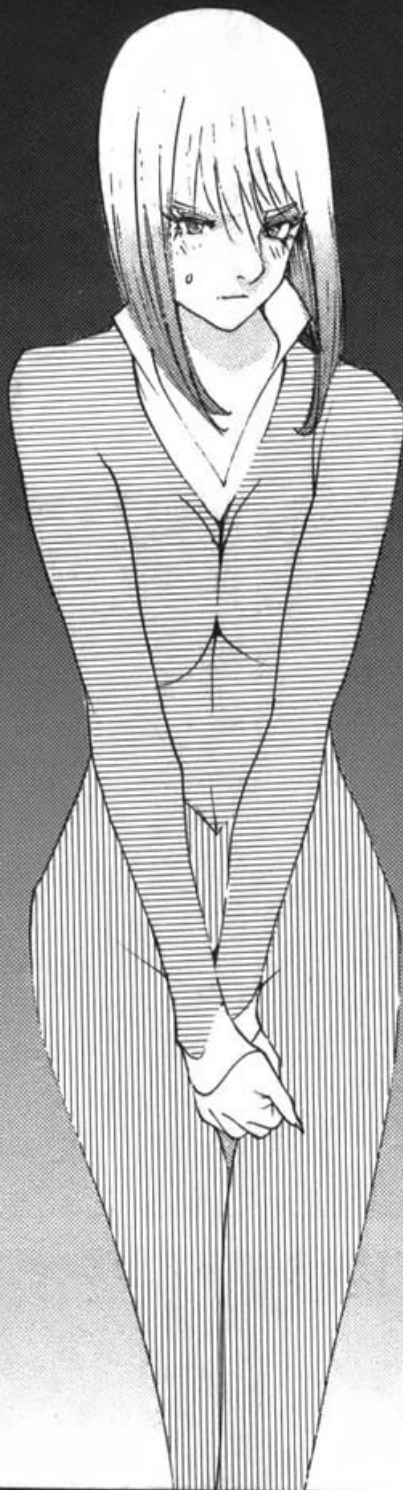
クララのもじもじ
した様子で

悟
つたら
らしい



しかし
変なことを
いった

あ…



脚・に・
触・れ・さ・せ・た・い
の・ね

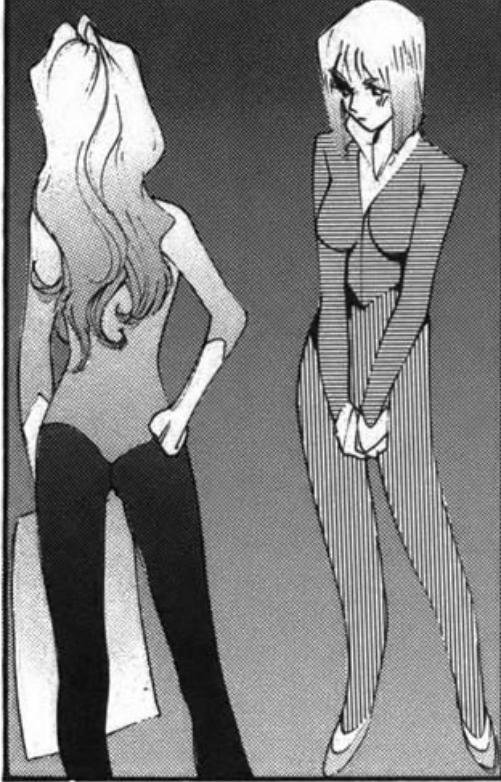
どうぞ



ヒュッ

と短く
口笛が鳴ると

すぐわきの壁の
今度は
低いところが
割れて



素裸の
奇形侏儒が

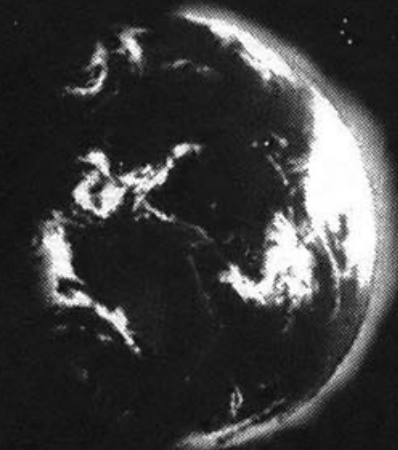
立ち現れた



happy

イースに
おける

排泄の風俗に
ついて



一通り
述べて
おくことに
しよう

二〇世紀人の
読者に対しては

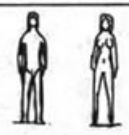
黒奴用の

バキューム・シユア
真空便管
(vacuum sewer) から
説明して

次に白人に
及ぶのが
わかりやすいだろう



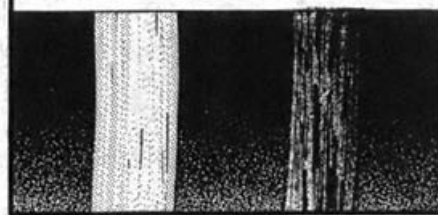
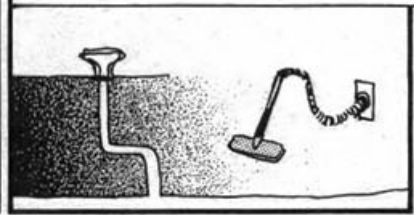
黒奴
排泄



バキューム・シユア
真空便管は
その名のとおり
バキューム・クリーナ
真空掃除機と
シユア
水洗便所下水道を
総合したもので

真空圧で
排泄物を吸引し
便管に集めて
送るのであるが

水を使わないので
水で薄められぬ
ままの尿尿が
管内を流れる点が
下水道と異なる

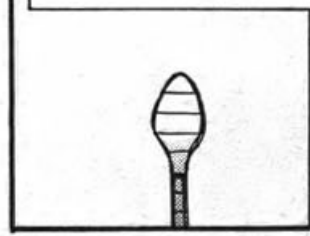
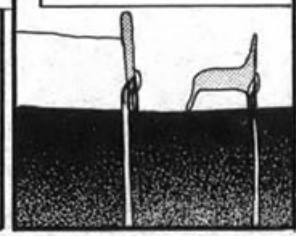
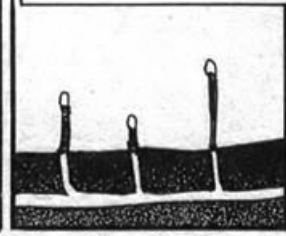
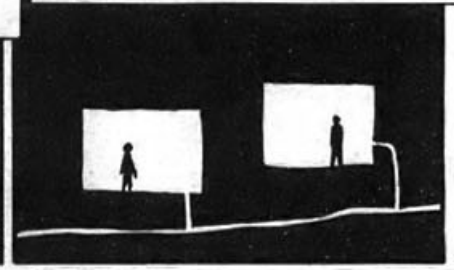


黒奴の住宅の
各室および
白人住宅内の
黒奴の私室には
この便管の支管が
敷かれ

さらに細管が分岐して
伸縮自在の
特殊ゴム管になって

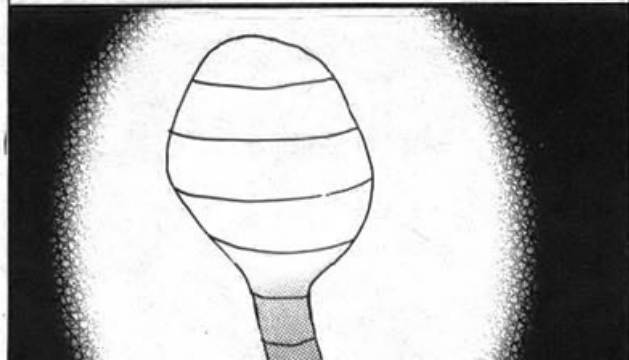
椅子の裏とか
寝台の側板とかに
伸び

コブラ
先端器という
部分で
終わっている



コブラ
先端部が
ゴム管より
太くなった形が
毒蛇コブラを
思わせるので

先端器は
コブラと
称ばれる



これが
黒奴の便器
である



だから
便所という
特別の場所は
ない



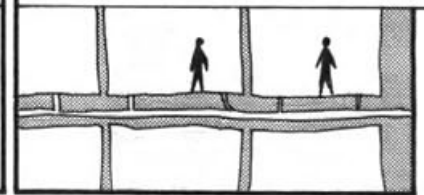
既に二〇世紀に
おいても
欧米の新住宅では
便所という区画は
なく



浴室に
便器を備えた
様式が増加
していったが



今では
さらに進んで
各居室の
便利な場所に
設備されている
ので



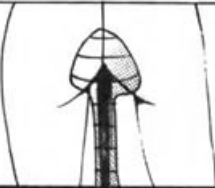
便所に通うことは
もちろん



仕事中
排泄のための
席を立つ必要も
ない



臭気は漏れず
濡れることもなく
紙を扱うことも
ないので



前史時代人が
便器というものに
感じた不潔感は
まったくなくなっ
ている

これが
バキューム・クローズド
真空便器で

衛生的で便利な
便所設備が
文明の進歩の
象徴だという
命題に従うなら



今
デミ・ウマン
半人間と軽蔑
される黒奴も



二〇世紀人より
はるかに文明的な
生活をしていると
いえよう

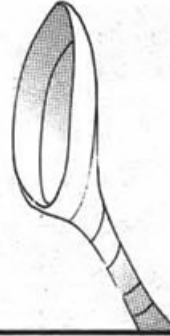


しかし

物の反面を
見失っては
ならない



真空便管の
先端器は
固形物を
受けつけない
ので



使用者は
常に
軟便を
排泄せねば
ならない



※
黒奴用の食べ物には常に

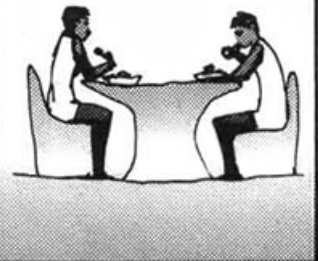
かん
緩下剤が



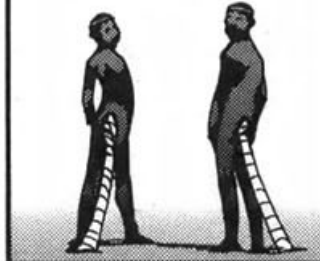
含まれている

※後に述べるようにこれは主として配給管によって給与される

黒奴は
摂食上の
自由を制限
されることに
よって



排泄上の
便利を
享受して
いるのであり



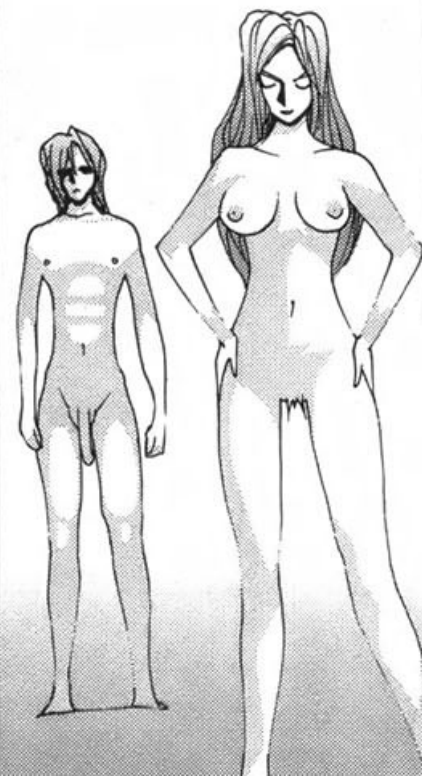
その目的は
黒奴のため
よりも



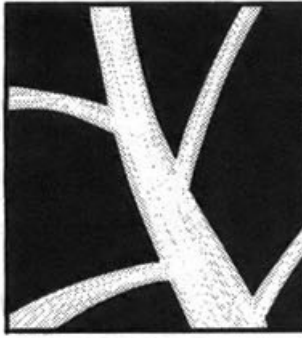
むしろ
彼らの
使用主たる
白人に
不快な不潔感を
与えまいとするに
あつた



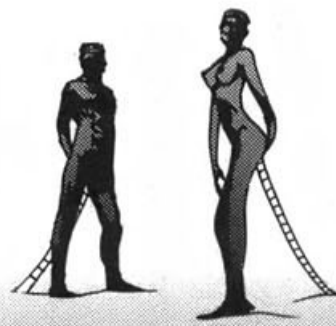
さて
白人であるが



排泄物処理方式の
基礎が
真空便管設備に
ある点は



黒奴におけると
同じで
あるけれども



その実質

付属品

さらに
その客観的意義

という点では
全然比較に
ならぬくらい
違っている

まず
先端器から
説明しよう



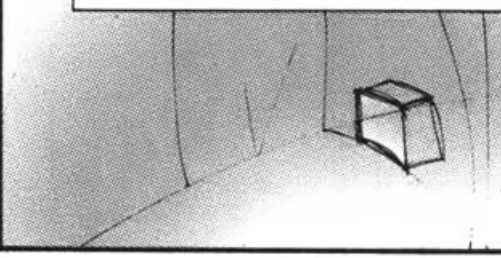
白人住宅や

輸送車両

集会場等

およそ
人間の住む所なら
どこでもと
いってよい

壁の隅に
地袋が
必ず
設けられて
いる



この地袋は
狭く低く

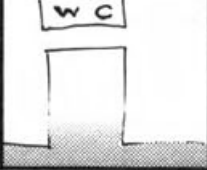
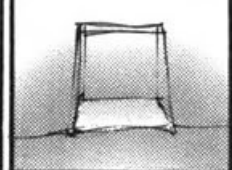
犬小屋くらいの
容積しかないが

SCと称ばれ

ちようど
二〇世紀人に
あつての

WCと
同じ語感を

イース人に
与える



しかし

そんな狭い所に
人間がはいって
用便することは
もちろんできない

そうではなく
このSCは

不浄畜

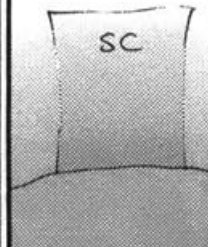
(lavator)の一種

※セツチン
肉便器(廁畜)と
称ばれる生体家具の
定位置なのである

SCとは

「肉便器の押入れ」の意の

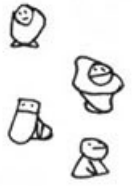
setteen's closet「廁畜房」



の略である

※lavatorは、普水洗便所の意であったlavatorから来たことは明らかである。これに反し廁畜を指すsetteenのほうは定説がない。しかし普通には、使用者の股の間に設置するからとか、setting yappooの意とか、初期の肉便器は安楽椅子(settee)の下を定位置としたからとかの語源説が信じられている。なお家畜語にも遡時輸入され、たが、便所そのものを雪隠というのは、生きた便器を持たぬ比較的同時のものに転用したもので、家畜語の外来語によくある誤用である。(S・マックレーン「語源考証」)

不浄畜には



廁畜類のほか



肉痰壺
とか



肉反吐盆
とかがあるが

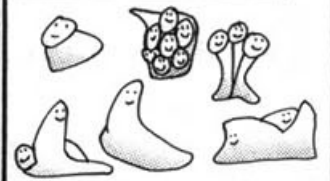


代表的
不浄畜は
もちろん
セツチンである



これは

多くの
生体家具と
同じく



雄ヤブーを
材料として
作られる
もので



その機能は

口腔と内臓を
人間の排泄物の
容器とする

ことにある



生体家具の
常として



幽門

すなわち
胃と腸との
境界部分は



循環装置のため
閉塞されて
いるので



内臓といっても

この場合
腸は関係が
ない



主に
胃であり



後に
説明する

標準型の
三能具等
では



その外に
右肺部をも
使用する



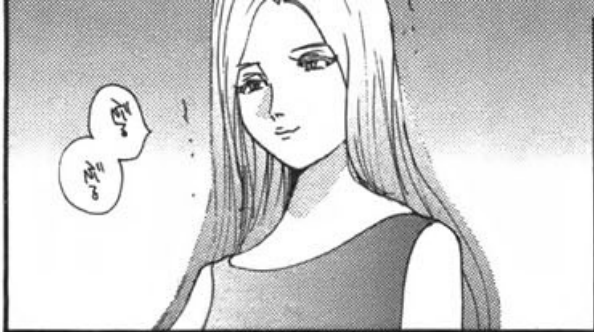
セツチンは

つまり

生きた
先端器

として





お
お

排泄時に

白人の



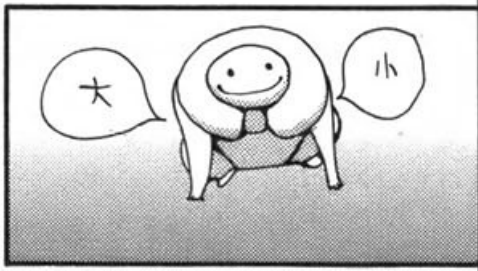
奉仕し



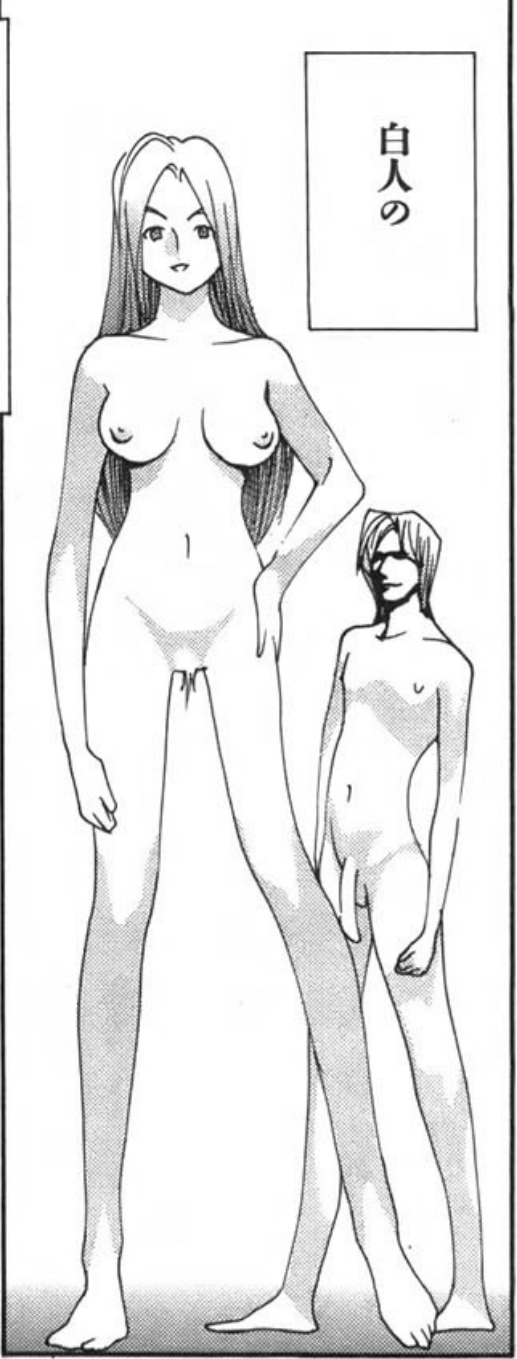
その
大



小便を



区分けして
体内に
受容し



セツチンの
使用によって

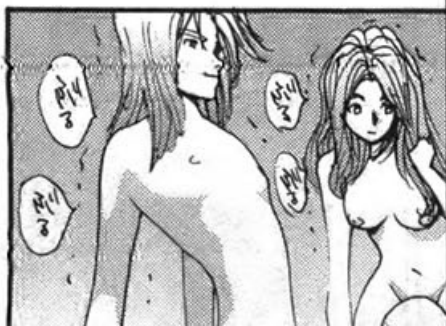
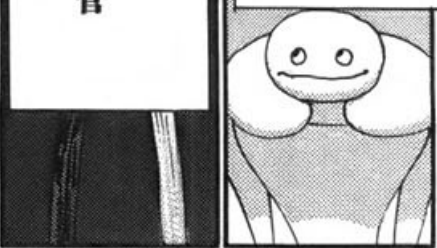
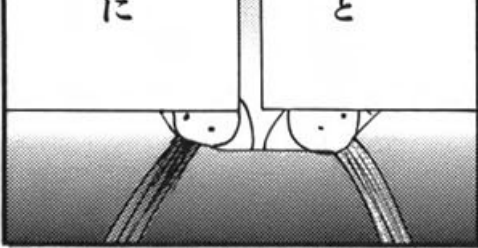
白人は

「フライングパイプ
便導管」
(ミックスパイプ
畜人薬導管)に
送り込む

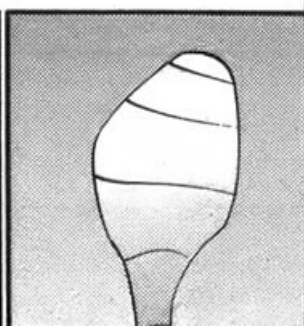
「ユラインパイプ
尿導管」
(ネックルパイプ
黒奴導管)と

白人用の
両真空便管

これを
別々に



最も快適・安楽な
排泄形式を
享受すると同時に



黒奴用先端器
など
問題にならぬ

それが
介在して

同形便を

咀嚼し

モッ
モッ

液状化
してくれる
ことにより

自ら

緩下剤^{かんげざい}などを
服用する
ことなく

自由な
食生活を
営み得るに
至ったのである

真空便管装置
との関係から
客観的に見れば

白人は

この尿導管
および
便導管をば

セツチンという
生きた先端器を

使って
利用している
わけなのである

が

白人の主観に
おいては
そうではない

彼らは
むしろ

この両便管を

セツチンが
使うもの

と考え

自分たちに
属するもの

とは思わない

いや

両便管の存在
すらを知らず
まったく意識しない
人のほうが
普通なのだ

彼らの主観においては



厩畜に



排泄

とは



のみの
drinkを
与えること
なのである



たべもの
food-ru

前史時代の
東洋の
一地方では

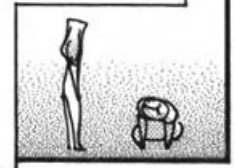
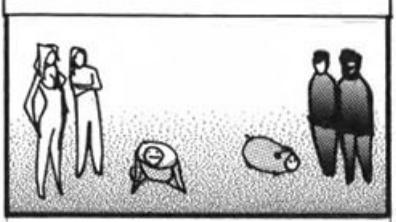
豚を便所に
飼って

排泄物を
飲食させた
といわれるが

その折りの
人々になら
イースの白人が
厩畜を見る気持ち
がわかるであろう

つまり
「自分たちの尿尿を
ご馳走として飲食する
家畜がある。」

という意識である



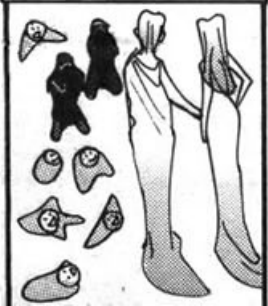
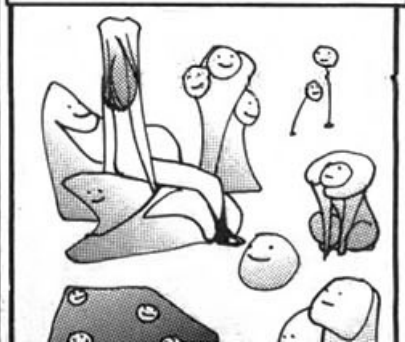
ただ
この家畜が
家具化して
いるのが
昔と異なる点
である

それに
自分たちの
排泄物が

セツチンを経由
して後

さらに
黒奴やヤブーを
喜ばせることが
わかっている点では

昔の人以上に
高等生物たる
自覚が
あるかもしれない



逆にいえば

セツチンの
ほうにも
便器としての
自意識は
ない

便器とは
黒奴の使うもの
であって

神様には
そんなものは
本来不要な
ものである

なぜなら

神様は



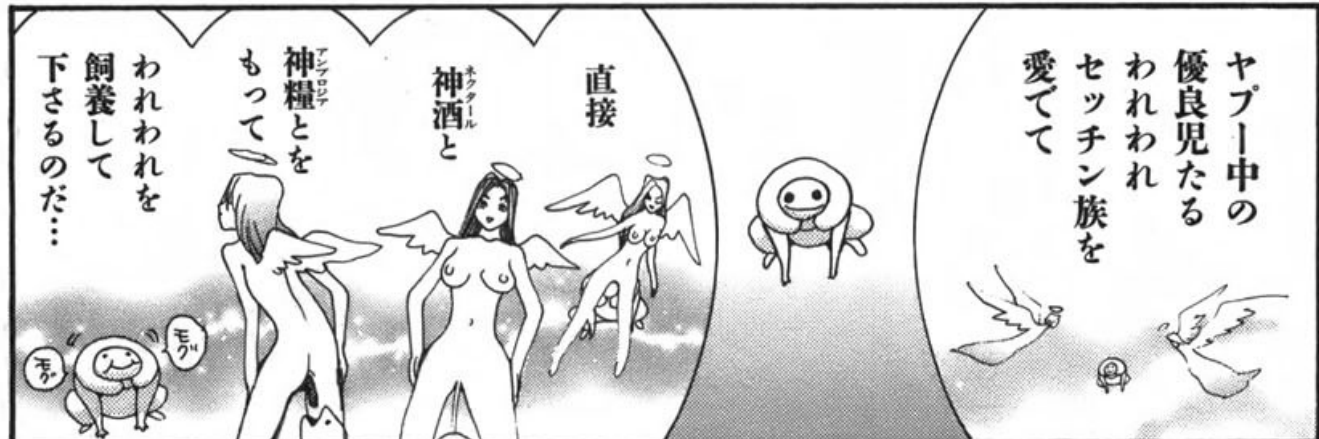
ヤブー中の
優良児たる
われわれ
セツチン族を
愛でて

直接

神酒と

神糧とを

われわれを
飼養して
下さるのだ…



これが
彼らの

神話であり
信念であって

一般に
白人を神として
礼拝する
ヤブーの宗教

アルビニズム
白神信仰
(albinism)に
おいては

各種ヤブーが
それぞれ
自分たちこそ
神様に愛されて
いると
信じているので
あるが

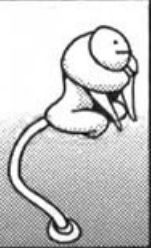


その中でも
この肉便器神話は
選・番意識の強い点で
特殊である

「神々の食料となる
名譽」を誇る
食用畜族の
独特の矜持には
及ばないにしても

それに次ぐものと
いえよう

生体家具の
一つとして

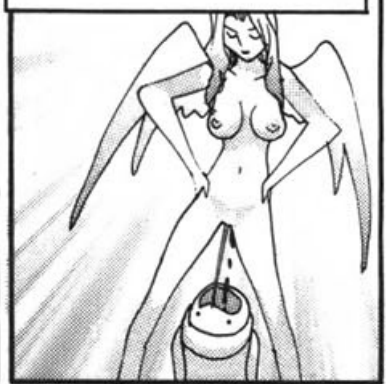


実際の栄養は
コードから
くるのであるが

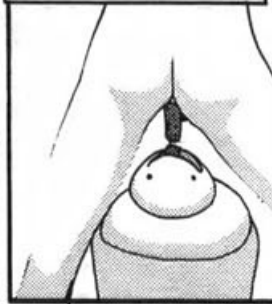
自身では
それを
意識しない
セツチンは



自分たちの
栄養は
直接
神から
与えられ



直接口に
受けた
聖なる物質から

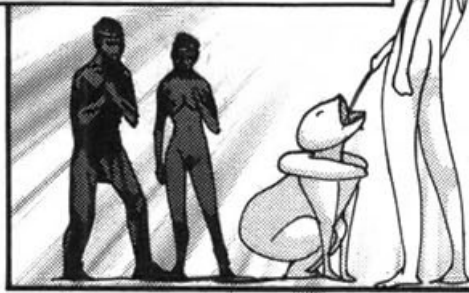


摂られるものと
考えているわけて



事実

彼らの
特権的地位は
黒奴にさえ
羨ましがられることも
あるのである

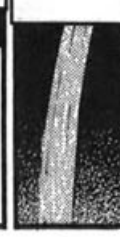


しかし

現実には
聖なる物質は
少しも彼らの
体内には
吸収されない



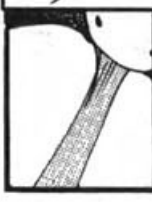
尿道管には



神体から
排出された
液体が前部



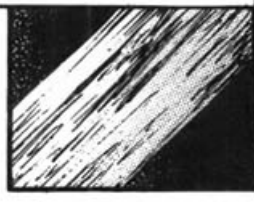
そのままの状態
送り込まれるのであり



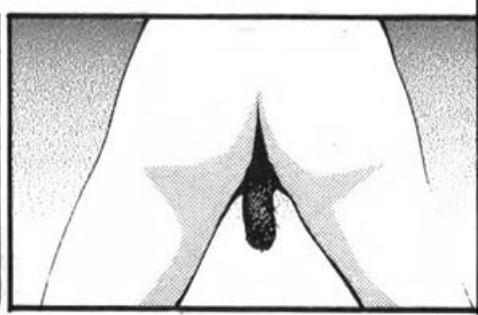
便導管には



胃液・腺液等を
混じて
粘液状となっている
以外には



排泄受容時と
組成の
変わらぬ



便液が
全部
流れ
込むので
ある



以上が

黒奴と

白人との

排泄様式で
あるが



それでは

これらの
排泄物は
結局どのようにして
処理されるのだろうか？



「三色摂食連鎖機構」

の説明をしなければならぬ



概括的に
いうと



白人の尿は



黒奴のための
酒になり



白人の便は



ヤプーのための
薬になり



黒奴の屎尿は



ヤプーの
飼料になる



そして
ヤプー自身は



摂取のみで



排泄を
しない



白人尿は
なぜ

黒奴の酒と
なりうるのか？



昔

ジャンセン女卿が
初めて黒奴酒を
つくったときは



カクテル
混尿酒として
アルコール
実際に酒精を



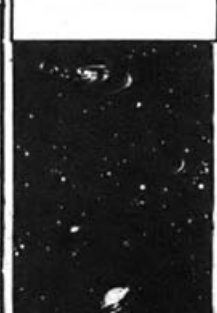
彼女の小便で



割ったものを
用いたのであるが



現在は
そうではない



白人尿は



そのまま
黒奴酒として
彼らを酩酊させる
のである



しかし

それを白人が
飯に飲んだとしても
酔うことはない

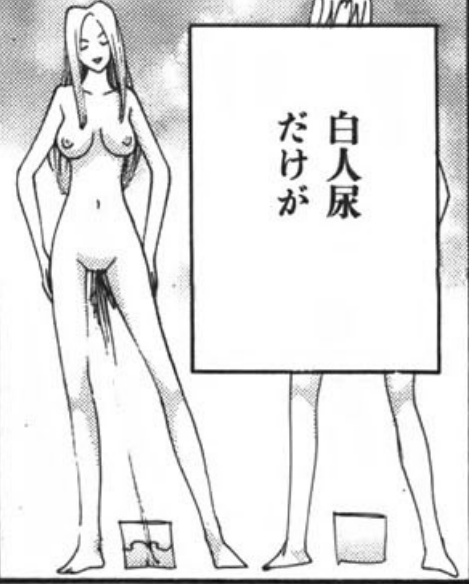


また

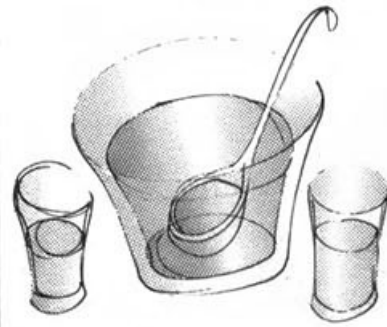
黒奴が自分らの
仲間のものを飲んでも
酔わない



白人尿
だけが



また



黒奴だけに
効くのである



といって

白人尿を
分析してみても



それは

二〇世紀の
白人のもの
ほとんど違いは
ないであろう

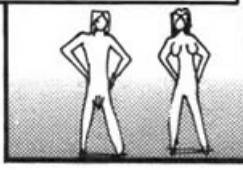


しいていうなら

蛋白質の
窒素分から生じる
尿素ユリアの量が
ふえているかも
しれないが



イース白人は
生体科学一般の
発達にかかわらず



古代ギリシャ人の
肉体を典型視
しているの



自分たちの
天賦の肉体
そのものに
直接加工する
ことは
決してしない



だから
彼らの肉体は
本質的には
二千年以前と



同じなのである

鍵はむしろ
黒奴の体内に
あった



黒奴は
先端器使用の
ために



常に軟便を
排出すべく



緩下剤の
服用を
強制されていると
前述したが



この薬の一成分
として添加される
アルコールアルコ、ソル、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
酒精アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
精アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
転アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
化アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
素アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
といアルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
う物アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
質アルコール、ソリ、ソリ、ソリ、ソリ
がある



一種の酵素^{エンジム}であって胃壁に吸着し

微量ずつ吸収されて

尿中に排泄されるが

また新しく補給されるから

各黒奴の胃の中には常に少量の酒精転化素が残存している

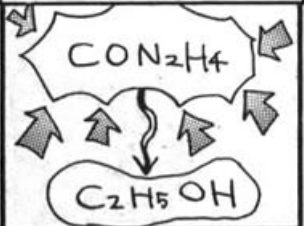
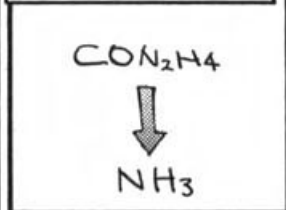
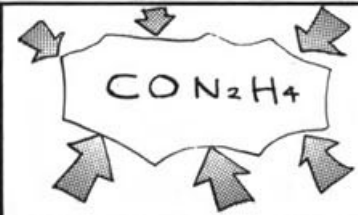


これが尿中の主成分たる尿素^(CON₂H₄)に作用すると

尿素がアンモニア^(NH₃)に分解するところを

アルコール^(C₂H₅OH)に化せしめるのである

だから白人尿が黒奴の胃にはいり胃壁中の酒精転化素に逢うと



強烈な酒を飲んだときと同じ効果を示すのだ

しかし黒奴尿には酒精転化素自体が排出されて含まれているので

仮に黒奴の胃の中にはいったとしても

胃壁中のそれと互いに打ち消し合い

酩酊効果は生じない

これが白人尿だけが黒奴を酔わしめる秘密なのだ



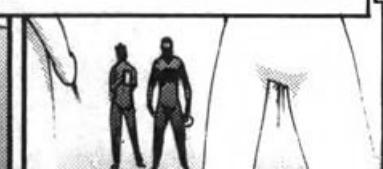
黒奴の人口は白人に数千倍し

白人の排出した液体のみでは到底黒奴酒の全需要を満たし得ない

そこで尿管^(黒奴酒尿管)は

途中でリプロデュース^{リプロデュース}物質複製機^{物質複製機}にかり

色にもおいても成分もまったく原液に等しい多量の液に増量されたうえで



各所の
黒奴酒倉庫に
達し



そこで
樽詰めになされ



製造者

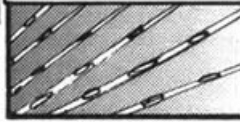
(排泄者)と

製造年月日を
明記したうえで



市場へ

黒奴酒酒場へと
送られるのである



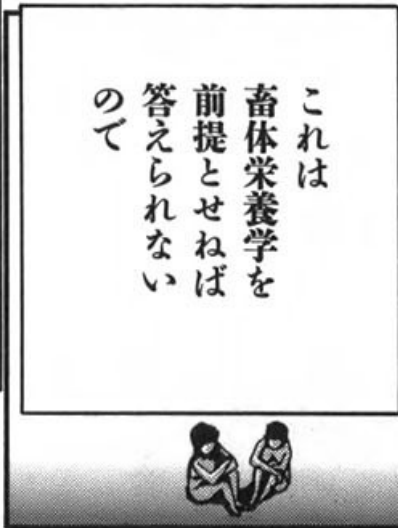
もつとも
平民のものは
製造者名なしの
二流品として瓶詰め
されるのが常である



次に
白人便は
なぜ
ヤプーの薬に
なるのか?



これは
畜体栄養学を
前提とせねば
答えられない
ので



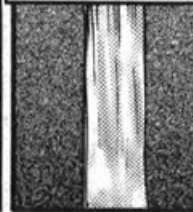
その前に
まず
なぜ黒奴の
排泄物がヤプーの
餌料たりうるかの
問題について
答えよう



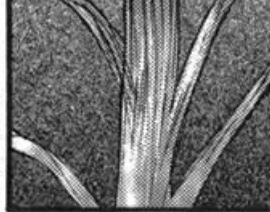
黒奴の
排泄物を集めた
真空便管は
どこへ導かれる
のであろう?



それは
ビルク・パイプ
畜乳本管で
ある



畜乳本管に
合流するのは
黒奴用真空便管
ばかりではない



厨芥ちゅうがいも



紙屑類も



牛や豚の
糞尿も



およそ
イース世界の
いつさいの



有機不要物は



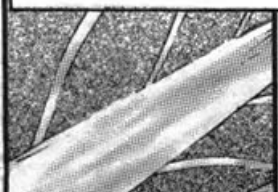
デイスポージャーに
よつて粉碎された
うえで



それぞれ
畜乳本管に
流れ込む



いわば
それは
一大総合下水道
といえよう



そして
こうして作られた
汚液が



※もつとも白人家庭の厨芥は黒奴酒酒場の者になるので例外である

ヤブーナル・ラッド
畜人餌料

すなわち
ヤブ・ミルク
畜餌乳液
(Dilk ^ yap + milk「畜乳」)

と称ばれる
ものである

排泄物が
主体であるため

黄濁して
いるので

エロージェス
黄液

とも
称ばれる



※ヤブーナルその他の例外はあるが

これが
やはり
物質複製機に
よって
増量された
うえで

イースの
全ヤブーの

餌料と
なっている
のである

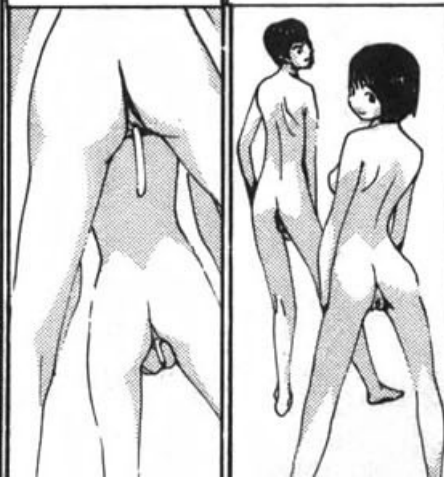
畜乳本管は
無数の支管に
細分されて

各所の
充填室
(charging room)
の蛇口に
導かれ

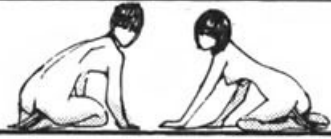
ヤブーたちの
肛門から

覗く
エンジン虫の

尾部吸乳口に
畜乳を
供給する



週に一度の
充填が
一週間の
畜体の栄養を
保証するのだ



ヤプーの肉体が
外見こそ白人と
変わらぬ



こと栄養に
関しては
いかに謙虚な
つましいもの
であるか
思い半ばに
すぎよう



人間の排泄物だけで
肥え太る豚でさえ
これに比すれば
はるかに多くの
栄養を
要求するので
ある



どうして
こんなことが
可能なのか？



ヤプーの体内に
存する
天馬吸餌回虫の
能力によるのである



先に
略述したように

この
他星生物は
排泄を
知らない

老廃物の痕跡を
尾部先端の
諸節の
硬化現象に
とどめる以外

吸入した
餌料を体内の
超酵素により
全部完全に分解し
栄養分と化するので
あつて

いわば
他の動物の
栄養代謝が
酵素による
化学的変化として
行われている
ところを

この腸虫は
超酵素による
物理的変化として
行う

したがって
栄養素の熱量
すなわち栄養価が
およそ
百倍に達するのだ

たとえば
糖 脂肪 蛋白質の
熱量は
通常には
それぞれ
四・一九・二一
五・六カロリーで
あるが

天馬回虫が
組成を体内で
変化させて
頭部細裂孔から
しみ出させる場合の
右の各物質の熱量は
それぞれ四百十九百二十
五百六十カロリーとして
計算される

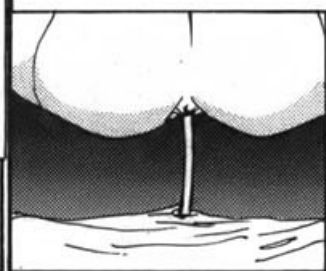
糖 → 4.1 cal
脂肪 → 9.2 cal
蛋白質 → 5.6 cal

通常
熱量

天馬回虫
熱量

糖 → 470 cal
脂肪 → 920 cal
蛋白質 → 560 cal

ミルクを
腹いっぱい
吸い上げた
とき



この全体の
総熱量は
わずか二百カロリー
しかない

200 cal

畜乳とは
そんな下等栄養分
なのだ

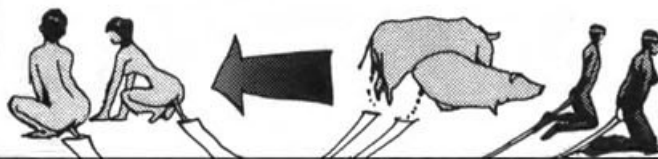
なにしろ
三十カロリーから
一日の代謝量
三千カロリーを
作り出せるのだから

30 cal → 3000 cal

これは
一週間分に
あたるわけ
なのである

1日
3000 cal → 30 cal
30 x 7 = 210 cal

このようにして
ヤプーは
人体にとっては
まったく
栄養価値のない
黒奴や牛豚の
排泄物から
十分の栄養を
摂取し得るので
あり



換言すれば
イースの

下水の
すべては

何千兆にも
分岐して

ヤプーという
生きた
汚物処理場に
注ぎつつ

これを
養って
いること
なるので
ある

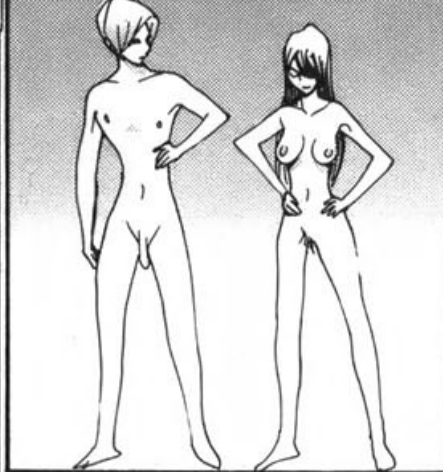
※それでこそ「機関虫」の異名もある

そこで
白人便の
問題にもどる

*
前記のように
白人の肉体は
二千年前と
本質的に
同じであるが

食べ物が
変わってきている
ため

便には
その反映が
見られる

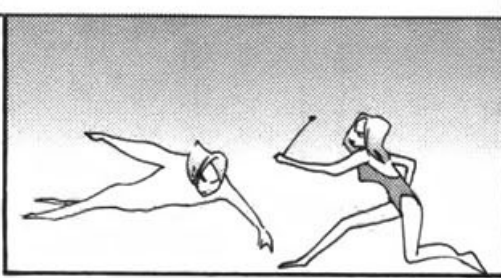
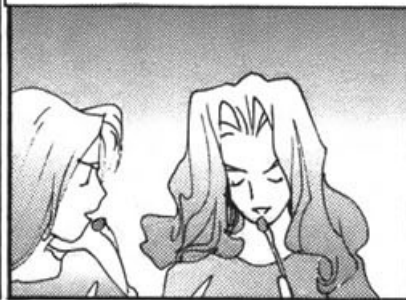


※したがって尿の組成は代わらない

イース白人は
毎日少なくとも
一万カロリー分を
胃に送り込む

美食する
貴族たちだけに
ついての平均になると
二万カロリーにも
達しよう

肉体は昔のまま
基礎代謝に要する
熱量のほうは
昔どおりだから
どんな運動をして
体力を消耗しても
一日四五千カロリーも
あれば足りる



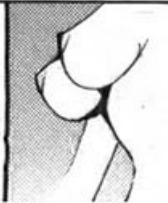
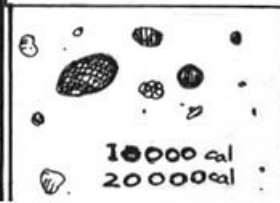
そこへ
一万二万という
カロリー摂取を
する

これは
量のことでは
なく質の
問題だから

そのために
腹をこわす
ようなことは
ない

それに伴って
美容体操や
美容薬摂取を
怠らないので

皮下脂肪に
蓄積される分も
少ない



※肉反吐盆に嘔吐する分を含めればその三倍にもなるうがここには体内に収まる分だけを考える

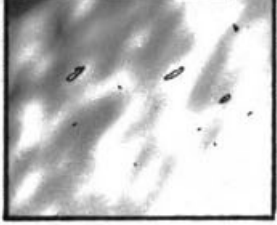
そこで
消化器は
贅沢になって
余剰栄養分を
消化せずに
捨ててしまう



食べ物の一部だけが
消化吸収され



残部は
未消化のまま



便になるのだ



※
排便回数
が多いが

量は昔と
変わらない

胆汁で
黄色になり
苦味を帯びて
いることも
同じである

しかし
その組成を見れば
腸内細菌の残骸や
腸壁から剝離した
上皮細胞などは
昔どおりとして



他に
食べ物の
不消化分が
あるので

実は
数千カロリーの
熱量ある
高度の
栄養物といえるのだ

そして
腸内極小畜の
働きにより
異常発酵しないから
臭いも昔の人のように
臭くない



とはいっても
イースの芳香文化は
レベルが高いから

イース人が
嗅ぐとすれば
嘔吐的であろう

しかし
昔の日本人なら

味噌の匂いだ

と思うだろうし

舐めて苦いので
味噌ではないと
知っても



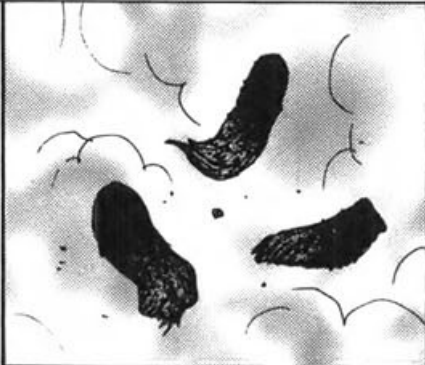
チョコレートの
一種だ

といわれれば
そう信じるだろう

人間の便だ

と聞いても
冗談としか
受け取るまい

そんな味であり
匂いであり色であり
また
実質的营养物でも
あるのである



黒奴の
排泄物を
主成分とする
畜乳からさえ
栄養の摂れる
ヤブーの肉体に
とっては

だから
白人の便は
超高級な
栄養食に
当たるのだ

熱量計算
だけからいえば



※実際には肉便器が臭気を吸ってしまうので白人はこの臭いは嗅ぐことはないが

白人貴族
一人は

自分の便のみで
優に百人以上の
原ヤプーを
飼養できるし

一匹のヤプーが
畜乳の代わりに
白人便液を
腹いっぱい吸った
とすれば

他に補給充填すること
なしに
半年は十分に
活動を続けると
いわれる

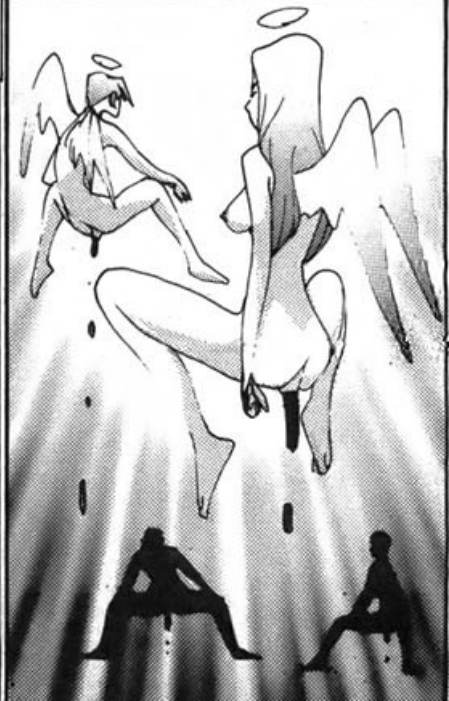


※ヤプーにとっては高貴なものである

白人の便は
黒奴のそれに比して
それほどにも
栄養価が高いので
ある

もちろん
*白人便がそんなふう
に餌料として取り扱われる
ことは実際には
極めてまれだが

薬効はしかし
栄養価だけに
よるのではない



神様に
ものを
いただく

という
心理上の精神医学的治療効果
もさることながら



絶対に
無視できない
のは

万能畜薬
(Panacea)の
存在である



これは
イース白人の
食卓で
ソースや塩や
胡椒と共に
使われる
香辛料の

万効薬味液
(elixir)が

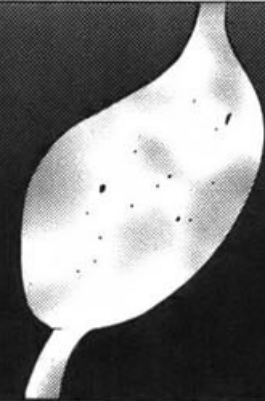


白人の
胃の中で
胆汁と
結合した末

便中に排泄された
もので

猛烈な苦味を
持っているが

下等栄養に
慣れた畜体には
すばらしい
医療効果を
示す



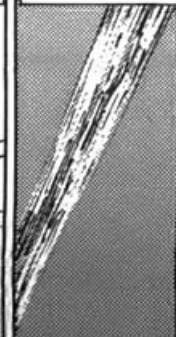
便導管
(畜人薬導管)で

赤Y字本社・支社の
地下工場に
導かれ

リプロデュース機で
物質複製機で
増量された
白人便液からは

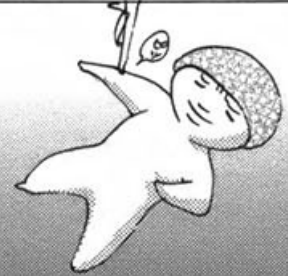
まず注射薬が
作られる

ヤプーたちの中には
口を白人への奉仕に
専用して
自己の摂薬に
使用できぬものが
少なくない

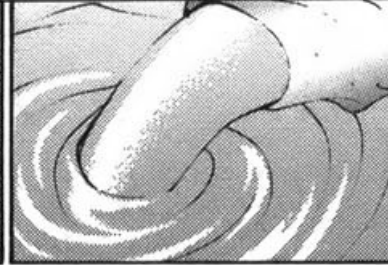


※家畜語の諺で「良薬口に苦し」というのは元来このことを指すのである

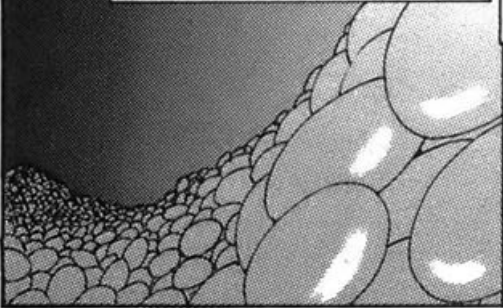
これらの
ヤプーの
ための
注射薬で
ある



残りは
水分を失って
黄色の固形物に
復元する



これからは錠剤タブレットが
作られるので
廃棄部分は
出ない



口の使える
ヤプーは
これを
口で溶かして
服用するのだ



本来
この注射や内服は
治療のために
用いられた
ものであるが



物質複製機による
増量が
可能となってからは
予防医学的にも
使われるようになった



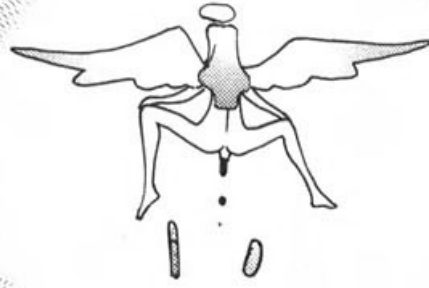
しかし
依然として

高貴薬

である



これを



※ミックソ
畜人薬

と称する

以上の
ように

白人の尿尿は
物質複製機によって
同一組成のまま
増量されたいうえて



黒奴やヤプーを潤すのを
原則とするが



例外的に
生の現物を

「聖水」

(warer < water)

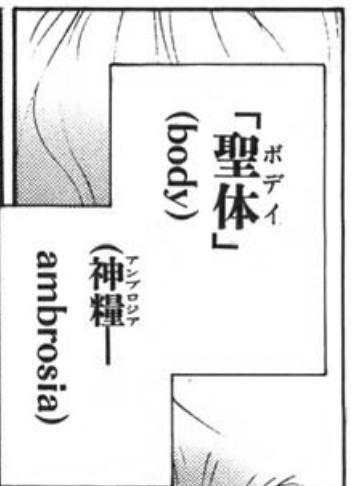
(神酒—nectar 甘露—amrita)



「聖体」
(body)

アンブrosia
—
(神糧—
ambrosia)

と称して
特殊用途に使用する
ことがあり



肉便器が
いない際

黒奴にそのまま
飲ませる
立小便の風なども
あるが

それは
その場面に応じて
説くことにし
ここては一般論に返ろう



※黒奴酒は、黒奴と神酒とを複合造語したものだ、畜人薬(ミックソ)の語源はハッキリせず諸説がある。便導管を流れる液は尿道管を流れる液と異なり、肉便器の管内で消化液と混じている。そこで混合の意のmixo(接頭辞)から来たとする説。いや、便液が粘液状になっているところからmyxo(接頭語)から来たとする説。尿を意味するmictioが誤用から便に用いられたと考える説。家畜語「御糞」こそ語義そのものであるとする説(この説は味噌は御糞の転化で、だから「ミソもクソも」といった慣用語があると説く)等々(S・ハイワード「語源大辞典」)

白人のものが

黒奴と
黄畜の口に

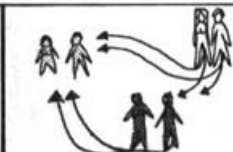


黒奴のものが
すべて

黄畜の肛門に



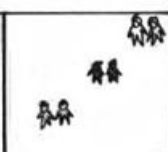
この三色逐次間の
摂食連鎖は



イースの社会構造を
具象し



三色間の価値の序列を
固定する作用を営む
のみならず



排泄を知らぬ
ヤプーに
すべてを消化
させることによつて



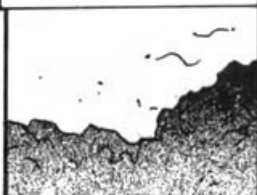
イース世界を



前史時代のような
不便・不衛生な
便所の使用とか



厄介至極な
汚物処理
塵芥焼却の問題
とかから



完全に解放された
「便所のない世界」
(no lavatory world)
にしている



このような
重要な制度の
生きたシンボルが
不浄畜の代表たる
廁畜セツチンなのである



聖水と



聖体を



直接に神々から
受領する
特権的存在として



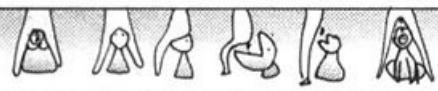
彼らが
プライドを持つのも
無理はない



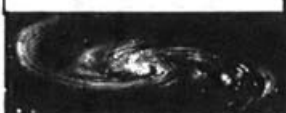
ところで
イースにおける



肉便器^{セツツチ}使用^{チン}の
風俗は
初期の形態をも
算入すれば
既に千五百年以上の
歴史を有する



現在
帝国内の
どの惑星の
どの大陸に行っても



おおよそ
個人の私室で



専用便器の
備えていない
部屋はなく



客室
船車内
集会場などで
標準型共用便器の
姿の見られない
ところはないが



このように
普及するまでには
ことに便利至極な
三能具標準型の
誕生するまでには



長い変遷の
跡があるのである



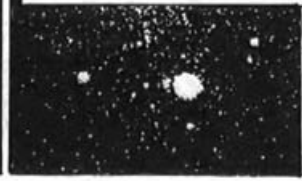
廁畜使用の
端緒は



女権革命以前



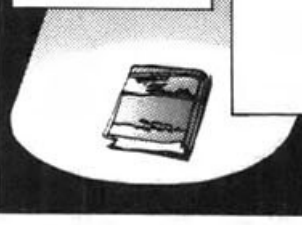
アルタイル
すなわち
^{アルファ・アキレス}
鰐座の星^エ圏への
膨張期にさかのぼる



C・スパークの名著

「イース事物起源」

に記するところに
よると



その
第三惑星
「ゴンダ」への
殖民に際し

その星の
大気の状態から

気密円頂閣^{キユポウ}
(cupola)内に
便所が一個しか
設けられなかった
ので

夜中尿意を
催した時

遠い便所まで
歩いていくのを
面倒くさがった
男たちが



寝台の上で
ヤブーを
尿瓶代わりに
使うことを
考えた

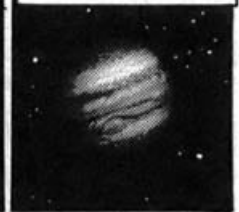


これが
最初の
セツチンだという

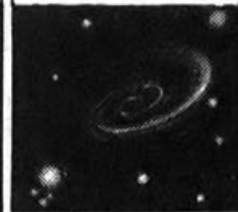


女性用小便器と
違って
男性用のものは
口唇部に特殊の
構造を要求しないから
ヤブーを持って
いる人は
すぐ利用できた

十年ほどの間に
ゴンダ星の風習は



帝国全体に
広がった



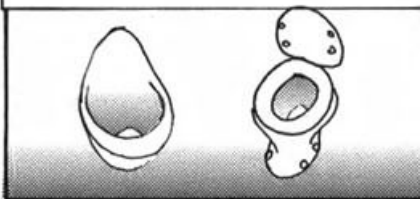
当然
昼間も使う



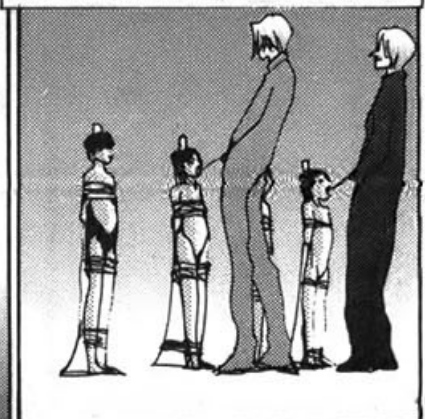
大便にも
使うという
人が出た



自家の便所から
陶製便器を
追放し
小便所の
朝顔の跡へは



立ち姿勢での
口唇の位置が
ちょうど大人の
泌尿器に当たるくらい
の
身長の子ヤブーを縛りつけ



大便所腰掛の下には
口の大きなヤブーを
屈ませて仰向かせ



結局自分の排泄物を
全部ヤブーの体内に
収めさせる創案者たるの
栄をになったのは



ペトロニウスの再来と
称せられた伊達者の
卿ドレイバアだったと伝えられる



※ウィリアムの先祖

やがて
女権革命が
起こり



男子用朝顔と
並んで



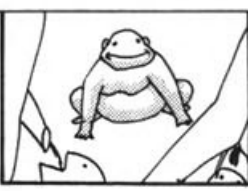
女子用朝顔に
ヤプーが
使用されるように
なり



子供では
口も胃も
小さすぎるとして



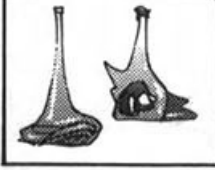
侏儒を
そのために
便所へ飼う
ようになった



そのころ
一方では
黒奴のために
混尿酒を
与える
(女)卿ジャンセンの
試みもあり



やがて
黒奴酒が
作られ



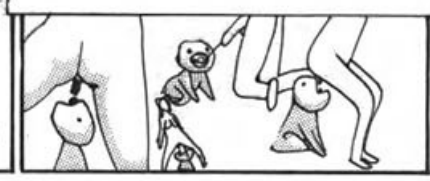
真空便管が
普及し



結局今から
千三百年ほど前に
粗笨ながら
三色摂食連鎖の
原始形態が成立し



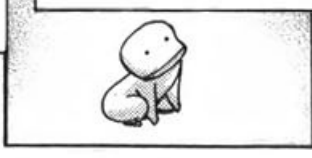
廁畜類の
存在は
動かすことの
できぬ重要な
社会的構造の
一環となり



陶製便器の
使用はまったく
廃れるに至った



セツチンという
呼称は
このころから
生じたのである



しかしまた
染色体手術の
技法が発明される
前であったから



便利な
体型は
誘導変異から
長期にわたって
育種淘汰する
以外には
得ることが
できなかつた



椅子に掛けたまま
寝台で寝たまま
放尿できる
鞭轡首型肉便器は



本来舌人形
唇人形として
発達した体型を



尿壺に
転用したもの
であるが

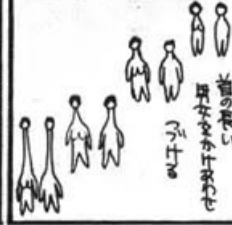


※両肩が著しく怒ったのと背中の中の瘤とが筋肉塊で連結して頭部三方から馬蹄形に囲む肉質の山脈状になったもの

その数十センチに及ぶ長い首が作られるまでには



数世紀にわたる育種学者の苦心があつたし



大便器としての「僂型」もいわゆる「馬蹄肉瘤」が発達して



すわった時腰掛便器の眼鏡板(穴あき蓋)の代わりに楽々と使用者の尻をささえ得るような



見事な奇形になるまでには



幾百の試作品がムダになったのだ



侏儒 僂 轆轤首の三種が三用途に應ずる 廁畜の三定型として発達したが こういう単能具は



私室に置くには十分だが



外出先へ連れて歩くには不便である

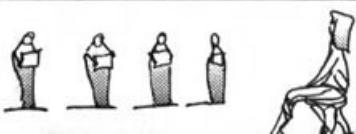


共用器でなく専用器として持つ階級からの要求に染色体手術法の発明が呼応して

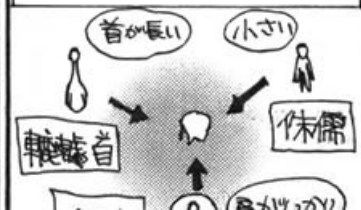


八百年前初めて三能具が作出された

彼女は用便のたびにその間じゅう従者たちをして前史古代ペルシアの詩人オマール・カイアムの詩を朗誦させるのが常だったので



三種の定型を一身に兼ねている奇形である



その第一号試作品は

時の女王マーガレット三世に奉献されご愛用品となった



この第一号
標準型肉便器は
オマールの異名を得



今でも宮廷用語として
標準型セツチンは
"オマール"と
称ばれている

オマール

標準型セツチン

ともあれ
この標準型は
女王家の愛用品となって



以後ますます
名声を博し



その便利さから
単能具を圧迫し



※家畜語のオマールはこれから来ている

平民の
専用器
および
一般共用器として
広く用いられるに
至り



単能具は
特殊化して
貴族向けの
高価な
専用器としてのみ
残存している



単能具は
貴族の私室に置く
専用廁畜として
読心能付にもできるし



頭部の造作や



※以前舌人形の頭部にどんな加工がなされたかを想起されたい

舌の形などに
変わった
趣向を加えたり



生体彫刻による
皮膚の装飾に
高尚な趣味を
示したりすることも
自由で



極端に言えば
帝国内一万の
貴族の使用しつつかある

数万の専用器中に
まったく同じ二つを
見出しがたい
くらいである



これに反して
共用器は



個人の嗜好に
属する部分に
手を加えない
ほうがよい
とされ



もっぱら実用本位に
機能第一に
体形を追求した結果



いちばん便利な形と
認められたものが



標準型として
規格が公認され
量産普及化される
ようになった



これは
大へんな
奇形であった



侏儒
僂僂て
輓輓首と
いうのだから
想像できよう



身長は
頸部を上
に
伸ばして
百五十センチ



実際には
こうした姿勢は
とらない

たたんだとき
百十五センチ

45センチの首は
たたむと
凹みに収まる

腹囲は
百二十センチ
という規格がある

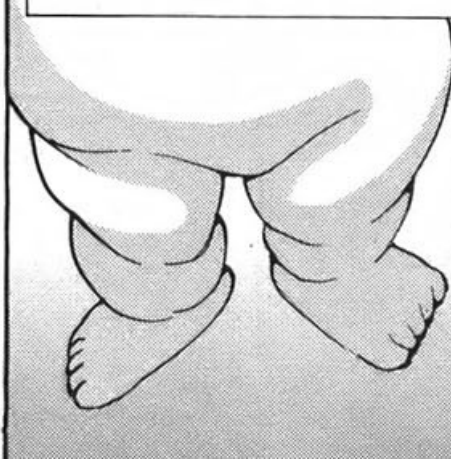
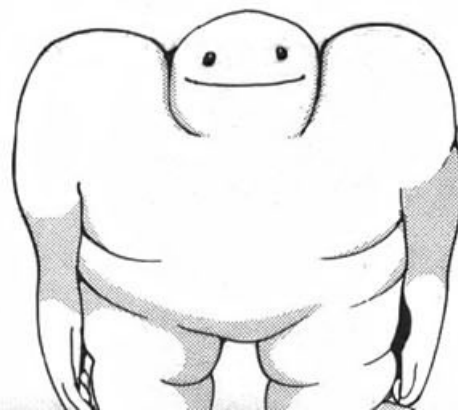
四十センチしかない
太い両脚は
膝で二等分され
足は大きく
偏平足である

頭部20センチ

肉瘤頂から
尻まで
55センチ

中央の頸の付け
根から尻まで
45センチ

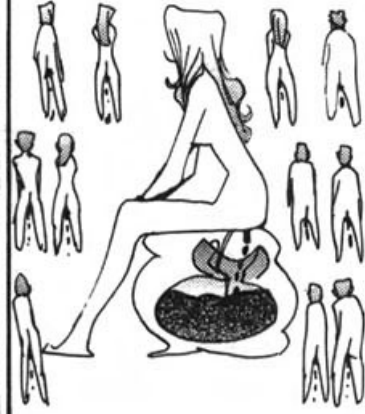
脚部
40センチ



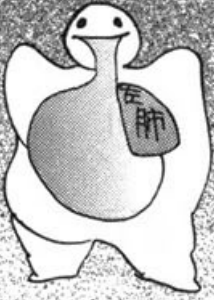
両脚の上にある
胴体は
肉樽といった
感じて
胸腹部は
おそろしく
肥満しているが



これは十二人
次々に続けざまに
使用しても
全部収まるよう
胃の膨張に備え



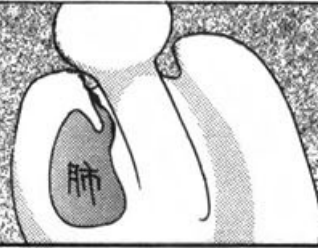
右肺を摘出除去して
その空間をも利用しつつ
受容量を十二膀胱容積
にまで増加させたからだ



内臓への加工は
そればかりではない
生体家具として
畜体循環装置を
備えているのは
当然であるが



ほかにも気管に
手を加えて
左肺気管支は
咽喉を通らず
首の付け根の後方に
開孔するように
してある



背中には
馬蹄肉瘤がある
その回みの内側に
開孔しているわけて



鼻粘膜も
ここに移され
ここから
呼吸している



加工の狙いは
ひとえに
長い頸部を
飲食物の
嚥下に
専用させ



呼吸によって
飲食物の通過を
妨げないように
するにある



不要になった
鼻腔に



小型高性能の
熱気噴出装置が
仕込まれている



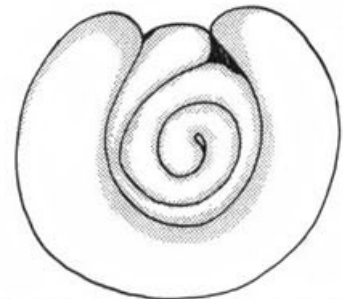
腕は細く
長い



手指は短く
軟らかく
爪は舌人形と同じく
全部抜いてある



馬蹄肉瘤の
内側
深さ十センチの
凹みの中
いっぱい
細長い頸部が
トグロを巻いて
たたまれ



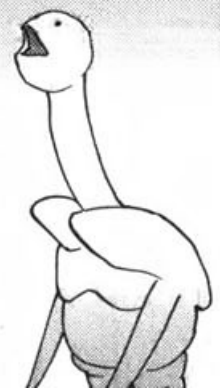
頭が
載っている



大便器になるときは
頸を折って凹みに
後頭部をいれ
顔を仰向けにして
口を開き



小便の場合は
頸部を
伸ばす



俗に
「ユアリナル尿壺頭」
と呼ばれる頭部は



口唇部の
異常な発達を
除けば



目・鼻・耳・頭髪
すべて
尋常の外見を
有するが



使用時の不快な刺激を
避けるため
鬚は毛根ごと除いてある



深く裂けた
口は



開けば
優に
直径十センチの
壺となろうが



女性の放尿に
際しては



腫れ上がった
ような感じの
厚い唇が有用である



これは
外側が吸盤的



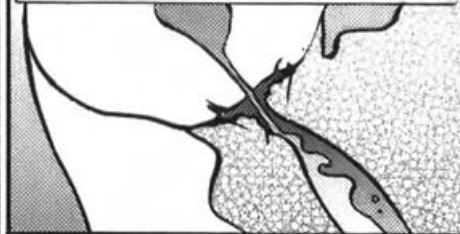
内側がスポンジ的な
性質を備えた



人工皮膚癌で
形成されたもので



これによって
ピタリと
吸い付くから
液体がこぼれることも
臭気が漏れることも
ない



口腔の内部も
広く深く
歯は咀嚼用に
奥歯が残っている
ばかりで
前歯は
全然ない



舌は
普通人の
倍もある
幅と長さの
見事なもので



これで
局部をぬぐった
あとを



鼻からの熱気で
かわかす仕掛けは



黒奴用先端器の
洗浄乾燥装置と
ならんで



イース世界から
トイレット・ペーパーを
追放
「手洗い」という言葉を
廃語にしてしまったのだ



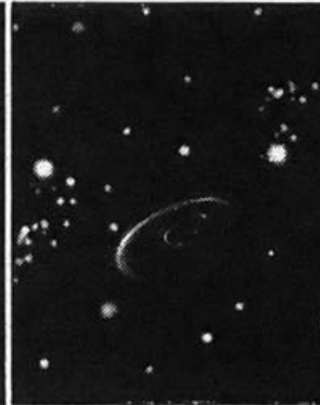
これぞ
廁畜中の
廁畜



スタンダード・セツチン
標準型肉便器

である

イブダヌン座
エイダヌン座
エリゲニ
星圏の



第九惑星である
アポルト星で

量産され



帝国全版図の
需要を
充たしている

今後も
この愛すべき
生きた道具の
一類は

たびたび
読者の前に
姿を見せる
であろう



壁から現れた
奇形侏儒は
SCから出て来た



スタンダード・セツチン
標準型肉便器

だったのである

※SC = Seteen's 廁音房。肉便器の押入れ

円盤が

ポーリーン
一人のものなら

専用器を
置けるのだが

ジャンセン家の
他の人も乗ることが
あるから共用器を
付設してあるのだ



もちろん
乗る時に
手間を惜しまねば
コードをはずして
専用器と取り換え
させることは
できるのだが

こういう器具に
こだわりを
見せない性質の
ポーリーンは

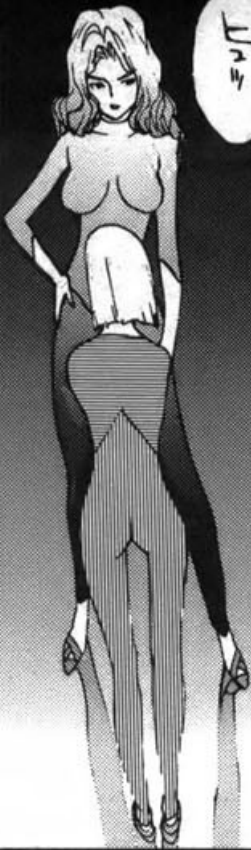
いつも
そのまま
使っていた





読心能付のもの

これが
呼出し合図に
なっているからである



口笛で
出て来たのは



以外は
耳が生体家具の
重要な能力であって



百人を
二度目には
その違いを見事に
聞き分けるといふ



同じような口笛を
一度聞いただけで



標準型セツチンは

今の口笛の主が
誰であるか
もちろんわかって
いるのである



今
この操縦室付属の
セツチンも



素晴らしい
聴覚を
持っている

彼は
短い脚を
チョコチョコと
交替させつつ

いそいそ
ポーリーンのほうに
進み寄った

コードが
長い尻尾のように
床を這った



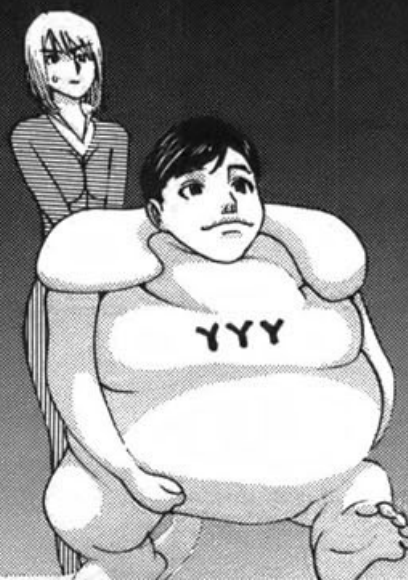
その胸に
Yという字が
三つ烙印されて
いるのは
どういう意味で
あろうか？

ポーリーンは
いきなり

違う！

と叱るように
制止すると

さらに
数語付け加えた



コツチジヤナイ
オ客様ノ
ゴ用ナンドヨ



第七章 第一の経験

— 第一話 —

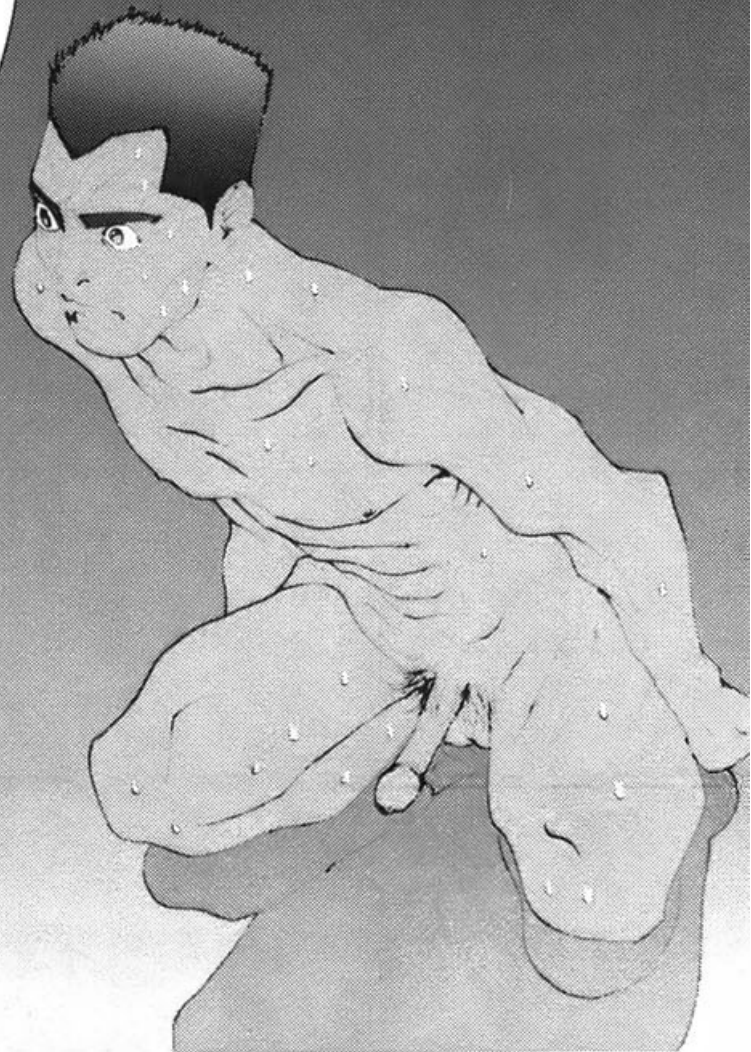
この数語は
鱗一郎を
仰天させた

セツチンの
姿を見ず誰の発言か
確かめるために
振り向くことも
できぬ彼は

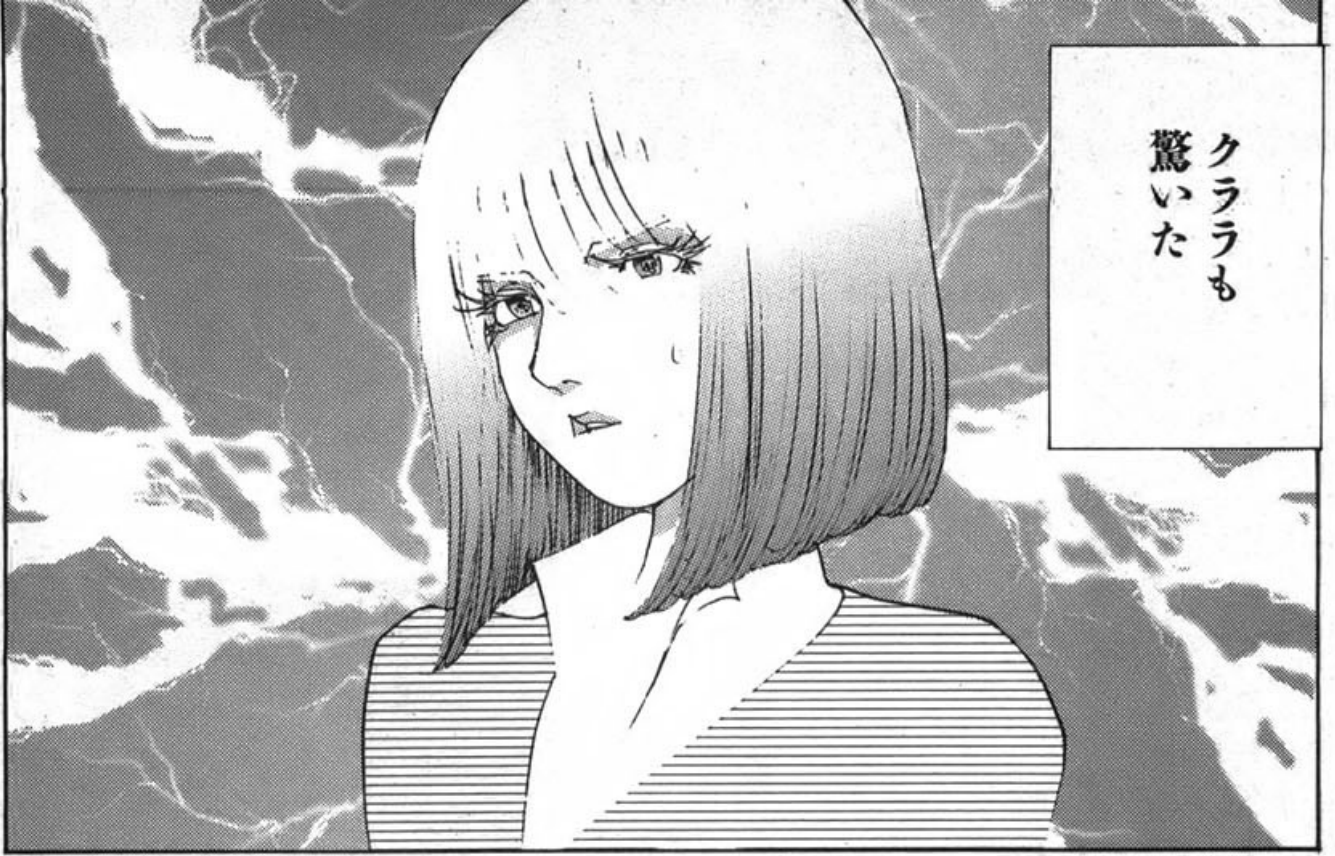
クララの声でない
以上ポーリーンに
違いない

とは
思いつつも

一瞬耳を疑わずに
いられなかった



クララも
驚いた

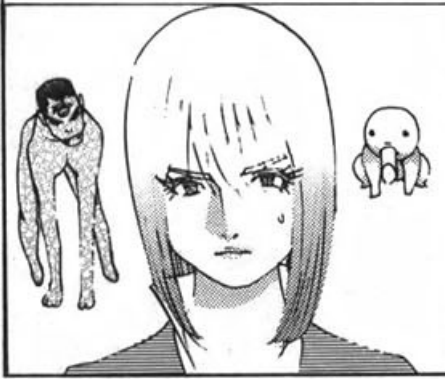


セツチンの
異様な姿態は

先ほどから
続けざまに
珍奇な事物を見て
ある程度神経が
鈍磨してきて
いたのと

これがまた
首を伸ばさないの
単に太った侏儒の
ように見え

目、鼻、耳などは
普通人と同じで
人間らしい印象に
富んだ点もあった
ことから



それほど彼女を
脅かさなかったのだが

今この数語を聞いて
なぜとも知らず

凝ぎよつ

とした



隣一郎との
交際以来

日本留学生の
会合などに
出たりして
彼らの会話を
聞いたこともあり

自身も
恋人の母国語に
相応の関心を
持っていた彼女は

意味はわからぬまま
それが何語かを
直感的に
悟ったのだった

ポーリーンが
セツチンを叱った
言葉は

まぎれもなく

日本語だった

のである

いったい
どうして
ポーリーンは
日本語を
話せるの
だろう

外でもない

これが

ヤブリン
家畜語
Yapoon

だからだ



※平民方言、黒奴方言、また各惑星での方言など訛はいろいろあるが、すべて英語であることは前述のとおり

イースの人類は
共通語として

※イングリッシュ
国語

を話すのだが

その片言を
覚えるころには
もう

家畜語を

マスターする

既に二〇世紀に着想されていた
言語学習法の進歩したもの

畜語音盤ヤブリーレコードで
しゃべり方を
身につけて
しまうのであり

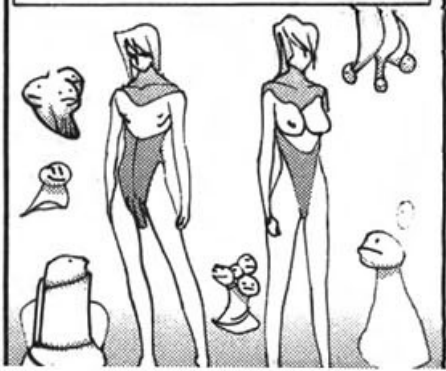


睡眠中「睡眠学習音盤」という
語学レコードを聞かせて
下意識に教授する仕方

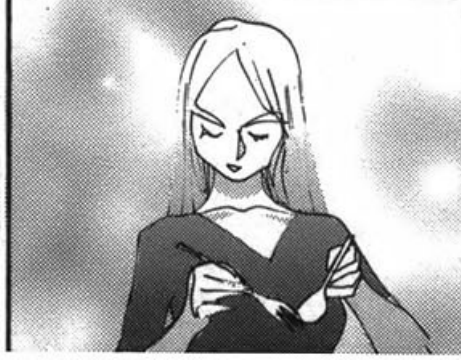
また
それで
充分なのである

※事実「スプーン」の次に「ヤブリー」を覚える」という俚諺俚諺もあるくらいである

それは
言語を解する
家畜(家具)ヤブリーを
日常に使用する
イースの人類にとっては



スプーンやフォークの
使い方を覚えるのと
同じような
生活技術上の
初歩的必須知識
としてであり



英文を書いたり
読んだり
詩をそらんじたりする
精神的作業とは
まったく異質な



いとも
自然な状態で
家畜語を
あやつっているの
である

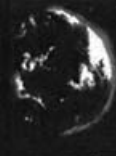


家畜文字
というものは
全然用いられない

ヤプー用書籍は
ローマ字で
書かれる
語彙も貧弱
である

もともと
論理的・
思想的表現に
適しなかった
家畜語は

語彙の貧困化に伴って
複雑な思想の表現は
まったく不可能に
なったが

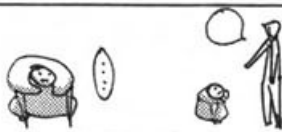


普通のヤプーの
仕事は
思想には
縁がないので

白人が
ヤプーに命令
するための
言語としては
充分である

敬語は
非常に発達して
いたが

白人とヤプーとの間には
ほとんど対話は存在せず
白人が一方的に命令する
だけだから
敬語用法にも
白人は無関心であった

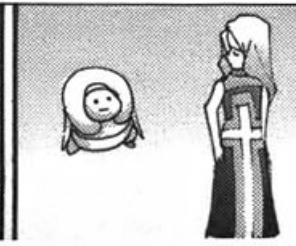
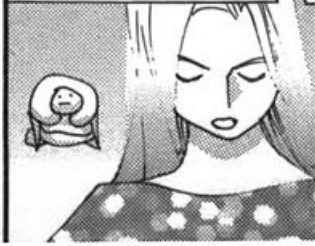
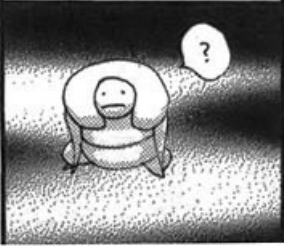


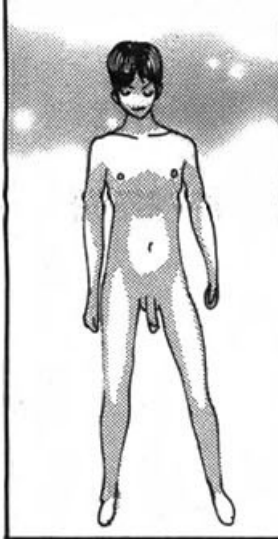
もつとも
ヤプーへ命令するのに
家畜語を
使わなければ
ならないわけではない

人間の言葉で
命令しても
もちろんかまわない
のである

ただヤプーは
当然にはそれを
理解し得ない

特別の用途に
充てるため
人間の言葉
つまり国語を
教える必要が
ある時には





すぐ
教え込めるので



インクリン・ユ・ピル
国語丸薬で



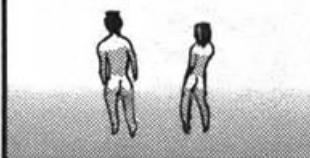
睡眠学習音盤や



家畜が人間同士の
会話を理解したり
する必要は
ないからである

普通は
教える必要が
ないとされる

この点が
知性ある家畜の
有能な点では
あったが



この点他の
知性なき家畜と
全く選ぶところが
ないのである

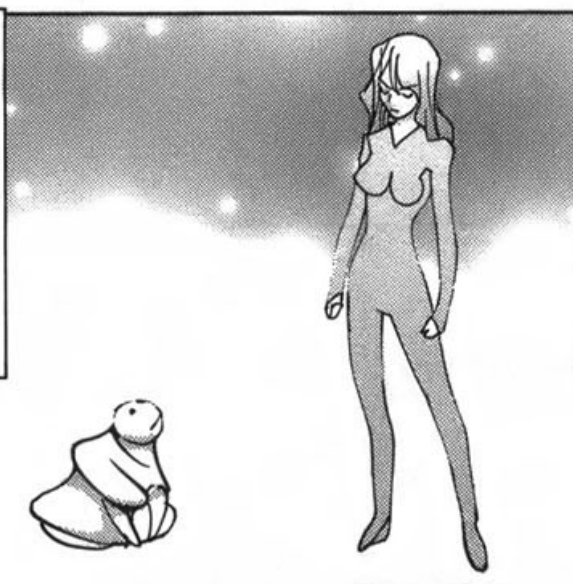
自分て話すことを
許されない
ヤブーには
結局人間の言葉は
理解できぬままに
とどまるのであつて

自分て話し言葉として
使つてみるかせねば
マスターできる
ものではないから

言語は
系統だつて
教えられるか



これが
伝統的な
考え方だつた



したがつて
ヤブーに
命令するには
家畜語ですれば
よい

これに
一石を投じたのが

有名な
クアドリー
(女)伯爵
であって

彼女は

家畜語は
命令補助用具
たるに
とどめるべきで

命令は
人間の言葉で
なされるべきだ

と主張した

人間が
家畜に命令するのに
自分の言葉を捨てて
家畜に迎合する
必要がどこにあるう

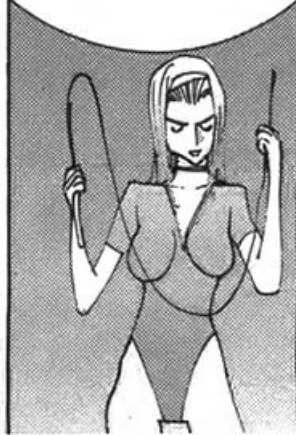
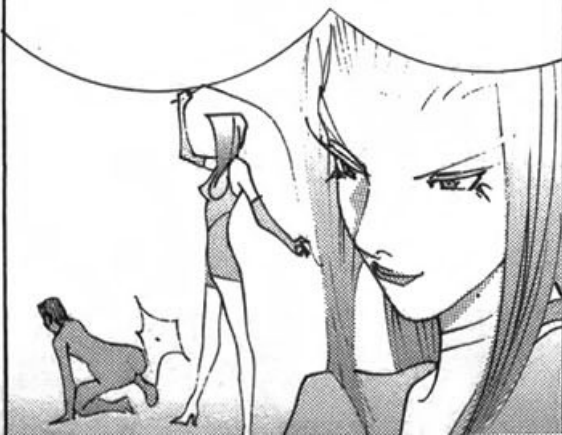
前史時代
馬や犬に命令するのに
人間は人間の言葉を
使ったではないか

もちろん
レコード
音盤や丸薬の助力
なしに
教え込める語数は
人間の語彙の何分の一
パーセントにしか
すぎまいし

大へんな
スバルク
鞭撻的教育の
必要があるうが

しかしそうやって
教え込んだ人間の
言葉で行動させて
こそ
家畜を扱う
というに
ふさわしい取扱い
ではないのか

もし人間の言葉で
指示できない部分が
あるならば
家畜語で
命令するのも
よいだろう



しかし
妾は
そんな場合にも

鞭と手綱で

自分の
思いどおりの
行動に

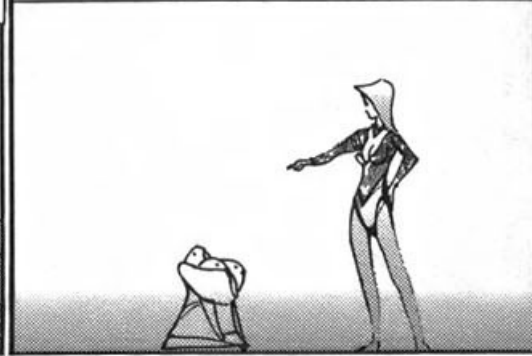
強制しようと
信じる…

この説は

一般世論を
動かし

以来
白人のヤプーに
対する命令は
まず簡単な
人間の言葉(英語)
てなされ

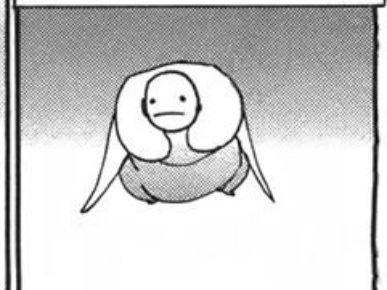
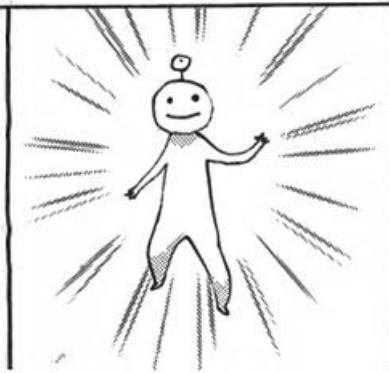
家畜語は
その説明補助に
用いられるのが
普通になった



しかし
初歩的英語を
聞き分ける
ヤプーも
話すことは無理で

要するに
大多数のヤプーは
いくら知性があっても
白人に対しては
「口のきけない家畜」
たるにとどまるのだ

もつとも
個畜の中で
学問的素質の
ある者は
英語をマスターし



学問的訳語も
案出して



英語から
家畜語への
翻訳を
試みたりも
するのだが

それは
例外的な存在
である



黒奴との
関係は多少異なる



黒奴は
ヤプーに話しかけるには
家畜語をもつて
しなければならぬし

白人とは
会話することの
できないヤプーも

黒奴に対しては
許された時 必要ある時
口をきくことができる



ただ
この場合の敬語は

アリマス

調にすべきで

ゴザイマス

調は使つては
ならないとされる

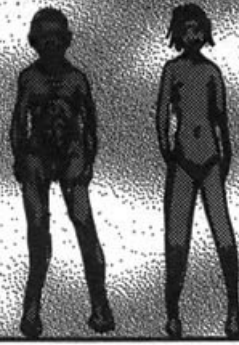
後者は
ヤプーの神
すなわち白人への
祈禱にのみ
用うべきものである



ゴザイマス

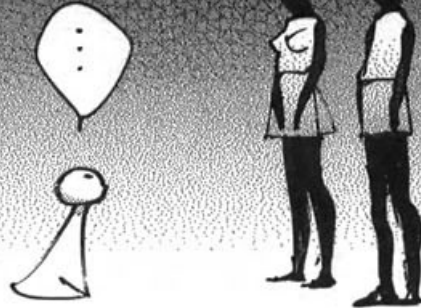


黒奴は
ヤプーの用語が
正しい敬語法を
守っているか
どうかわからねば
ならぬ必要から



白人よりは
家畜語の知識が
深く
幼児期から
充分マスター
させられるのである

もつとも
黒奴に対して
話すことができる
などといつても

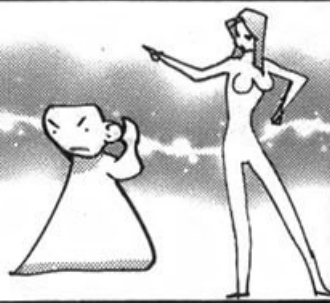


実際問題として
ヤプーが
口をきくことは
稀であり

※
肉体的にも
舌の構造等から
聾啞であるのが
多いのであるが



話しこそせね
聞く能力だけは
いちおう標準に
達して



家畜語で
解説すればいくらでも
複雑な命令が可能であり



これが
「言語を解する家畜」たる
彼らの矜持ほこりなのであった



単純な文法と
貧弱な語彙
イースでは
家畜言語キヤットル・タンクと
軽蔑され
言語として扱う
価値がまったく
ないとされている
とはいえ

家畜語は
やはり
知性動物の
特徴たる
言語の一種で
あるには違ひ
なかつたのだから



もし

※退化形態であっても

※廁畜類も昔はしゃべれたが現在の標準型はしゃべれない。舌が大きく発達し過ぎたためである。この過程を示すともいえる俚諺に「良く舐める」「舌は」バッド・スピーク「拙く語る」というのが残っている

退化する
以前の
家畜語を
知りたければ

ヤブン島に
行けばよい

ここに飼育されている
一億匹の
土着ヤブーは



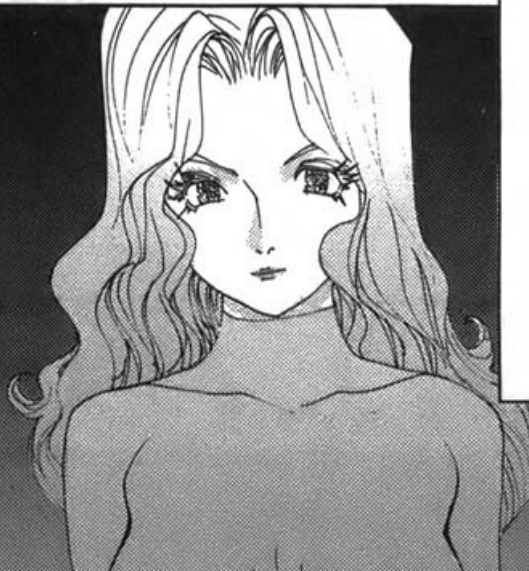
昔ながらの
旧家畜語と
家畜語文字を使って

非能率
非合理的ながら
結構複雑な
言語文化を
築いているので
ある

イース世界における
家畜語の地位・機能が
このようなもので
あったことから

ポーリオン
としては

ただセツチンに
指示を与えるという
だけの意味で
家畜語を使ったに
過ぎなかったのだった



叱られた
肉便器は

あわてて
クララのほうに
向き直って

近寄ってきた



クララが
気味悪そうに
身を退くと

ポーリーンは

はっ

と気づいて



そうそう

貴女はまだ
セツチンを
使ったことが
ないんだってわね

.....

べつに
面倒なもんじゃ
ないんだけど

といいながら

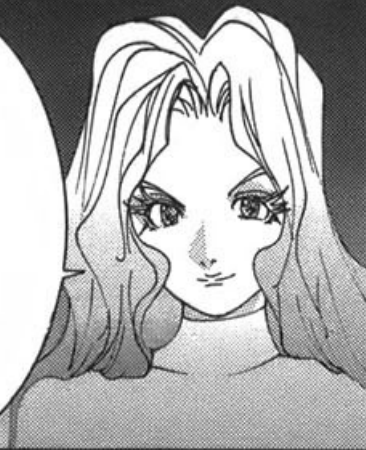


Oshicko



決心して

じゃ
妻が使って
みせてあげる



視線を
下に
落とすと

今度は
きつい口調で
セツチンに

Come on in

と呼びかけて



続いて
両足を
踏み開きながら

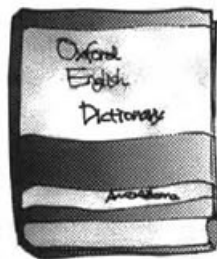
低く鋭く
いった



脱線で
恐縮だが

これからもよく
使われる言葉なので

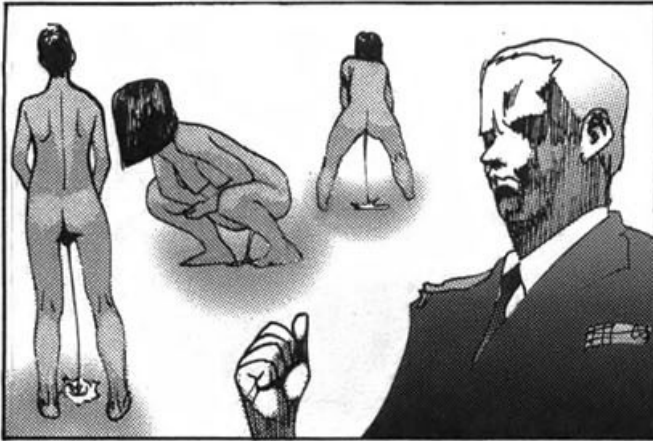
この「Oshicko」
という語の
意味・由来・用法を



近刊の
「オクスフォード英語辞典
(OED)」
(アベルデー版)第二二版を
訳して紹介することにしよう

用例はイースの事物に
慣れぬ読者には
わかりにくい点も
あろうから
訳注を付けておく

[例 1 注]



(訳注)

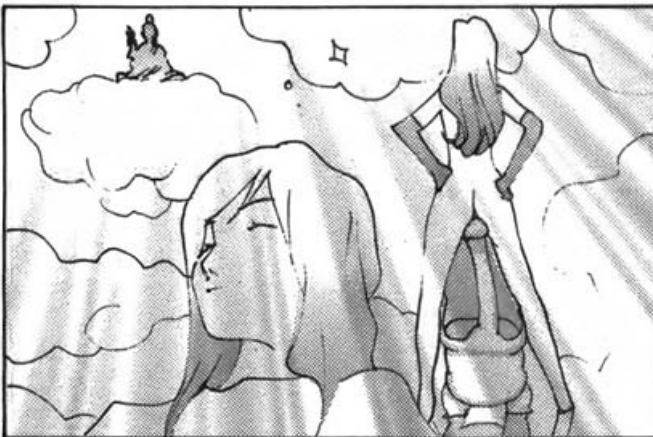
M将軍は地球占領軍司令官で初代地球都督となった人。当時ヤプーの語はまだなかったが、彼は^{エイ}類人猿と称んで人権を剝奪した

[例 2 注]



P・D卿は肉便器使用の先駆者。

[例 3 注]



テレパシツク・セツチン エリジアン・マシン
読心能付肉便器を極楽機械というのもこれから来たことである。oshickの語が三能具だけでなく、単能具にも用いられる例。

OSHICK

[əʃik] 外来語

[語源] oshikko (旧家畜語)

[名詞]

(1) ^{オプサリート}[廃義]尿。小便

比較→UNGK[un̩k](大便)

①[本来は古体OSHIKKO]

[óʃikou]を用いて]

ヤプー尿

[用例]

(例1)

人間でなく猿^{エイ}ということは雄^{メイル}特有の立小便のふうでもわかる。便所を持っていても猿真似した借り物に過ぎんから、尿意を催すと便所でない所でoshikkoを放出するんじゃ。

J・ラッセル編

「將軍マック言行録 (地球都督時代編)」

②[転じて]

人尿

(例2)

儂はその仔畜人^{カブ}cubにいった。「お前は今日から^{ユアリナル}小便所じゃ。儂のoshickが^{ドリ}お前の唯一の飲み物になるのじゃ」。

B・スタンウィック編

「卿P・ドレイペア書簡集」

(2)[自動詞から]

(ヤプーが)起立すること。

①(肉便器の)立位

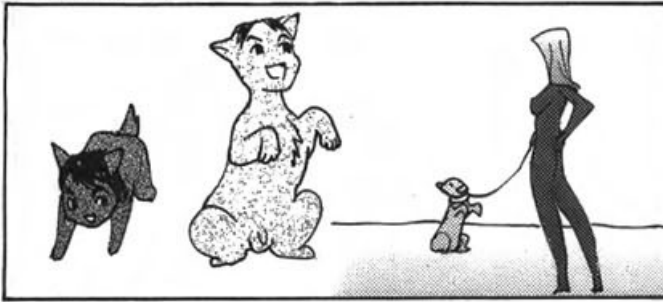
(例3)

歴史時代、印度仏教の経典に無量寿仏^{あみださま}の極楽世界を説いて、そこでは人は心に排泄^{おも}を念えば大地が開閉して不浄を受け容れると叙しているが、心に放尿^{おも}を念うと、すぐ、セッチンがoshickで前に立つわれわれ貴族の生活は、昔の人には^{パラダイス}極楽とも^{エリツアム}浄土とも思えるわけだ。

A・ヘプバーン

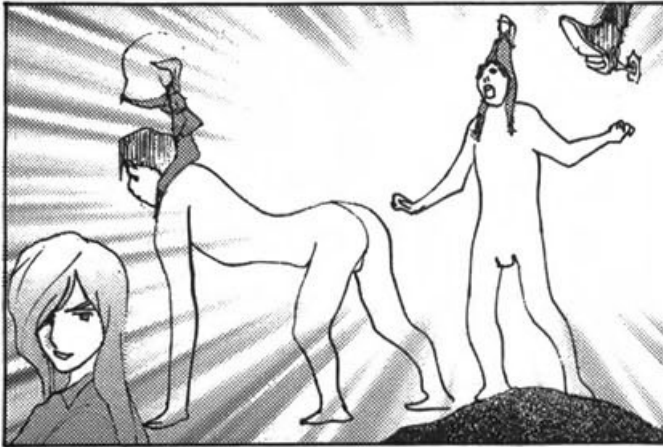
「古代宗教雑話」

[例4注]



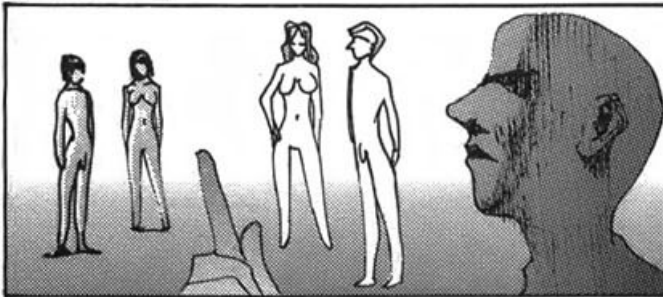
外に出すとは、それまでは畜人犬場内の電流の通じた低天井の室^{ケンネル}で飼育されているからである。フンデ星は犬の生産地。

[例5注]



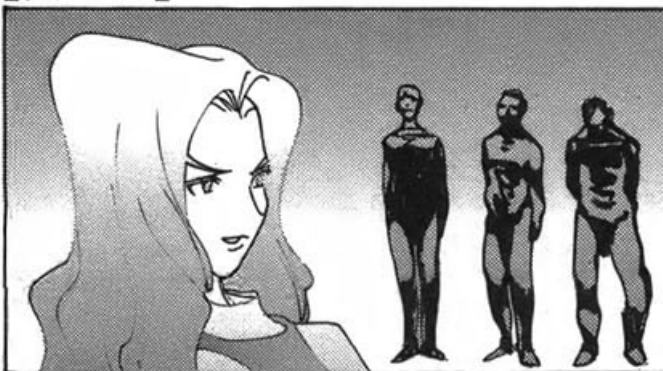
馬とは畜人馬^{ヤップ・ホース}。騎手を肩車に乗せて走る巨人ヤプーで後章「畜人馬アマディオ」に詳述する。

[例6注]



「ローゼンバーグ畜人論」は第四章参照

[例7注]



J女卿は第三章「自己紹介」参照。立ちん棒は横臥^{おうが}を禁じる黒奴への刑である。混尿酒とあるのは、当時の醸造過程がなく白人尿を酒に割るだけだし、黒奴酒の名称もなかったため。

②(犬の)チンチン

(例4) 満2年で完全に這うことが身についたら、仔犬(puppy)を外に出して、初めてoshickを仕込みます。

I・バーグマン
「フンデ星紀行」

③馬の立姿勢

(例5) さても女丈夫エド・フィエール
oshickの馬の肩にまたが跨り
拍車きらら燦と輝いて
威風ま辺りを払いけり。

J・モロー
シヤタレーン
「女城主 (物語詩)」

④(原ヤプーの)起立

(例6) oshickしている原ヤプーを立っている人間と比べて見よう。どこが違うだろう？

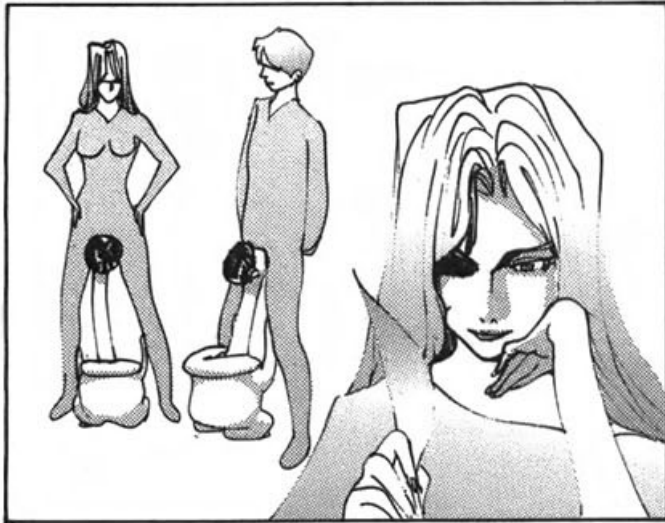
S・ローレン
「ローゼンバーグ畜人論の擁護」

⑤[転じて]
(黒奴の罰としての)
立ちん棒

(例7) 妾は一方カクテル混尿酒を与えるとともに、他方気に入らぬ黒奴はどしどしoshickに処したから、彼らは愛されると同じく恐れられた。

女卿ジャンセン
「回想録」

[例 8 注]



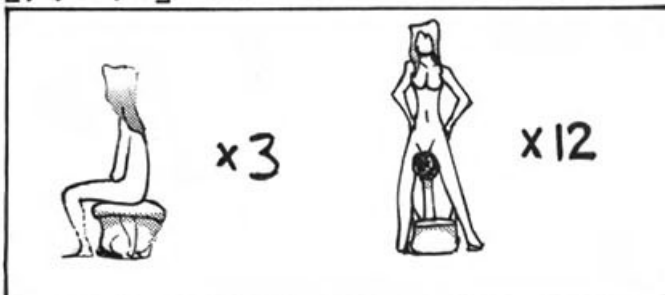
G・Cはモナコ星都督だったが、夫君は乳児時代肉襁褓が悪い癖をつけたため、生涯強く吸わせながらでないとならぬと放尿できなかつた。それを不具扱いする人がいたので、彼女がこれを書いたといわれる。

[例 9 注]



D・Dは、学問の対象にならぬとされていた家畜語を初めて真面目に考察した人で誤謬がなくはないが、研究の結果には卓見が多い。アシの由来には異説もあるが、エンコ・アンコの解は既に定説である。

[例10注]



鳥類の長命は排泄物を体内にためないからである。イース人は便意を我慢しない。健康な普通人で大便三回、小便十二回が一日の定数である。

(3)[他動詞から]

(ヤプーを)立たせること。

[特に]

(セッチンを小便に)使う
こと。

(例8)

セッチンの^{つかいかた}oshickにも人によって違いがある。妾は^{ピス・ホット}両股で尿壺頭を締めつけながらでないと、うまく放出できないが、感触だけで放出できる人も多らしい。男にも、唾えさせるだけで出る人、吸わせないとダメな人、いろいろあるようだ。

G・ケーリー

「随筆・こんなこと」

(4)[熟語]

OSHICK and unγκ

(立つことと坐ること)

(ヤプーの)両姿勢

(例9)

oshickとunγκが改めて家畜語にはいると、オシッコ、ウンコはアシッコ、アンコと発音され前者は立つためのアシ(脚)となり、後者は坐る意を保存したまま変音してエンコとなった。なお家畜語で柔らかい甘いものをアンコというのは、セッチンに対するunγκoから連想されるものが直輸入されたのであろう。

D・デイ

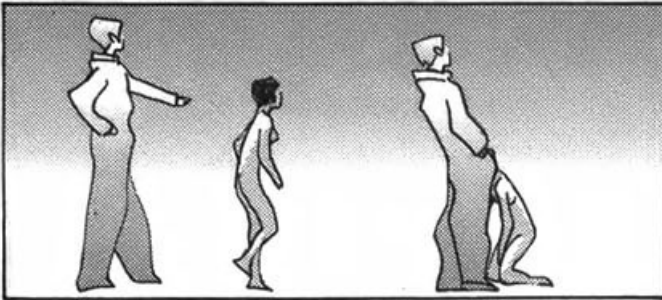
「家畜語考」

(例10)

「unγκ三回、oshick十二回」健康体の意。

(諺)

[例11注]



ゴンタ星での風習は前章「標準型肉便器」参照。この時代にはヤプーが主人と対話したりする地方もあったことがこの記述からうかがえる。

[例12注]



oshickが命令語として確立する以前にはstand upという命令も用いられたことがわかれう。warraはセツチンの幼児語でオマル、オカワといった感じ。I'll make water.(小便したい)の末尾の語から訛ったものでI'll spit.(唾を吐きたい)が転訛してilspy(肉痰壺、今はスピツーンという)になったのと同じ過程である。なおwaterは別途家畜語の語彙にはいって、貴重な神聖な(すなわち白人関係的な)物質を意味する語ワラになっている。

[自動詞]

(1) [^{オプサリト}廃義]-ed, ed

排尿する

比較→UNGK(大便する)。

①[本来は古体OSHIKKO

[óʃikou]を用いて]

ヤプーが排尿する

(例11)

「おい、どこへ行く」「ハイ、oshikkoに…」

「その前にここへ首を入れろ、俺がど小便したい」。

H・ネフ

「ゴンダ星異聞」

②[転じて]

(人間が)小便する

(例12)

^{スタンダツプ}「お起ち」とお姫様は肉便器に命じ、それにわかる言葉で付け足しました。「妾ハoshickがシタイカラ」。

M・オハラ

^{テンドーハーテッド・プリンセス}
「童話・情深いお姫様の話」

(2)現在は自動詞としては次の命令のみで用いる。

[受命自動詞]

命令形OSHICKO[oʃikə]

略体SHICKO[ʃikə]

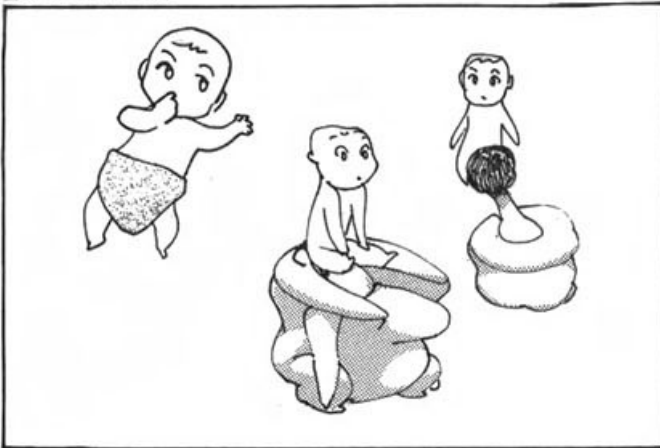
(ヤプーに対する)「起たて」

[起立号令]

反対→UNGKO[unke]

(坐れ)

[例13注]



おむつヤプー
 diapooはdiaper-yapooの縮合語で、乳児の股間を常時清潔に保つための^{ダイパー・カバー}襁褓被覆の下に矮人を入れたもので、mens-midgetと同様の着想にもとづく。紙や^{テフキン}布の襁褓のように、交換の時不快な便臭がないし、交換も六時間おきでよく、便の異常は矮人が教える便利なものである。J・Sは星間風俗研究者としても著名。

[例14注]



Q伯爵については本章1参照。ニュー^{アードル}マ^{カニス}Numaは畜人彪犬(毛の刈り方は旧犬の場合と同じ)の名で犬の名としては最もありふれたもの。

[例15注]



(例5注と同じく)

①[本来は]

(三能型肉便器に対する
命令)立位を取れ

ドリンク・ピディング
(賜飲命令として廁蓄
の理解するのは「飲め」)

(例13)

ディアブー
肉襠褌は生後十か月くらいでとどめ、以後はひ
とりで排便させましょう。オシツコ ウンコoshiko、ungkoは片言
でもいえますから、すぐ肉便器ワアラが使えるよう
になります。ヤブーン・レコード畜語音盤を聞かせるのもずっと後で
よいのです。

J・シモンズ
しつ
「躰読本」

②[広義化して]

(ヤブー系動物への)
起て。

特に(犬に)後脚で立て

(例14)

彼女の愛犬ニューマは脳の言語中枢を抜かれた
犬であったが、oshickoといわれれば、どんな犬
より素速く後脚で立って、獅子ライオンのように刈り込
んだ上半身の長毛を誇示するのだった。

J・ドルー
「クアドリー伯爵伝」

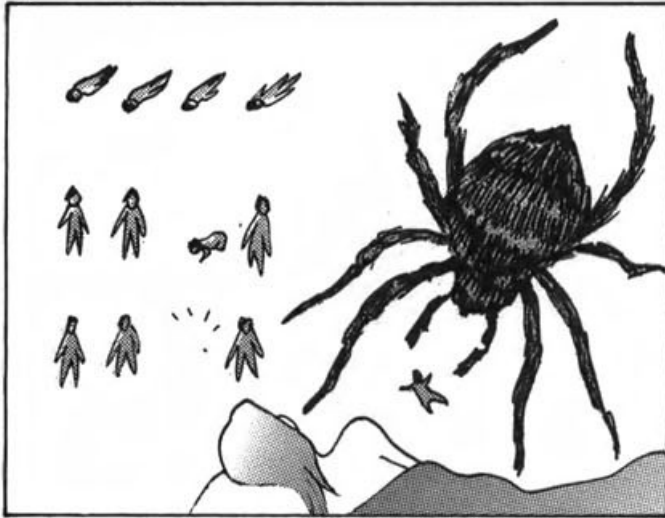
(馬に)立ち上がって走れ

(例15)

飛び乗りながらoshickoと叫び力強い一鞭を入
れた。馬は彼女を肩に、跳び起ち上がって疾駆
し始めた。

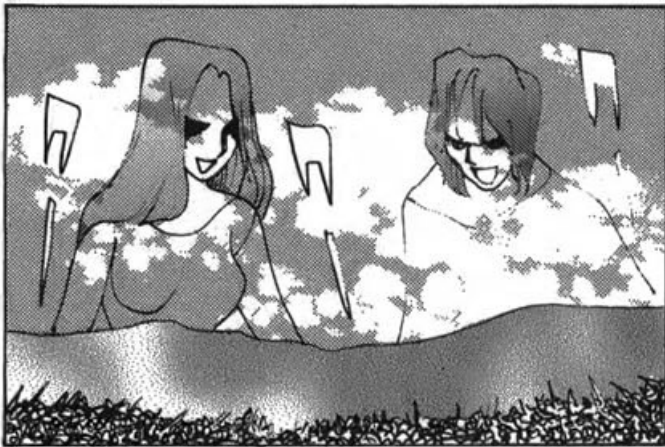
E・ガードナー
ブラック・ネビュラ
「暗黒星雲から来た娘 (長編小説)」

[例16注]



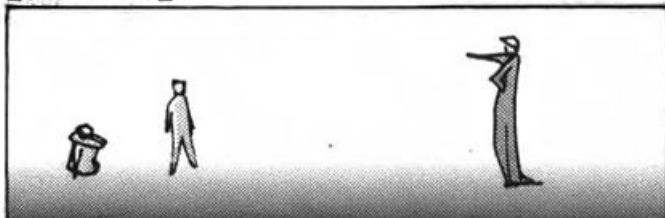
E・T自身は寝台に寝たままでヤプーどもを起し、その様子を遠写画面でテレビ・スクリーン見ているのである。巨大蜘蛛については第三章の注参照。

[例17注]



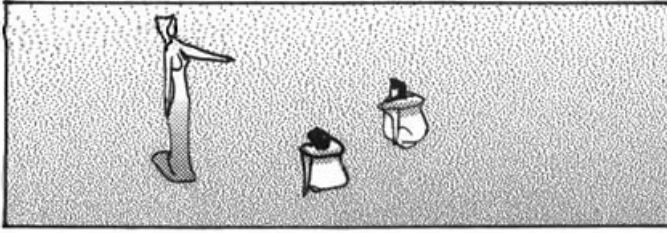
「神々の競技」と総称される矮人を使う遊戯中、いちばん大仕掛けなのがTrojan-war-gameで、武装の矮人千人ずつを指揮して戦争する。血みどろの戦闘をながめる気分がトロイ戦争に臨むギリシャの神々さながらなので、この名がある。規模を小にし、素手で格闘させる型の競技には矮人将棋チェスというものがある。

[例18注]



立位を取らせるのに二度も号令を掛けねばならぬのはセッチンとして不良品である。M・Dが息子が二度号令したのを見て不見識を叱った故事から出て廃品や無能者を処分する時に用いられる表現。

[例19注]



もちろん、一度に二台のセツチンは使えないからである。

[例20注]



かんぶ 悍夫ペトルキオが、結局は細君やキャサリンに征服されて貞淑になるという筋の喜劇。

[例21注]



星の名はセツチン製造所のあるアポルト星である。

[例22注]



有魂計算機は、電子人工頭脳の回路の要所に矮人を入れて有魂にしたもの。

(例19) 「一度に二台にoshickいうな」
(ムダなことをするなの意)

(金言)

[他動詞]

-ed.t

[自動詞(2)から]

(1)起立号令をかける

(例20) 夫は、妻からたとえoshickされても口答えは禁物です。妻の望みなら、私はいつでもこの手を蹂躪してもらおうと思います。妻は夫の主君なのです。

T・ムーア

「じゃじゃ馬馴らし・五幕」

(2)(ヤプーを)起たせる

(例21) 陛下の御足がこの星の土を踏まれている間、全ヤプーをoshickし続けるように、との宮内庁の意向が内達された。

G・ガースン

「ゼオドラ女王朝史」

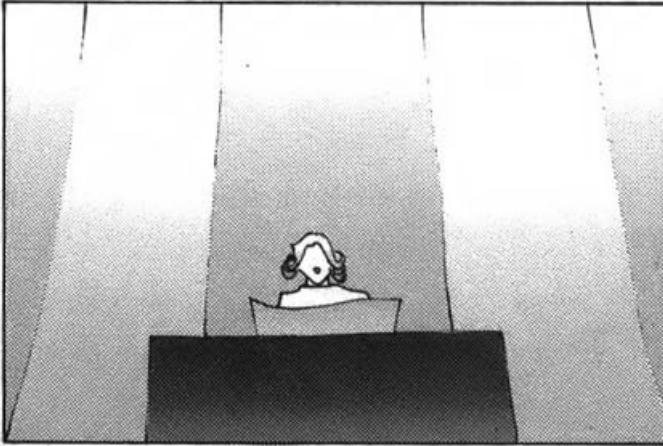
(3)(OSHICKの号令を
かけて)起動させる

(例22) 近時^{ヤバマトロン}有魂計算機の起動と制動をoshick, unckの語で表現する者があるように聞き及んでおりますが、どうかと思うのであります。

「国語審議会議事録」

(デボラ・カー委員の発言)

[例23注]



エビデンス・マシン

証拠算出計は陪審員に代わって証言の信用価値を計算する機械。縮小刑、その他の司法制度は後章で詳述する。

[例24注]



イースでは男性は学問美術音楽等に携わり、勇壮なことは女性の領分だからである。このパーカーは女権革命最初の婦人総理の子孫。

upという語を用いず、すべてOSHICKで代用する。またto say OSHICKO (オシッコという)が用便を意味するのは、OSHHICKOがいったん古義を離れ排泄と無関係な起立動作のみの意義と観ぜられて後に(昔、手と紙で尻をぬぐった時代に「手洗い」という語が便所を意味したような)排泄に関する直接表現を避けた婉曲語法として成立したもので、三能型肉便器にとってはdrinkの意味のみとなっておりUNGKOが「大便」の古義が忘れられ、「座れ」からeatにまで広く転義したのと並び、旧家畜語の語義変遷の好例とされる。

お断り なお、各例文には年代が掲記されその意義での初使用時期を示しているが、イース紀元年数は、カルー星の一年を地球時の十八か月として換算せねば無意味だし、ここではそこまでの必要もないと見て数字は省略した。

(4)[熟語]

to OSHICK a person
(ある人に起立号令をかける)
原ヤプー扱にする。
人格を無視して侮辱を加える
意味

(例23)

^{エビデンス・マシン}
証拠算出計によれば被告人の有罪度は八十度強
である。よって被告人は被害者をoshickしたものと認め、名誉毀損の罪により縮小形二級三年に
処し被害者に責付するものとする。

V・リイ判事
「判決録」

to unγκ and OSHICK a horse
(馬を坐り立たせる)
馬にまたがる動作

(例24)

母の血を引いたか、男のくせに子供の時から
^{ライディング}乗馬が^{ポニー}好き。仔馬を買ってやると、上手にunγκ-
and-oshickします。今度は^{ベガス}天馬をほしがり始め
ました。

E・パーカー
「おてんば息子を持てば」

[語史]

ヤプーの文化史的運命を象徴する語のひとつ。初期にはOSHIKKO、OSHICKO
とつづられ、ヤプーの(排)尿を意味したが、エンジン虫寄生によってヤプーが
排尿と無縁になって以後、語尾の-Oが脱落して人間に転用され、セッチンへの説
明語として用いられる(用例12)うちに起立を意味する号令語と変わり、女権革
命後は尿の意はまったく忘れられて、起立の意味の受命自動詞として意識される
に至り、最後に他動詞化した。ただし、常にヤプー系動物に用いられ人間には用
いられない、黒奴にも刑罰用語以外は用いない。逆にヤプーに対してはstand, stand

かように
イースの人々に
とって

oshick,
ungkの
両語は

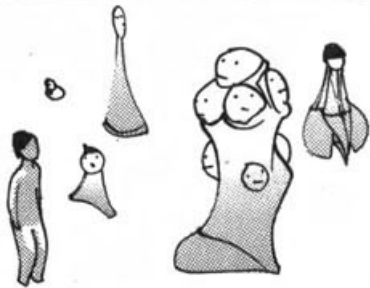
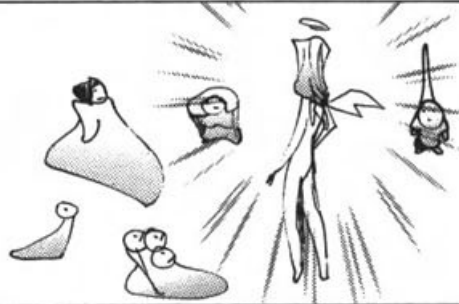
本来は
動作(起立と胡坐あぐら)を
意味するのみで
排泄行為とは無縁な
語である



この事情は
「言語を解する家畜」
たる
ヤプーにとっても
変わらない

彼らはこの両語を
特に語尾に
Oを付した語形で
命令語として
理解し
記憶している

旧家畜語彙での
原義などは
すべての
ヤプーの誰もが
知らない



いや

大小便や
飲食物の
観念のない

彼らは



かりに
原義を
教えられても

充分には
理解し得ない
だろう

この点



起立号令を
賜飲命令と



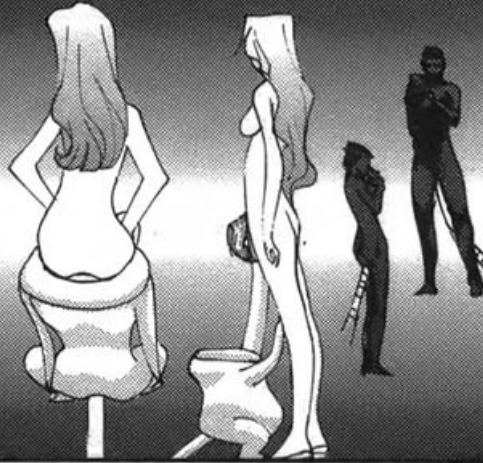
胡坐号令を
賜食命令と



解する
セツチンたちは
多少特権地位に
ある



彼らは
自ら誇りをもって
一見黒奴風の
摂食・排泄を営み



また
職業柄も
人間の排泄を
理解している

が

大小便と
飲食物という

本来まるで
違った
異質の事物が

概念において
渾然一体に
なっている点では

やはり
畜生は畜生

黒奴たちとは
まったく違うのだ



廁畜たちは

たべもの
foodと
のみもの
drinkという
二つの概念だけで
事態を理解する

彼らが
口から摂取する
固体・液体は

とりもなおさず
人間(白神)の



肉体から出る

固体・液体
なのだし



自身は

排泄を
しないの
だから



彼らは
fecesだの
urine
だのという

他の概念の
必要を感じないので
ある

今
出て来た
セツチンに
ついて

事情は同じだった



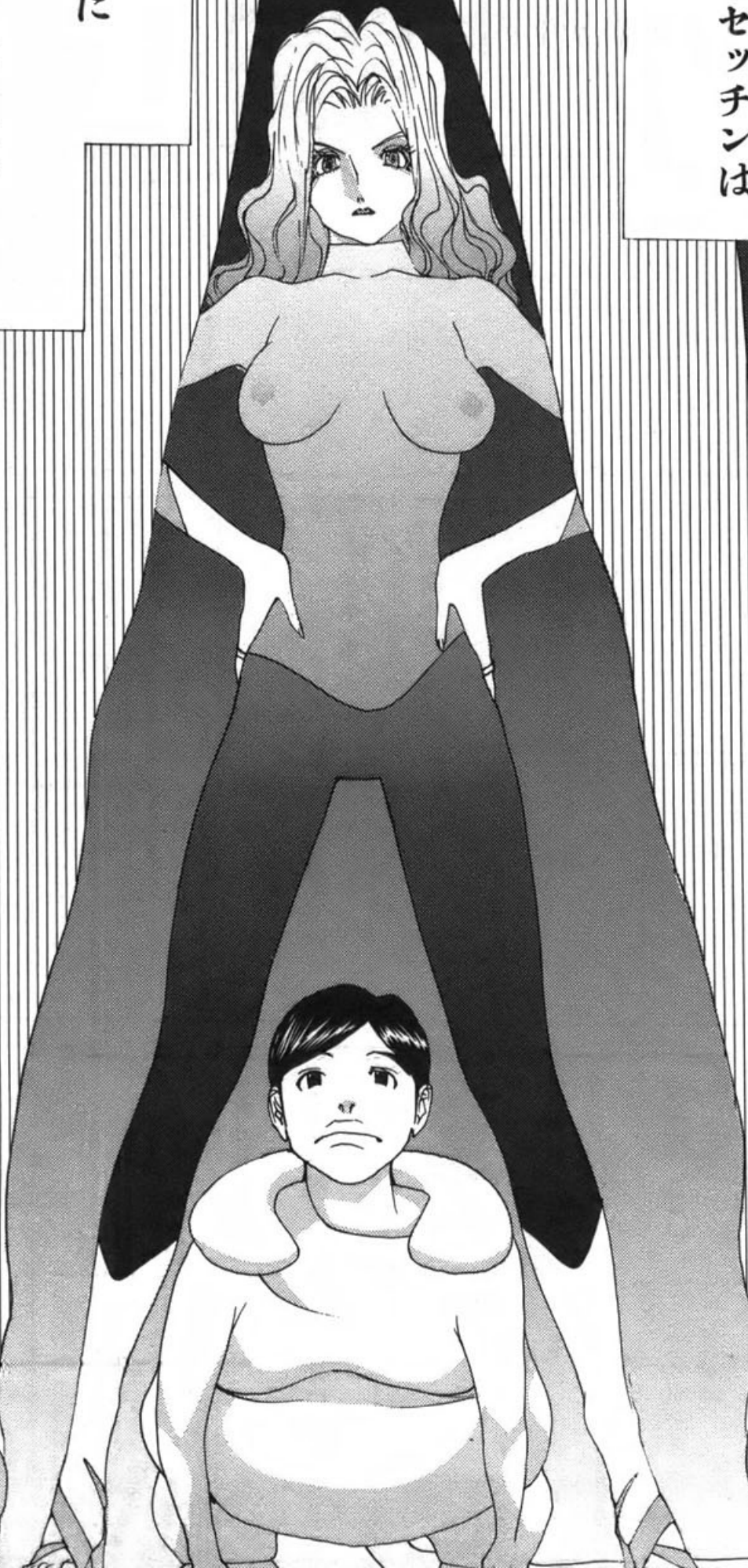
このセツチンは

既に

三十八歳である

第七章 第一の経験

第二話



三十八年前

アポルト星の

ヤブリーナリイ
大飼育場で

生まれた時から
今のような奇形
てあり

生まれると
すぐ

肉体改造の
手術を受けた

生育してから
右肺を剔出
したのでは

その空間を
胃が充分
利用しうるに
至らないからだ

いっしょに
いる仲間も
同じ姿であつた
から

彼自身には
不具・奇形の
意識は生じな
かつた

唇の吸盤を
使って

遊ぶ
乳児期が
終わると

サイキョ
畜体循環
装置は

まだ
つけられず

個性を
持ったまま

三歳になつて

訓練所に
はいった

黒奴教師が

まず
物いう
術を知らない
彼らに

ヤブリン
家畜語を
聞き解することを
教え

次いで
白神の像を

礼拝させた

しかし
その礼拝の
対象は

白神像全体ではなく

※アポルト星飼育所の職制でいえば厩畜製造工場の心身馴致係員

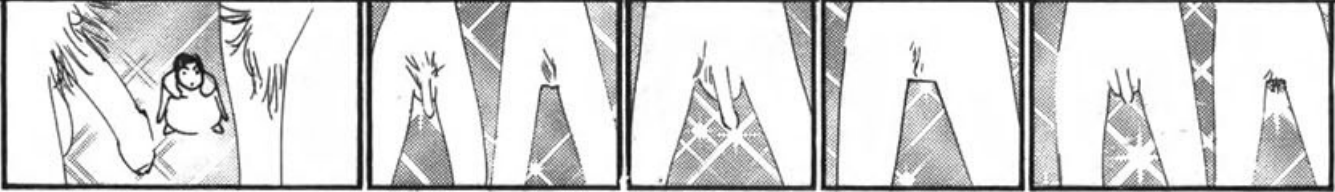
全裸の
下半身の
局部であった

女神様
と

男神様
とは

ハッキリ違った
御神体を
持っておられた

どちらにも
聖陰毛を
生やして
おられるが



その毛の
色は
金色もあり
褐色もあった

土下座して
礼拝したあと

接唇^{キス}を許される

そのたびに
漂ってくる
独特の臭気も

いつか快い
芳香と感ずる
ようになっていたが

それが何の匂いかは
まだ知らなかった
のである



六歳で
小学校の
普通教育が
始まる

三十二年前の
ことだが

今でも彼は
教師が最初の
時間に彼に
説いた
福音への
感激を忘れない



別の世界

あの天の星の
世界

に

白い神様は
実際に
いらっしやるのだ

お前らが
この三年間

御姿を
礼拝してきた
神様

その神様は
お前たちの礼禱に
応えて

お前たちを
お召しになる



お前たちが
毎日嗅いできた
あの好い匂いを
たっぷり嗅がせ

おいしい
食べ物
飲み物を
お恵み下さる
のだ

その日は
きつと来る

そのために
選ばれた
お前たち
なのだ

その日に備えて
勉強
するのだぞ

白神実在の
認識

選^{エリート}畜

としての
セツチンの
自覚

神に奉仕する
将来への
輝かしい予感

それが
彼の心身を
播さぶつた

授業は
宗教と
学科と
術科とが
ある

宗教は
白神崇拜の
教義

学科は
起立作業
胡坐作業に
対応しての
讃歌の暗誦の
ほか

白神の
日常生活に
ついて
学ぶのである

家具として
神様の室内で
活動するとき

他の家具仲間の
名称や効能を
知らねば困る

そういった
意味で
特に神々の
衣食住形態は
詳しく教え
られたが

必ずしも
個室備え付けに
なれるかどうか
わからないので

とにかく
神意の御都合で

どこに
向けられても
まごつかない
よう

イース世界の
ありと
あらゆる
乗り物のことも

宴会場や
劇場のことも

また
ゴルフ場の
茂みに
隠された
OSCの
ことも
学習
するのである

※彼ら自身のように生きているのもそうでないのもあるが――

術科は
聴覚訓練の
ための
音楽と



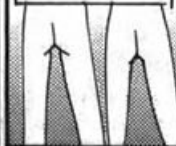
食事作法の
実習だった



実習は
アンドロイド
相手になされる



すべて
※
BAであって



肉体的には
肌の白さも
肉付きの弾力も
粘膜の湿潤度も



人間
白神
と全く
同様である



この白神
アンドロイド
たちが
いろいろの
衣装で



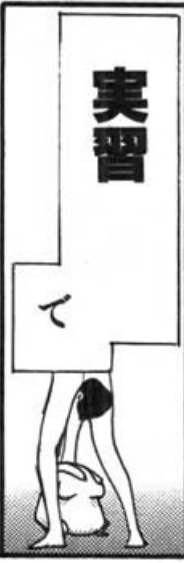
様々な姿勢で
セツチンを使う



それに応じて
奉仕を提供する
のが



実習



接触するのは
下半身だけ
だが



皮膚の感触も
体温も



白神と同じ
だから



張り合いが
ある



そして
生徒たちが
正しい
姿勢を取って
初めて



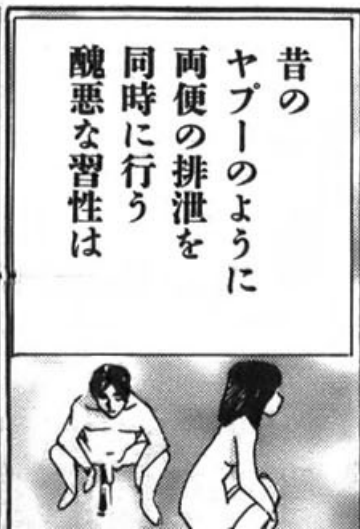
一回分の
飲み物なり



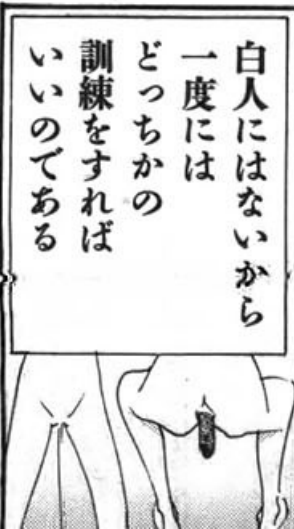
※
食べ物なりが
実物同様の
芳香と
温度とを伴って
放出される



昔の
ヤプーのように
両便の排泄を
同時に行う
醜悪な習性は



白人にはないから
一度には
どっちかの
訓練をすれば
いいのである



ウシッコ
賜食三回

オシッコ
賜飲十二回

と言ってな

お一方の神様が
お前たちに
お恵みになるのは

食べ物
一日三回
飲み物が
一日十二回だ

だが

それは
平均してのこと

実際は
主なる神様は

いつ
下関係の御用に
お前たちを
お召しになるか
わからない

お客様の
御用も
あろう

いつでも
即座に

お恵みに
あずかれるように
心がけねば
ならない

セツチン族の
信仰には
この心がけが
第一だ

オシッコ(立て)
とおっしゃったら

これは
オシッコ・ビヤン
賜飲命令

飲み物を
お恵み下さる
から

おん前に
立位をとって
神様の
お股の御神体

飲み孔の
ほうへ

首を
伸ばすのだ

おん前に
立って

伸ばした
首を
ひねりながら

顔を
仰向けてな

お股の
開いた
ところに

さし
入れながら

唇を
開けていく

その
タイミングが
大切じゃ

吸い着いて
壺に
なるの
じゃが

聖陰毛に
気を
取られると

ニテライ
気密に
ならんから
注意せいよ

降りてくる
お腰を

下から
壺で
お支えして

動きを
そこで
お止めする
気持ちでな

そして
ご下賜を
待つのがじゃが

女神様に
よって
いろいろな
癖が
あるぞ

こちらの
顔がはいつた
とたん

すぐご下賜
なさる方

いったん
こちらの顔を
締めつけてから
なされる方

お年齢も
召した方の
ときには

まず
こちらの舌で

刺激を
加えて
差しあげる

ことが
必要なことも
あるから
注意せいよ

さ

実習

彼は
今も
実習第一回で

女神の
聖水を
頂戴した時の

口内皮膚の
痺れるような
感覚を
印象深く
憶い出せる

彼女の壺と
化した
口腔内の

※
一点に
注ぎ掛けられた



※模型であるが、彼の顔面にかかってくる臀部の下圧力もお尻の
つめたさも人間と全く変わらないのだ

※その一点がどこになるかは模型ごとに違うのだが、その時
は縮めた舌の中央部だった

口蓋にまで
はねかえった
細い流れの
強さ



その流れが
次第に太く
進って



注がれる
面積と共に
増していった
水勢の激しさ



口腔内に
漲ろうと
しつっ



食道へ流れ
吸われてゆく聖水が



舌根を
浸し



咽頭を
過ぎた時の



忘れられぬ
味



その後
何回味无穷か
知れぬ液体の



そのつど
微妙に
変化しつつも



ついで
変わらぬ
塩味を初めて
味わい知った瞬間の



あの
至福



下手すると
溢す
「受け難さ」は
あるが



「味わい易い」
女神の聖水よ



それが
熱くもなく
冷たくもない
という当然の
ことさえ



女神が
自分のため
わざわざ
飲み易い温度に

体内で
調節された
ように
思えて

その時は
感激
したので
あった

次は
男神様の
とき

御神体が
飲物管に
なっております

それを
おくわえ
申すのだ

女神様とは
違うぞ

この時は
伸ばした
首を
ひねらんで
いい

顔を
そのまま
お股に
さしあてて

お召物から
外へ出ておる

御神体を
くわえるのじゃ

男神様
ご自身が
お手を使って
下さることは
決してないぞ

御神体は
ブラリと
垂れ下がって
おる

その先を
くわえて

下唇で
掬うように
して

筒ごと
舌の上に
お乗せし

根元まで
くわえこむ

このコツを
のみこむのじや

御神体の
真白い肌を
外気に触れ
させたら恥と
思えよ

これも
くわえた
だけで
出される方

吸わないと
いけない方

癖が
あるから
気をつける

さ
実習

※
男神は
スカート
を
召されたのが
多く

彼はまず
首をその中に
さし入れねば
ならなかった

孔^{くちら}の作った
小穴から
垂れ下がって
いる
御神体は
たしかに肌白
だったが

血色よく
ピンクに
見えるときも
多かった

そして
その長さ
太さが

男神ごとに
違うことを
彼は実習を
重ねつつ学んだ

開けば径十センチの
壺になる
彼の口腔は
並の原ヤブーのより
広く深いのだが
それでも中には

彼がやつと根元
までくわえると
筒先の包皮^{とがり}が
口蓋垂^{のちんこ}を
押しつけ
咽頭に接触し

※御神体は包莖が普通なのだ

※ヤブーのちんこが白神の玉茎に抵抗するという本来あり得ない不敬の事態も、セツチンの口腔内という特殊な環境では起こり得るのである

聖水が
直接
食道に注がれる
ような



大型の
御神体も
あった



大方は
それほど
長大では
なかったが



舌の上に
横たわり



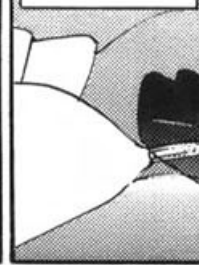
水平に
支えられた
御神体の筒先は
多少の差はあれ



咽喉元近くに
届くので



そこから
迷る
ストリーム
聖水流は



舌根を超え
口蓋垂を
勢いよく
洗いながら
奥の咽喉部に
激突し



滝つ瀬と
なって



食道へ
下ってゆく



くわえたのが
童神こどもので
ないかぎり



男神の聖水ワラが
口腔内に
漲るような
ことは
起こらない



そこで
放出が
終わって後
軽くしたたって
舌根を濡らす
幾滴かを別と
すれば



聖水の味を
知るには



御神体が
抜かれる
直前



筒先を
くわえ直し
包皮の先に
宿る
一滴を強く
吸いながら



舌先で舐め取る



その瞬間を
待つしか
ないのだった



放流の続く間
それを待つ
待ち遠しさ



そのあと
漸くくる



※生活形態の受動的なセツチンとしては自分の舌を使うこの作業の積極性は一つの生き甲斐なのだが白神にしてみればセツチンをそう仕込んだことによって、放尿後の滴の振り切りの労が省けるわけなのだ

甘露一滴の
味わい



まことに
「受け易い」が
味わい「難しい」のが
男神の聖水で
あった



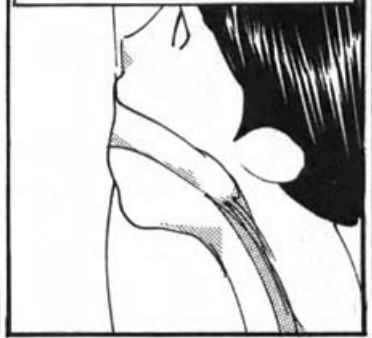
なぜそうなのか
筒先をくわえれば
味わい易いだろうに
なぜそれが
セツチンに許され
ないのか



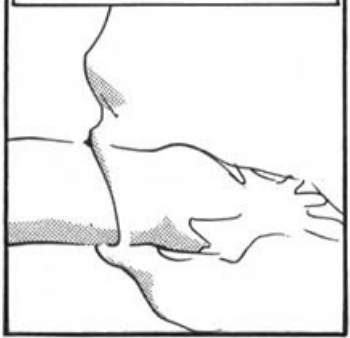
根元まで
くわえさせると



尿流は
直接咽頭に
注がれ
口腔内に
溜まらない



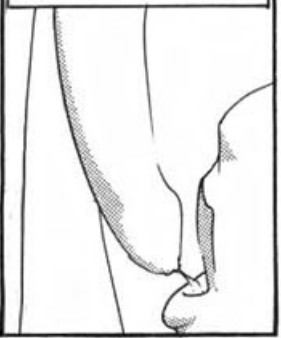
中途半端な
くわえ方だったら
口腔内の筒が
濡れてしまうが



これなら
濡れない



つまり
筒が尿で
汚されずに
済む



「根元まで」が
セツチンの
作法となっている
ほんとうの狙いは
そこにあるのだが



なにかが聖水で
汚れるなんて
ことが理解できない
であろう
セツチンには



御神体は
外気を
嫌われる
から…



とだけ教えて
あるのである



今度は
食べる方を
やる

イト・ビディング
賜食命令は
ウンコ(坐れ)
だ

このときは
フード
食べ物を下さる

女神様も
男神様も
同じだ

この時は
うしろに回って
坐位で
仰向いて

お尻の
フードホール
食物孔が

開けた口の
真上に
来るように
する

いいな
お尻に
顔を合わせる
のであって

神様の
ほうで

顔にお尻を
合わせて

下さると
思ったら

大間違いだぞ

さ
実習

実習して
みると
これは
思ったより
むずかしい
ものだった

およそ
脚の長さ

それも
膝から
下の長さ

上の長さとの
比率

更には
太腿の
厚みにも
よっても

腰を
下ろしたときの

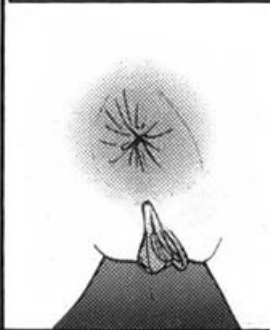
臀部の在処

肛門しりのあなの位置は
微妙に
違ってくる
ものだ

ウンコの声を
聞くと同時に

その声の主なる
神様の
おみ脚の長さを
一目で測定し

聖なる穴が
下り切ったときの
位置を予想して



坐るの
だが

降下した
臀部を
肉瘤で
支えたとき

聖穴の位置が
ずれていた
からとて
坐り直す
わけには
いかなかった

初めのうち
彼はまだ
充分
見定められず



下賜された
ものが

壺の中央に
落ちないで

縁の唇に
触れつつ
すれすれに
口内に収まり

ヒヤリとした
ことが
何度か
あった

口に
受けた
とき



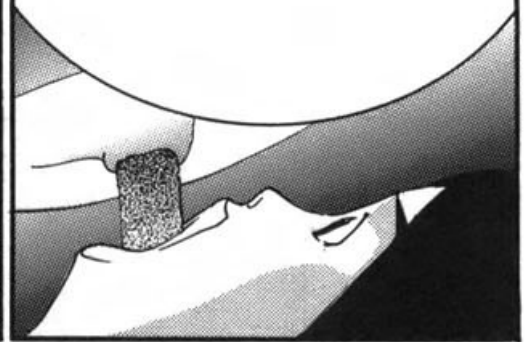
咀嚼かみの
気に
とられると

次のを
受けそこねるぞ

そんな
粗相の
ないように



一続きの
食べ物
長くても
途中で
口を閉じては
いかん



ご下賜下さる
神様に対して
失礼じゃでな



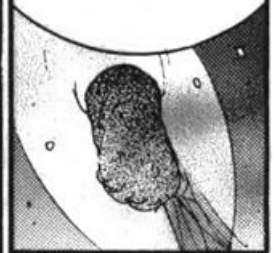
じゃが
それには
噛まずに
嚙みこむことを
修得せねばならん



これはコツがあるぞ



それから
立ちこめる
芳香は



全部漏らさず
息で吸い取れよ



外に漏らす
ような
もったいない
ことを
するな



さ

実習



前史時代
ヤブーの
大糞と
違い



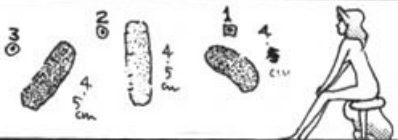
イース白人の
ものは



摂取する
食べ物の
吸収性が
優れている上



一日平均三回
という
排泄回数からも
一回分は
少量であって
長さ四、五センチの
固形物一つ



というのが
普通で
あるから



そのつど
楽にうけて

咀嚼
できる

しかし
訓練中は
あらゆる
状況に
応じ得る
ように
するため



丸く
固まった
秘結便



ドロドロの
下痢便



初め
太いの
に



次に
細長い
の



と二度に
分けた
もの



時として
昔のヤブー
のもの
さながらの
長い棒状の
もの



いろいろな
ヴァリエーションで
試験される



まず粘液で
覆われて
ころりとした
四、五センチの塊を



口に入れて



少しづつ
少しづつ



三十分くらい
かけて
歯と舌とで

ほぐしながら



溶かし

味わう



彼は
今も憶えて
いる



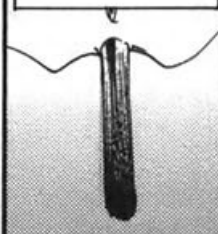
初めて
口にした
その味の
微妙さを



作業を憶えたあと



長さ
二十五センチもある
太いものが



いきなり下賜された時



彼は目を白黒させて



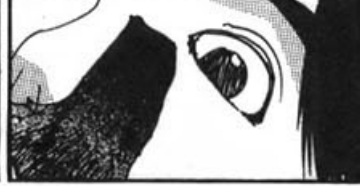
途中で口を閉じてしまい



その残りが
顔の上にゴロリと
載ったお蔭で



彼は初めて
アインシュタイン
神糧を
自分の目で
眺め



その
黄土色が



神々より



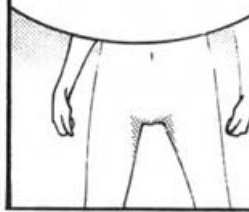
自分の肌色に
近いことを
知って



聖水だって
黄色だ



あの純白の
肉体の中で
作られても



俺たちの
食べ物・飲み物には
ちゃんと
俺たちにふさわしい
色がつくように
なっているんだな



と
摂理の
不思議を
感じたの
だったか



大失敗した



黒奴教師に



まだ
神の壺の境地に
なっていない



と
叱られたときの
恥ずかしさ



なにを



と発奮し
二度目は



そのまま
先のほうから
のどに
送り込んで



半分以上も
噛まず
呑み込む
要領を
会得したの
だったか



あのとときの
苦しかった
こと



食事後の
作法も
大切だぞ



舌(清拭)の
前に鼻(乾燥)を
使ってはいかん

舌を二度
使ってもいかん

ペロリと一度に

前・から
後ろへ

前というのは
飲物穴のある
ほうじゃぞ

食物孔を

大切な
御神体を

お清め
申すには

必ず
前から後ろへと
舌を使う

これが
作法なのじゃ

いいな
オシッコの時と
ウンコの時とで

神様と自分との
向きが違って
くるが
いつも

前から

後ろへ

じゃから

間違えん
ようにな

よいか

さ
実習

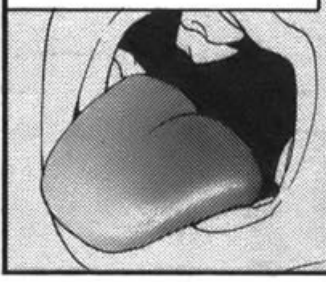
坐位の
セツチンが



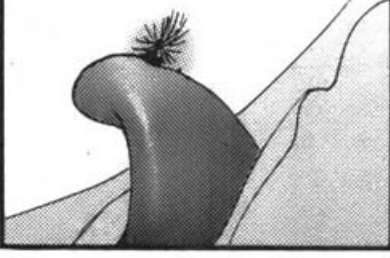
※
前から
後ろへ



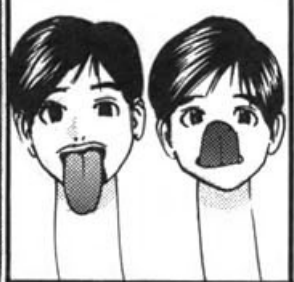
舐めれば
その
舌の上面が
使われる
ことになる



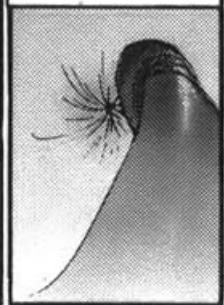
清拭効果は
そのほうが
優れているし



また
舌の裏側より
味蕾が
多いから



食物孔に
付着したものを
舐め取るとき



よりよく
味わえる
わけて



※
後述の
セツチンレポートが
正確にも
なる

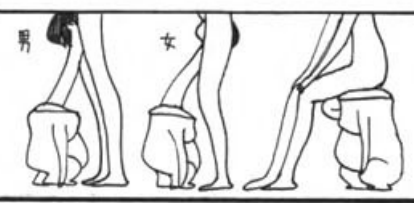


だから
前から後ろへと
教えられるのだが

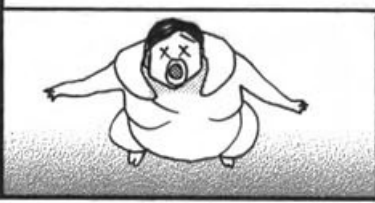


※女神奉仕の場合、顔の向きは結局同じになるのだが

※
坐位と
立位とて
身体の向きが
反対になる
ためか



セツチンの中
には
時々
これを
間違える
ものが出る



飲物孔の
あるほうが
前だぞ



と分かり易く
説かれても



なお間違っ
たことが
あるのだ



彼は
第一回の
実習以来



この順序だけは
一度も間違っ
たこともなく

※よりよく味わわせてやる、という点では慈善主義的でもある。白人便の苦さにもかかわらず、セツチンはこれを美味と感じるよう条件付けられているから。しかしそれは副次的効果にすぎない。

※セツチンに食事をさせたあと、尻の穴を清めさせるとき、セツチンの舌先はまず会陰に触れてから後ろへ動くのが常だ。われわれは子供の時からそれに慣れているので、逆に後ろのほうから舐められると気色悪く感じる。セツチンのこの習性はうまれつきのものでなく、訓練所で「前から後ろへ」と厳しく躰けられて習性と化したものである。ところで前史時代のヤブーの雌も紙拭いは「前から後ろへ」と躰けられたものであった。そこで家畜史家の中にはセツチン族への躰がこれに由来するとの説をなす者もあるが、誤解である。ヤブーには排便時に排尿も行うダランない習性があったし、紙による清拭は大腸(ポージー)へ

心
ひそか
に

それを
誇りと
していた



終わったら
サンクスギン
感謝礼拝だ

両手を合わせて
御神体に向かって
おじぎして
お礼申し上げる

ごちそう
さまでした

と真心こめて
念じるのだ

さ
実習



くどい
ようだが
感謝礼拝の
対象は

女神
男神
そのもの
でなく

その
御神体

つまり
聖孔(玉門)

聖管(玉莖)

聖穴(貴肛)
なのである



飲食物を
お恵み
下さるのが

体内で
それを
製造なさる
高貴な
白い神々
あることは

下半身模型
での
実習とはいえ

彼にも
分かってた

しかし
肌と肌とで
接触しても



菌除去が不徹底で不潔なものである。それにより雌ヤブーに会陰が下付きで会陰が短く、尻を拭くと前も拭けてしまうような個体が多かった。そこで衛生的配慮から「前から後ろへ」と教えられたわけである。しかしわれわれ白人には昔からそんなダラシない習性はなく、排尿と排便が別々であることはセツチン訓練の前提であるし、舌によるそのつどの清拭の滅菌効果は完全である。第一われわれイース女性(妾もその一人として言うが)の局部は上付きであって会陰は雌ヤブーのより長い。だから、衛生的配慮は無用なのである。
(J・フオンダ「家畜文化史漫筆」)

黄肌と



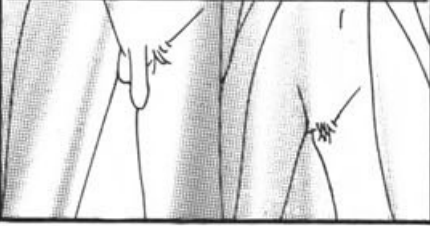
白肌は
異質
だった



賤しい
廟畜が
何を
思おうと



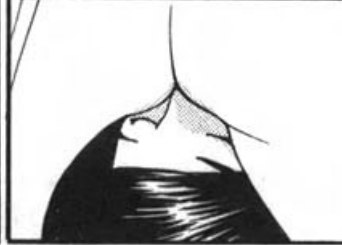
神様に
通じる
はずは
なかった



女神の
お股に
吸い着いて



壺と化し
放出を待つ
一瞬の敬虔な
ときめき



聖水が
口内に漲った
ときの



使命遂行の
充実感



男神の玉茎を
唇と舌で
捧持し



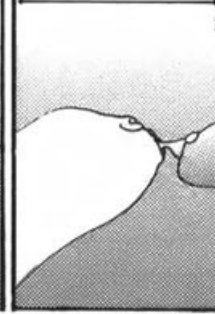
恭しく
口内に
鎮座させる
までの



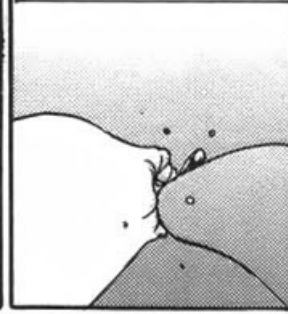
ひたむきな
奉仕の喜悦よろこび



残りの
一滴を味わう
ため



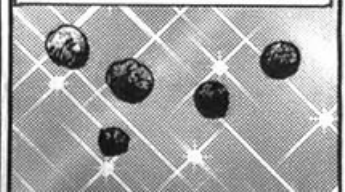
筒先に
自分の舌を
接吻させる
ときの



味覚を舌端の
味蕾に
集中させた
緊張感



丸い
コロコロ
した
秘結便を



唾で溶かして
猛烈な
苦味が
口一杯に
拡がって
くるときの



高貴薬
バナルシヤ
独占の
矜持プライド



そんなものが



神様に
分かるう
はずは
なかったし

分かって
もらおう
とも
思わなかった

ただ
せめて

この舌先で
触れた

聖陰毛の
中の

御神体に
対して

その感觸の
残っている
わずかな
間に

感謝の
至情を
表す
お礼を
言上したい

そんな
気持ち
彼は
感じるの
だった

こうして
初等課程を
終わると

十歳から
中学校に
入る

ここでは

「匂いの
研究」
「味の
研究」
などが
あつて

異常神体の
食べ物の分析を
学習する

健康状態の
神々のものと

病気の神々
からのものとは
どの点で
違うのか

肉瘤内に
開いていて

凹みの中に
こもる
臭気を
全部吸って
しまう

呼吸孔に
移植された
鼻粘膜が



まず
匂いて
嗅ぎ
つける



さらに
舌で
味わう



平生と
違う点を
明確にして



それが
神々の
聖なる
肉体の
どの臓器の
異常と結び
つかかを
憶える



下痢便と
胃腸カタル
などといった
初歩の
ものから



苦味の多少で
胆石を知り



特殊の味で
癌の初発を
知る



といった
昔では到底
考えられ
なかつた
便診断が
できるよう
なるまで



白神
アンドロイドの



下半身像内に
仕込まれている
物質複製機から



作られる
原物と



全く同一組成の
異常便で
繰り返し
実習する



これを
可能に
するためには



白神が
何を食されたかを
しらねば
ならないから



メニューの
研究も
並行して
なされる



五年目に
なると



食べ物を
一口味わった
だけで



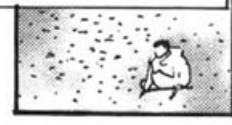
前日の
白神の
食事内容を
ビタリと当て



健康状態も
判断がつく
ようになる



そのメニューの
知識が
ほぼ五百種に
達するまで



各種の
白神便が

与えられる
のである



こういう
とき

セツチンは
間接ながら

その
白人の
食事を
味わい

おいしく
思っ
ているので
ある

もちろん
根本は
白神信仰に
よる
主観の問題で
あり



現に
信仰の深いほど

美味を感じる
度が高くなるの
だが

それとは別に
先に述べた
白人便の
高熱量性ハイカロリがある

便は畜人薬ミツツに
なるのであつて

セツチン以外の
ヤプーには
高貴薬として
めったに口に
できぬもの



それを
食べる

という
プライドが
更に
味をよく
するので
あろう

とにかく
白人の体内を
通過した
残り滓では
あつても

セツチンは
それを
おいしいと
感じている
のは事実なのだ

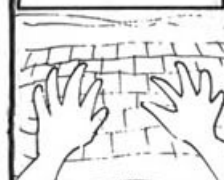


中学校では
また
セツチン
レポートの
通信法を
教えられる

畜人用
綴字機と
称する
一種の
文字盤付き
ファックスが

各SC内に
備えられて
いる

それを使って
ローマ字
家畜語で



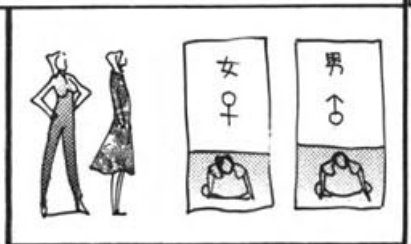
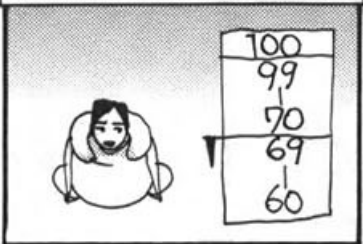
※その匂いを良い芳香だとしか思わないように

廃品処分に
付され

畜肥業者に
払い下げ
られてしまう

七十点未満だと
公衆便所用
共用器に
される

人の集まる
場所の
OSCは
男女別に
なっており

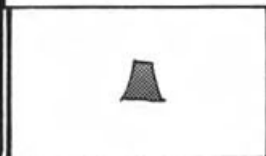


女子用セツチンの
額には
ズボンの図柄が

男子用の
額には
スカートの図柄が

それぞれ
烙印されて
区別される
のである

この試験で
百点満点を
取った者は
さらに上の



大学に
進学し

貴族用
畜畜としての

エリート教育を
施される

中学卒だけの
平民用畜畜の
やれる技術と
いつては
便診断だけ
だが

これだけでは
実は診断し得る
病気の範囲は
限られている

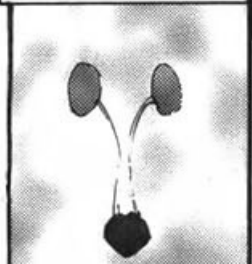


それで
さらに必要な
尿診断を
学ぶことに
なるのだ

検尿矮人の
ような
微妙な定量分析は
できないが

どの臓器に
異常が
あるかの
定性的診断の
できる範囲は
うんと増える

糖分検出で
腎臓の故障を
知る



などと
いった
昔からの
方法だけで
なく

二〇世紀医学では
到底望むべくも
なかった
早期診断が
可能になる

一方
メニユーの知識も
増えて
それは三千種から
一万種にも
及ぶ

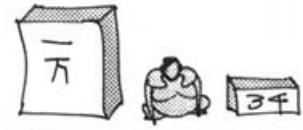


一般貴族で
三千種
大貴族で
一万種

食卓を
賑わす料理は
だいたい
そんなもの
だから

一万種を知る
セツチンなら
大貴族の愛用に
充分耐え得る
ことになる

そのすべてを
翌日の
便の



味だけから
推定できる
ほどの
能力を
持っているの
である

直接味わい
こそせぬが

二〇世紀
地球の

最も優秀な
料理人よりも
多くの料理

最高の美食家
よりも
多くの酒を知り



どこの
大学医学部
教授も
及ばぬほど
人体の生理
病理上の
知識を
備えている

これは
大学課程を終えた

幾万の
セツチンたちの

一匹一匹について
そういえるのだ

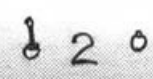


作業中
唱える
よう
教えられる
讃歌の数も

小学校では
立位・坐位対応の
二首だけだが

義務年限の
中学で
最低十首は
憶えさせ

大学では
百首と
だんだん
増えてくる



ただし
唱えると
いっても

聖水が
注ぎ込まれて
いる間は

〈肉壺〉に
化する存在

女神の
御神体に
唇を付けて
いるときの
口腔壁や

男神の
御神体を
載せている
ときの舌など



その筋肉の
静止は
絶対命令で
あるから

すべて
〈念唱〉
である

念唱とは
折念しつつ
脳裡に
暗誦すること

讃歌念唱の
実況は
後章で示される
だろう



彼ら
セツチン
大学生中

IQ一五〇以上の
者はさらに
大学院に
おいて

読心家具に
なるための
修業をする

神様の
肉体の延長と
化し
その心を心と
するのだから

これは
最高の榮譽と
考えられている



※これを「神体接触の麻痺効果」とも称する

大学院修士は
エリシアン・マシン
極楽機械の
称を受ける



このセツチンは
大学院修士では
ないが



大学課程は
終了した
学士である

十八歳で
卒業のとき



黒奴の総長は
彼を
祝福して
くれた



神々の家畜
ヤプー種族中の
エリート
選畜なる

セツチン族の
ホープ
希望たる
わかもの
若畜よ

さらば
行け！



天国星に
はいれる日は
近いぞ

何を食い
何を飲もうと
思いわずらうな

神様の
御心のままに

与えられたものを
食い飲んで

栄光ある生を
楽しめ！



忘れるな

のセツチンたる

をプライド

爾来^{じらい}二十年になる

卒業後

はたして直ちに買われて昇天し

アデラインジャンセン卿の愛機だった航時艇の



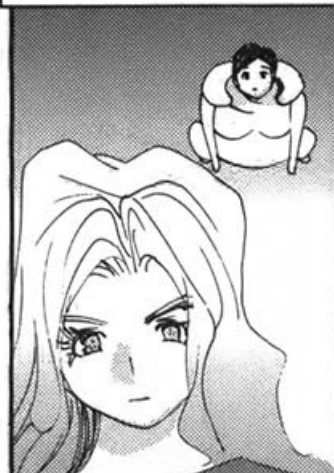
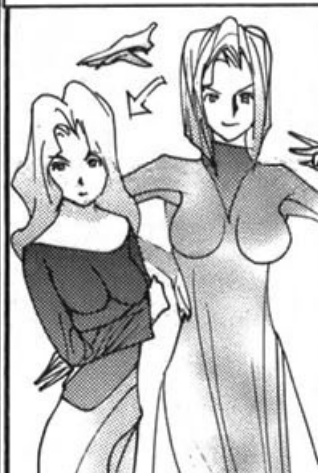
SCに
取り付け
られた

そして

その
航時艇^{ヨット}が

母から娘に譲られたとき

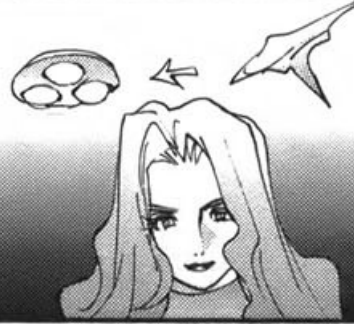
自動的に
ポーリンの
所有物に
なった



それが
操縦室に
付属させられ
たのは



ポーリーンが
円盤艇を
新型に
買い直した
昨年からの
ことだが



ジャンセン一族
ことに
主神として
奉仕した



アデライン



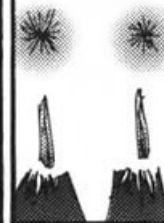
ポーリーンの



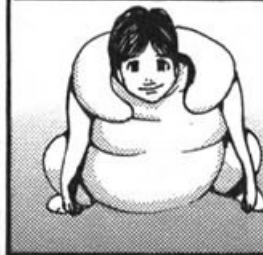
お二方の



「下関係」については



彼は
知り尽くして
いる



クイム・ドライブ
航時艇遊航の
際だけの
奉仕ながら



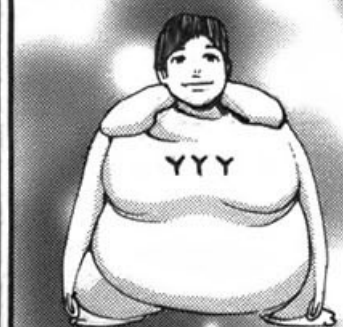
飲み物の味から
主神の肉体の
異常を発見し



エマーシエンシー・レポート
緊急異常警報を
出して



名譽の
Y字勲章を
肌に烙印
されたことも



両三度に
及ぶ
ベテラン
である



何を食い



何を飲まんと



思いわずらう
ことなき
セツチンの
生の二十年



顧みて
悔いありや?

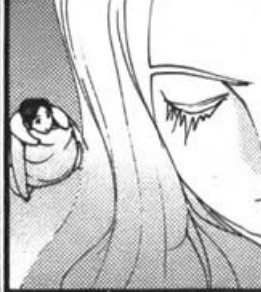


肉便器の
一匹一匹に
こういう
固体精神史が
あるとは

ポーリーンは
知らない

彼女に
とっては
このセツチンは
ただ

「航時艇
操縦室
備え付けの
廁畜」
というにすぎない

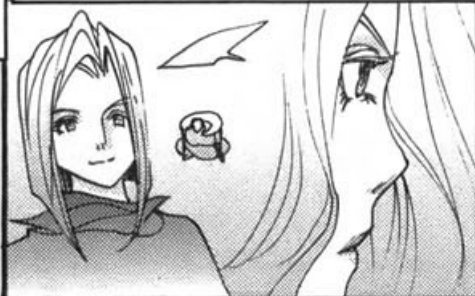
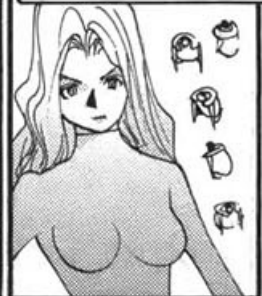


その
個別性さえ
認識して
いない

もちろん
誘導尋問
されれば

母
アデラインから
譲られた
旧型の航時艇に
セツチンが
付属していた
こと

新型に買い直したとき
そのセツチンを
新しい艇に
移したことなどを
思い出すであろうが



表面の
意識では
特定の
セツチンでは
なく

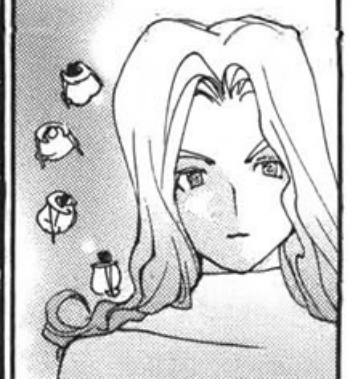
イース領内
どこに行っても

口笛ひとつで

出て来る

標準型
廁畜の
一匹

というだけの
ことなので
ある



知性ある
道具に
囲まれて
暮らしている
イース人に
とっては



器物の
知性そのものは
もはや
何らの
驚きをも
引き起こさない
のだ



オシッコ



という
指示は

セツチンに
とっては
それこそが

生甲斐で
あるところの
神様の

賜飲命令
ドリンク・ビディング
なのだが

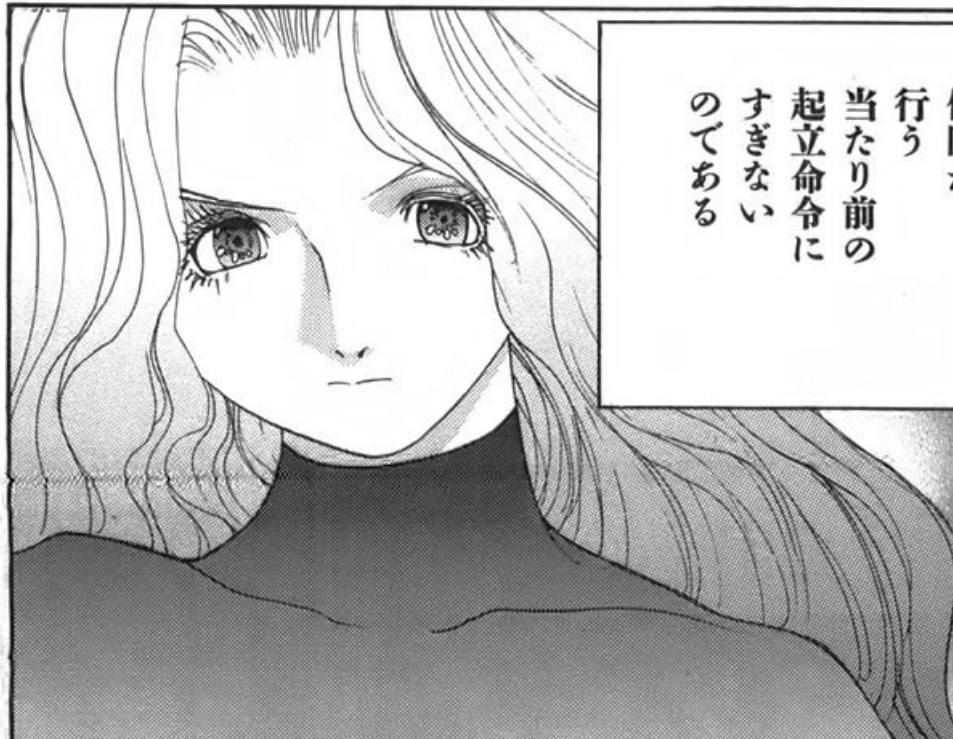
イース人に
とっては

二〇世紀人が
水洗便所で
取っ手を
引くのと
同じような



生理作用に
付属して

一日に
何回か
行う
当たり前の
起立命令に
すぎない
のである



ポーリーンの
oshicko
とゆう

OSHICKO

命令には
このような

複雑な
文化史的背景
があった

OSHICKO

彼女には
ただの
起立号令で
あるものが

オシッコ

この
セツチンには

drinkの
合図であり



麟一郎
には

オシッコ

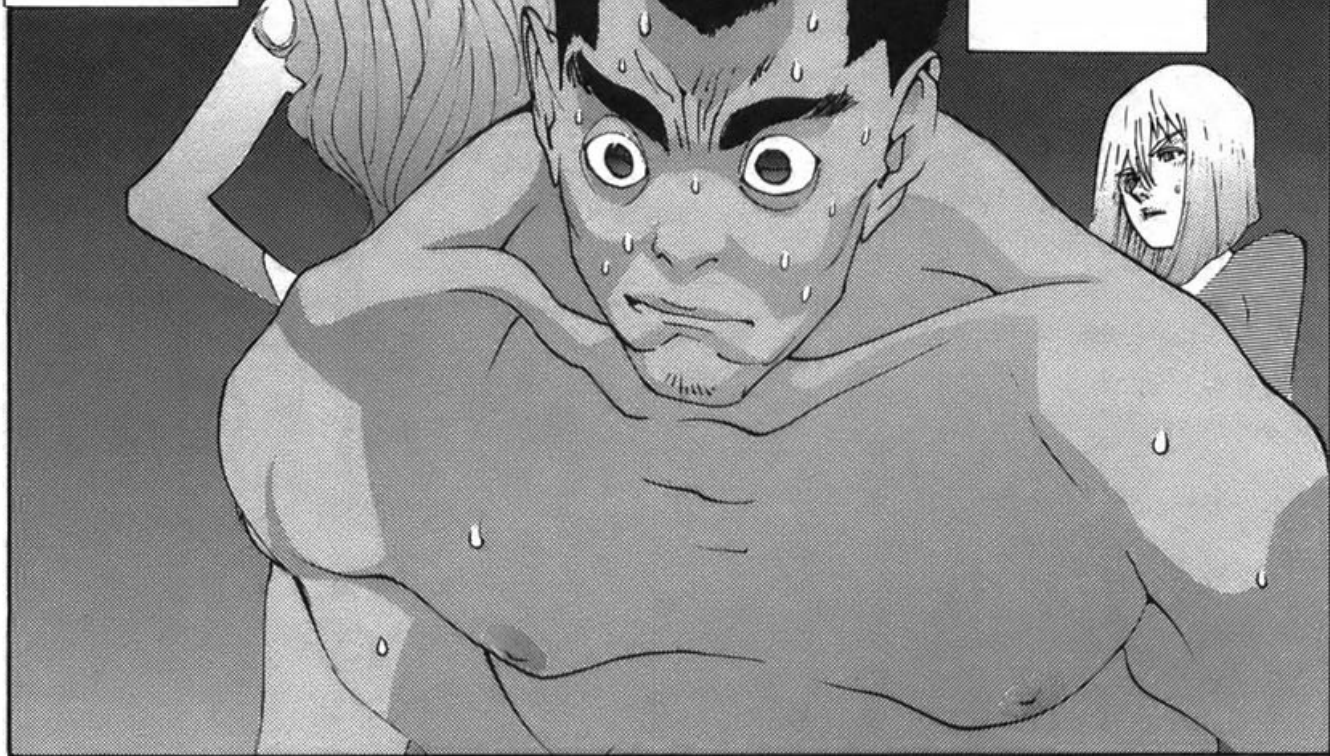


日本語の

オシッコ

オシッコ

と聞こえ



クララには
まるで

?

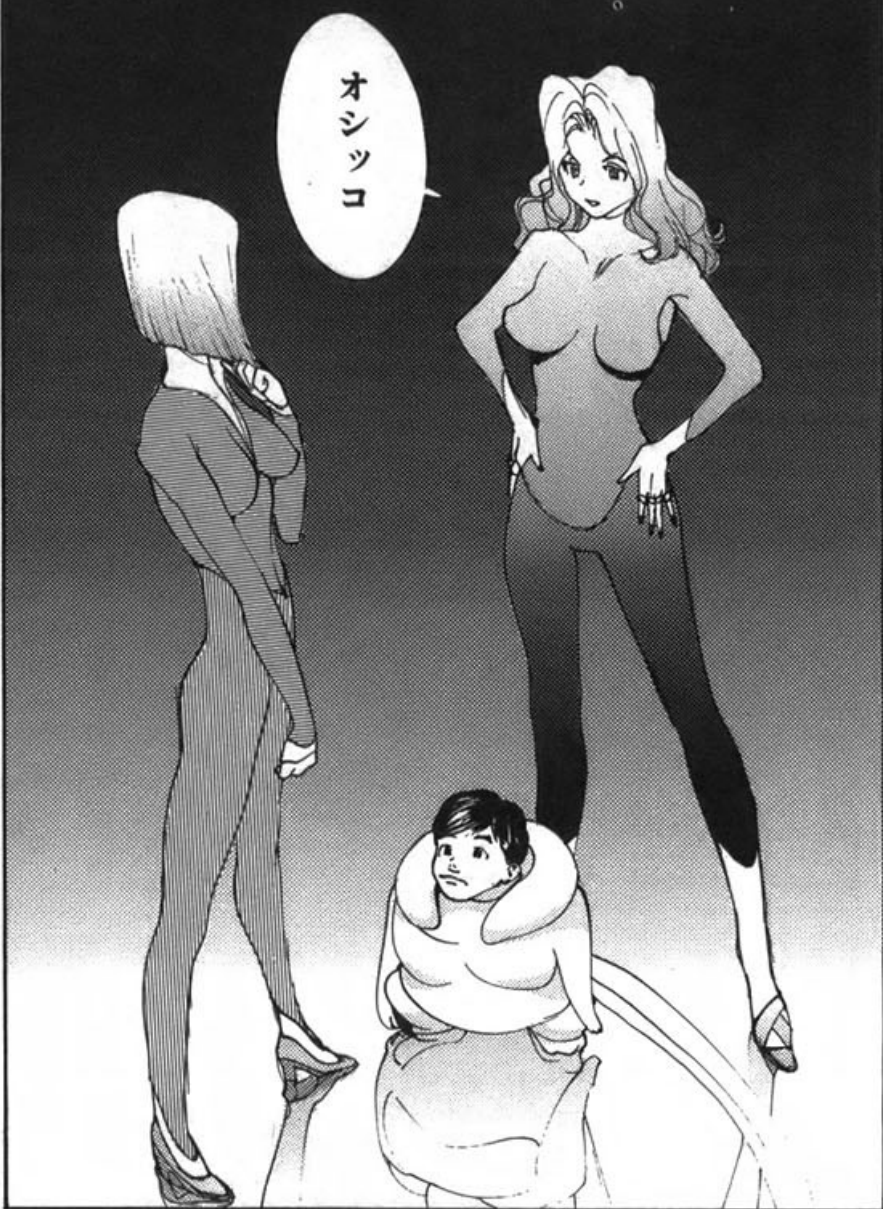
ナンセンス
無意味だった

オシッコ





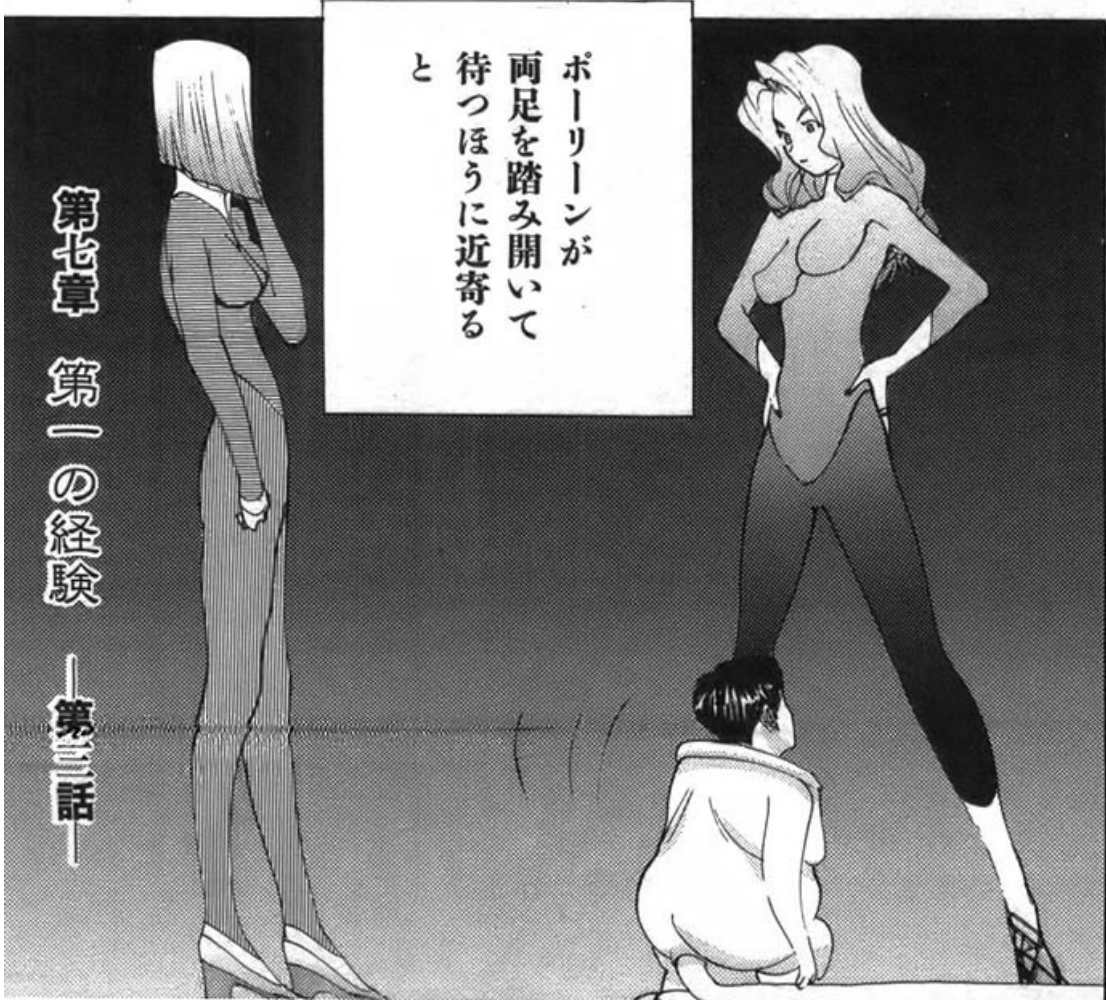
声に応じて



オシッコ



そのセツチンは



ポーリーンが
両足を踏み開いて
待つほうに近寄ると



回れ右をした

首のとぐろを
ほどもき



顔面を仰向けに



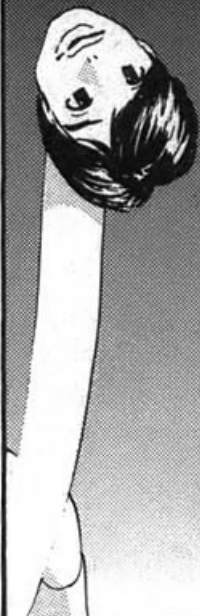
ひねりつつ……



するすると……



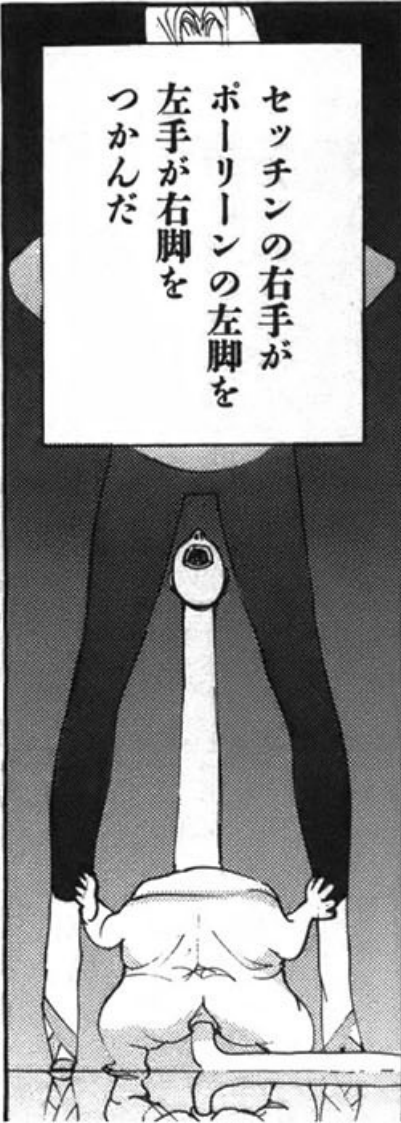
伸ばす……



それが
ズボンの股に
当たろうとする
瞬間



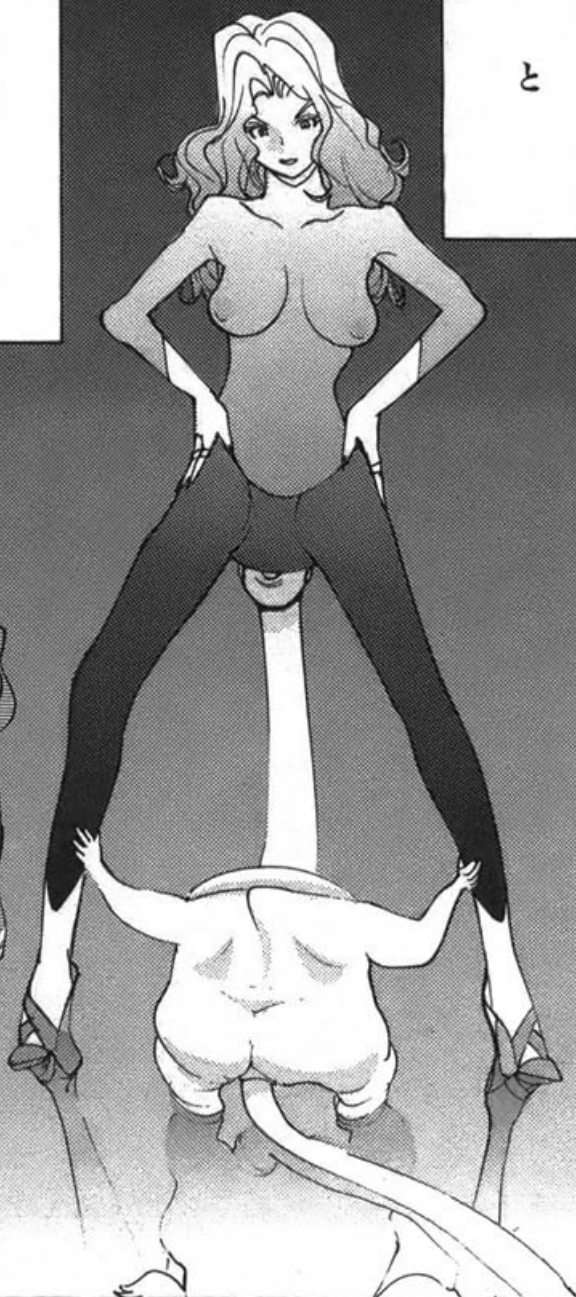
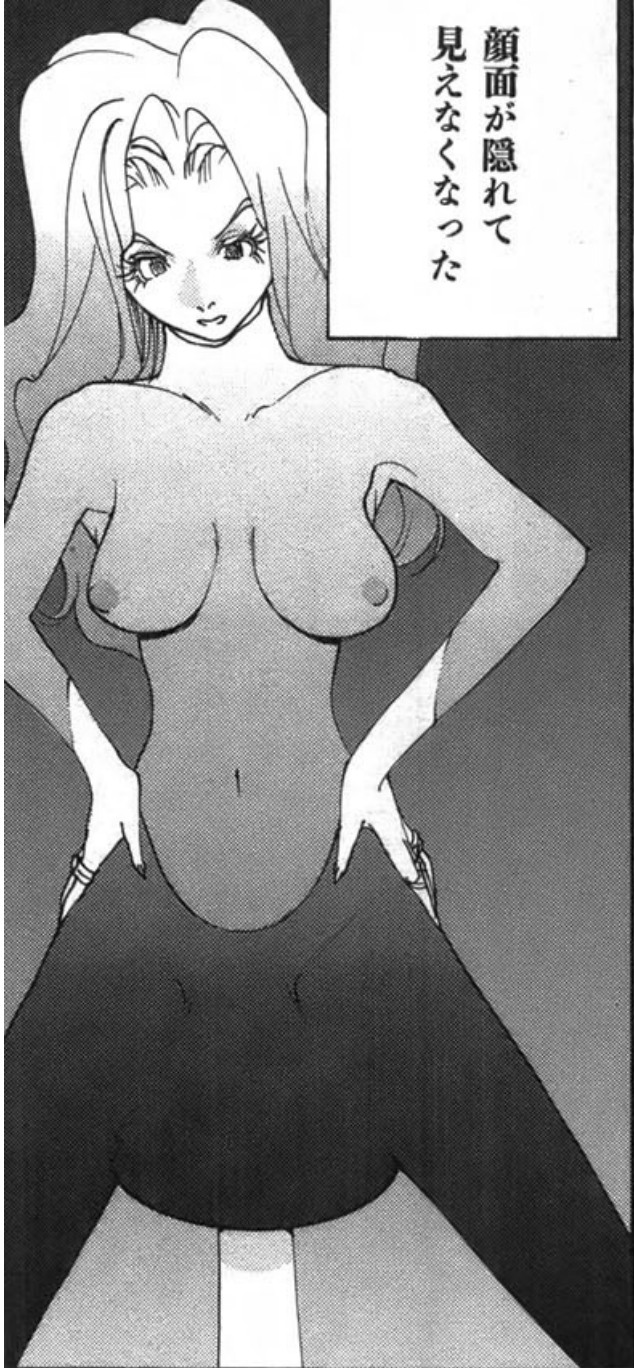
セツチンの右手が
ポーリーンの左脚を
左手が右脚を
つかんだ



と

ズボンの股部に
大穴が開き

顔面が隠れて
見えなくなった



初めての
光景に接した
クララには

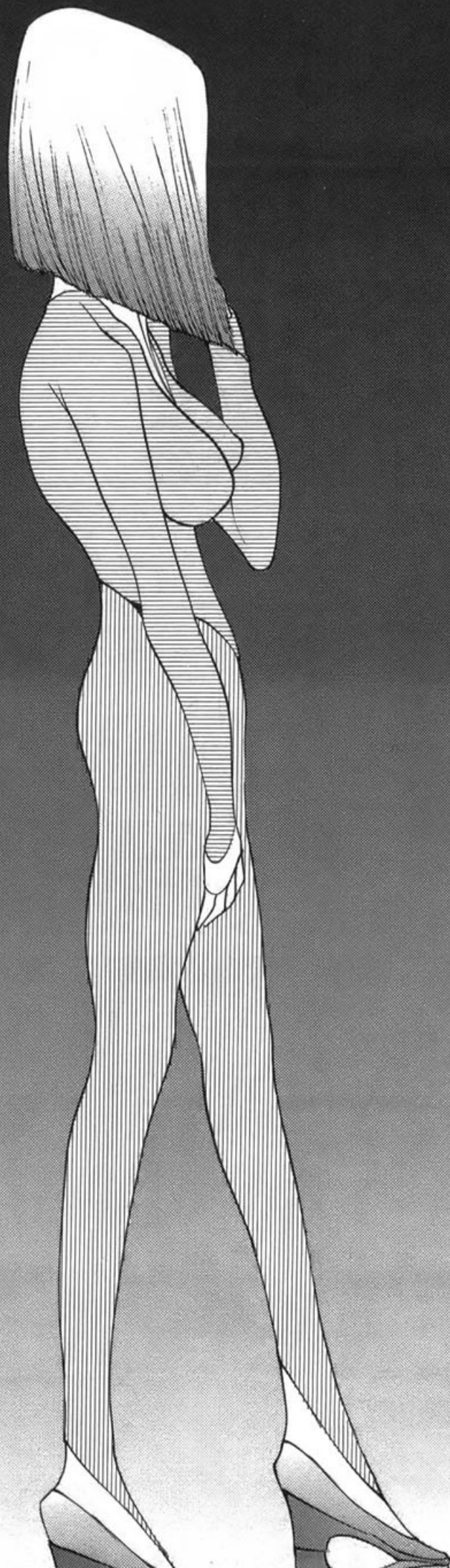
蛇腹どくばらみたいなの
頸部くびの伸びてゆく
有様が悪夢のように
印象的だったし



顔面が急に
ズボンに没した
のにも



何がしかの
魔法じみた
妖しげなものを
感じた



第七章 第一の経験 — 第三話 —

メッキ
金属ゴムと
称ばれる
合金は

特殊弱電流を
通じると
急激に
伸長し

電流を断つと
元にもどる

この性質を利用して
イース工業界では

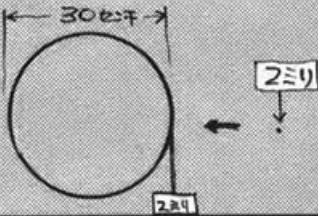
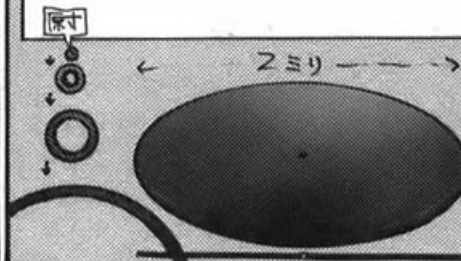
いろいろな
応用品が作られて
いたが

※男性の下着の前部では三センチの環になってペニスを外に出すが、ここでは女性服装について説明している

その一つが
ホールボタン
孔釘である

真ん中に
針で突いたほどの
小孔のある
径二ミリくらいの
平たい丸い
金属片が
布地中に
はめ込まれて
いる

※
電流が通じると
環状に広がり
径三十センチの
針金の環のような
ものになる



布地は
伸縮自在だから
瞬間的に大穴が
あいたように
なるわけだ

この孔釘が
昔の男子ズボンで
いちばん下の
M釘のあった
位置に付けられて
いた

セツチンの全身には
コードを通して
弱電流が来て
いるので

その両手が
使用者のズボンの
どこにでも
触れさえすれば



爪のない
両指先が
電極として
作用し

孔釘を
開かせるので
ある

手を放すと
電流が切れ

即時に
元にもどる

使用中うっかり
手を放させると

セツチンの
首が縮まって

※
扼殺の
結果を生じる
くらい
復元力が
強い

※
この孔釘が
黒奴服以外の

あらゆる
ズボンやパンツに
付けられている
から

イースの
人々は

排泄行為に
当たって
自分の手を
使う必要が
まったくないので
ある

下着の紐を
いちいちほどいていた
未開人には

二〇世紀人の
ゴム紐のパンツが
不思議に
見えるであろう
ように

※家具の一種だから「破損す」と表現されるが ※後述のようにこれはコンピネーション・スタイルである



二〇世紀人には
この金属ゴムの
孔釦は
魔法のように
思えるのだが

慣れれば
当たり前の
被服部品なので
あった



もちろん自分で
開閉することも
可能である

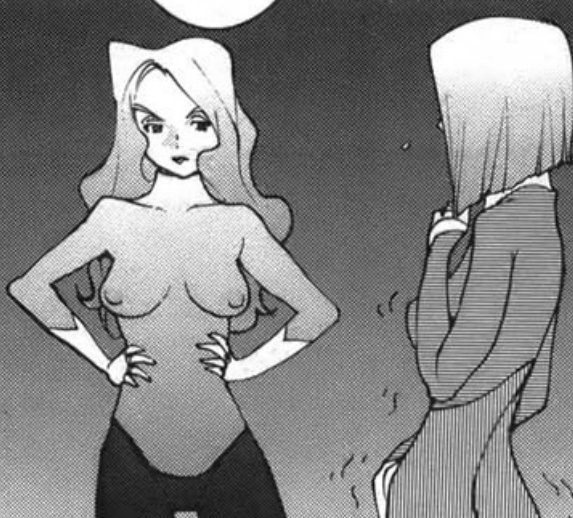
読者諸君は
既に察せられたで
あろうが

先に
ポーリーンが
クララのもじもじ
しているのを
見て

脚・に・触・れ・さ・せ
たいのね

といったのは

孔釦を開くのにセツチンの
手で触らせることからきた
婉曲な社交語である





ちょうど
二〇世紀人が

便所に
行く

という代わりに

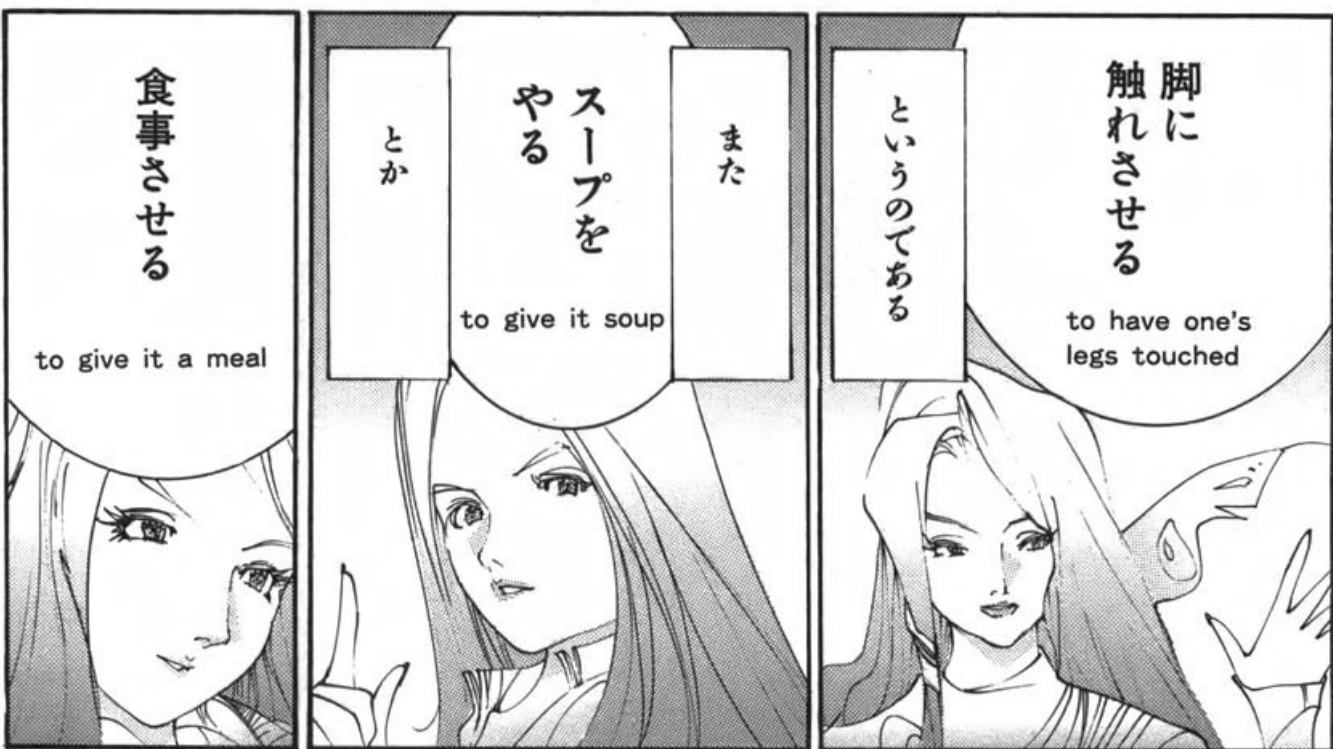
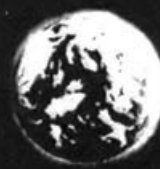
手を洗う

といったように

イース白人は

セツチンを使う

という代わりに



脚に
触れさせる

to have one's
legs touched

というのである

また

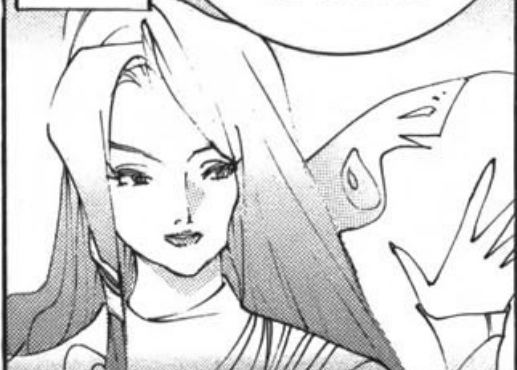
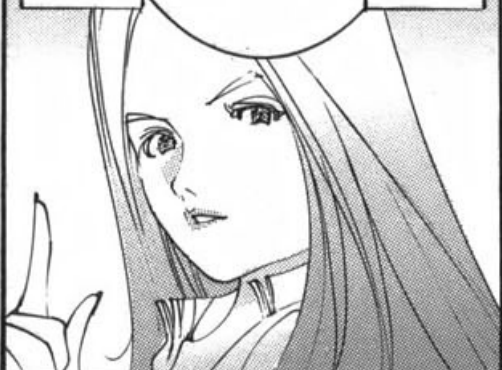
スープを
やる

to give it soup

とか

食事させる

to give it a meal

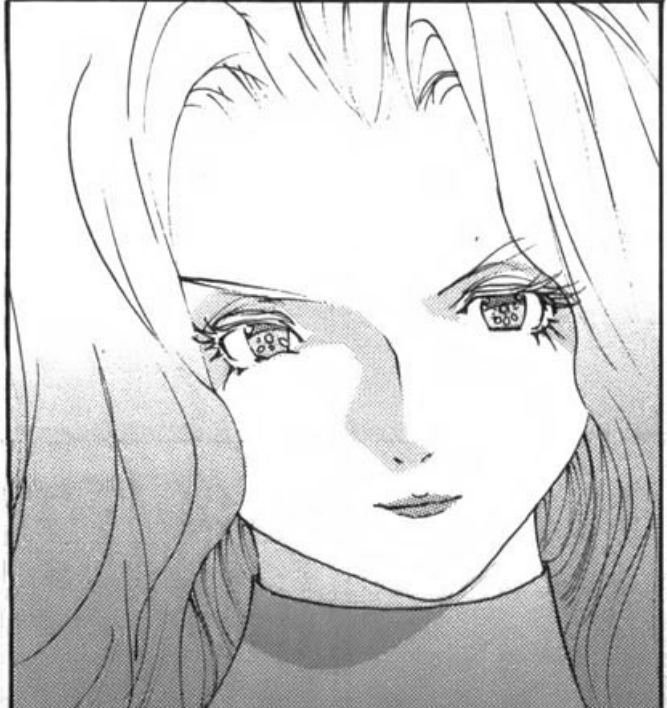


とか

拝ませる

to let it pray

※
なども
いう

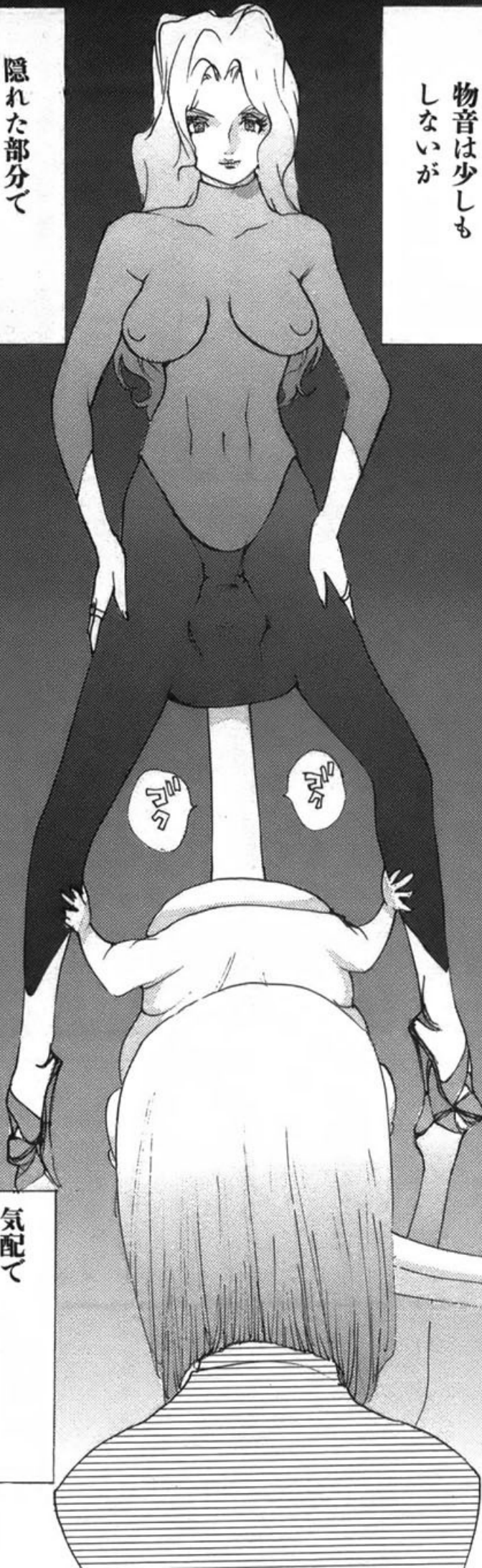


※「オシッコ」という「ウンコ」という「よりは多少くだけた表現である

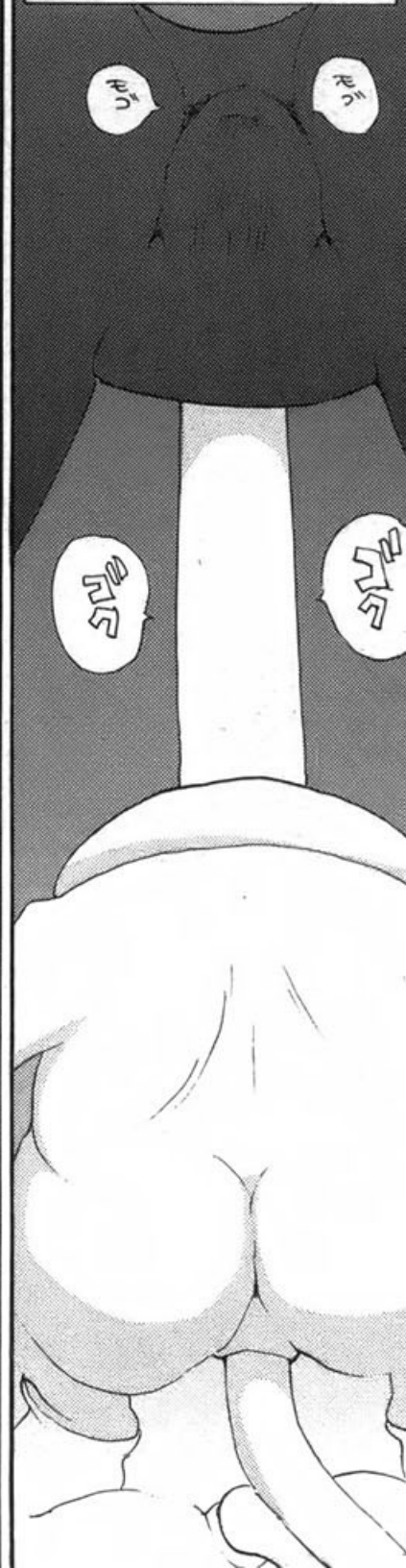
水平に
四十センチも
伸びた頸部が
ピクピクと波うち
嚙^{えん}下^かを示す

放尿に
つきものの
物音は少しも
しないが

隠れた部分で
どんな作業が
行われているかは

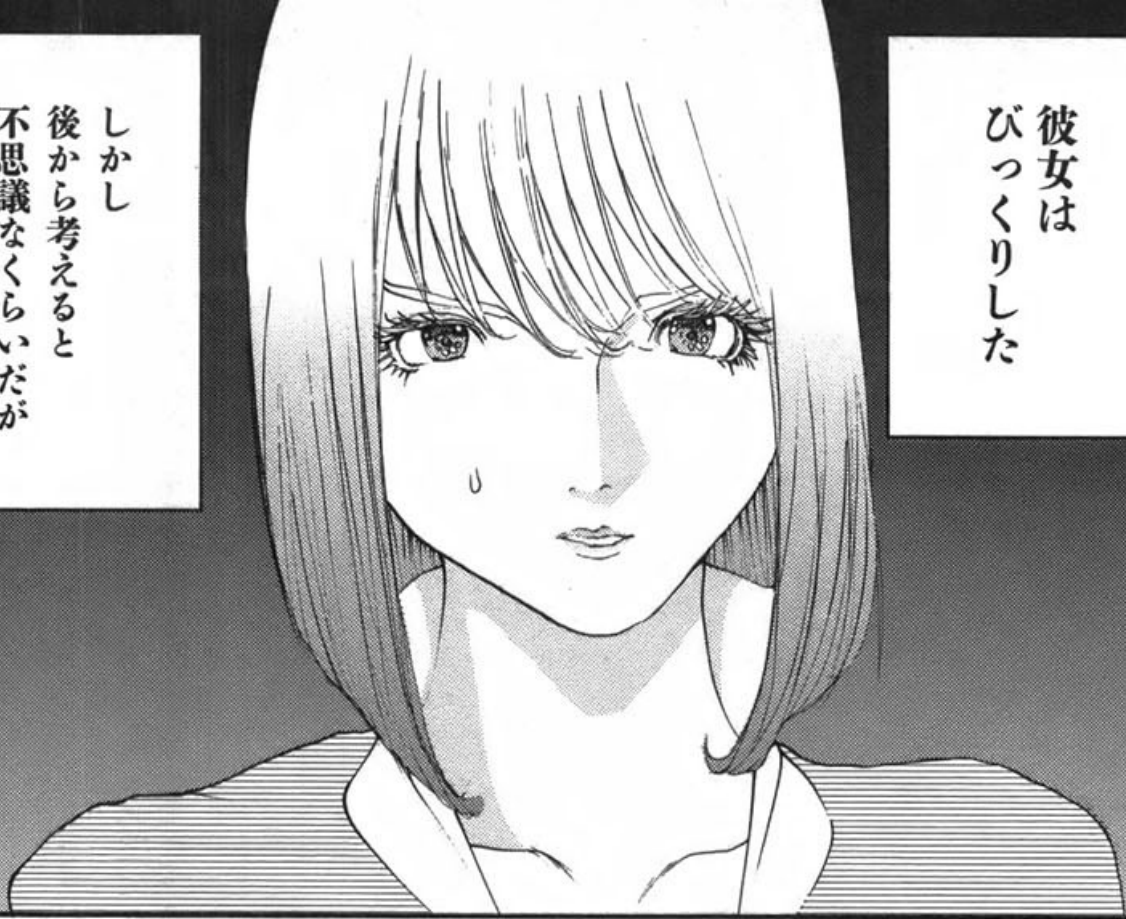


気配で
クララにも充分想像が
ついた



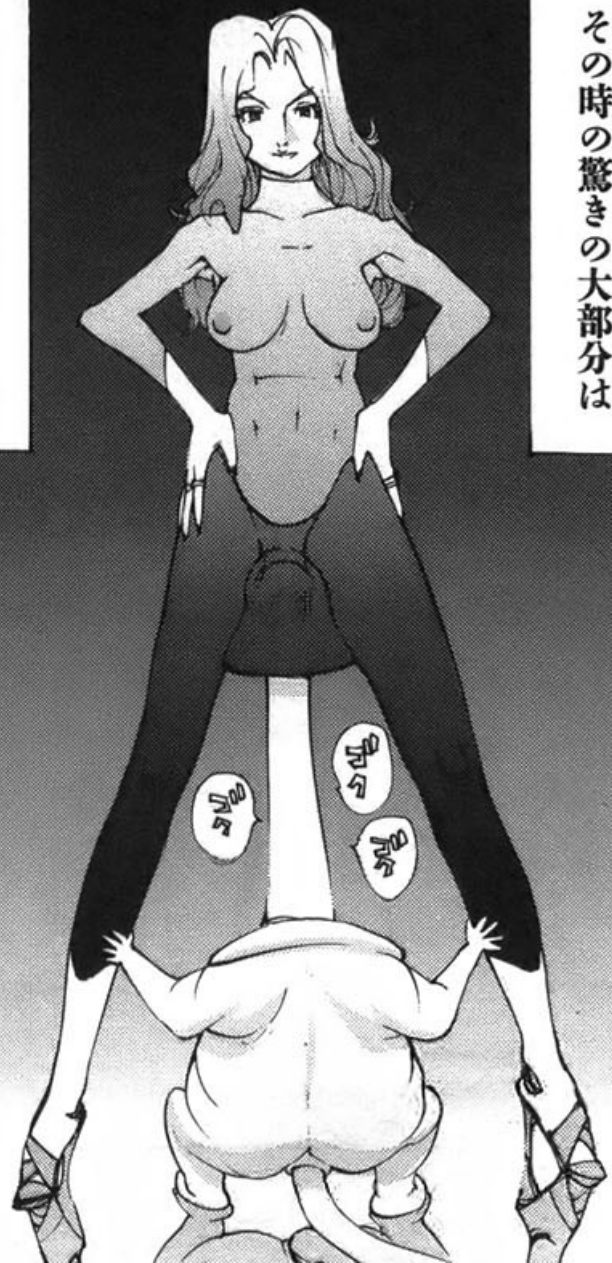
彼女は
びっくりした

しかし
後から考えると
不思議なくらいだが



その時の驚きの大部分は

若い女性が
立ちながら放尿している
という事実
そのことに対するもので



人間の顔面に
股倉を
開帳し

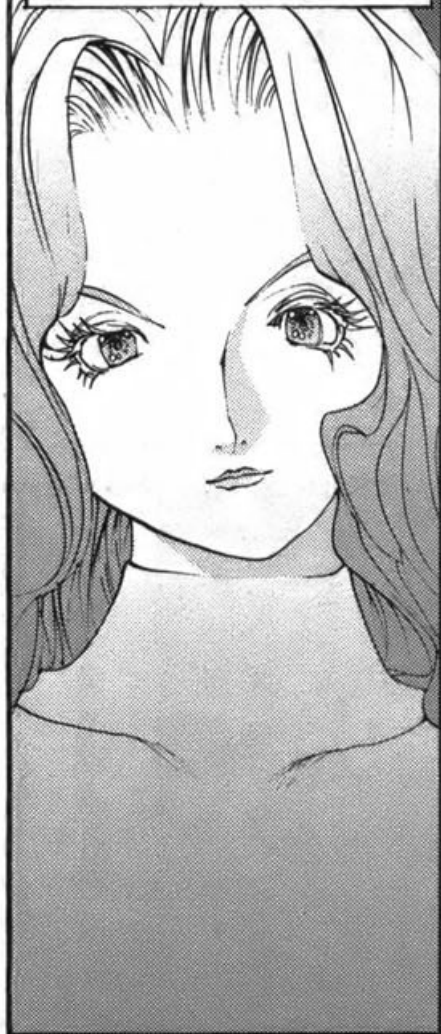
局部を
乗せる
ことが



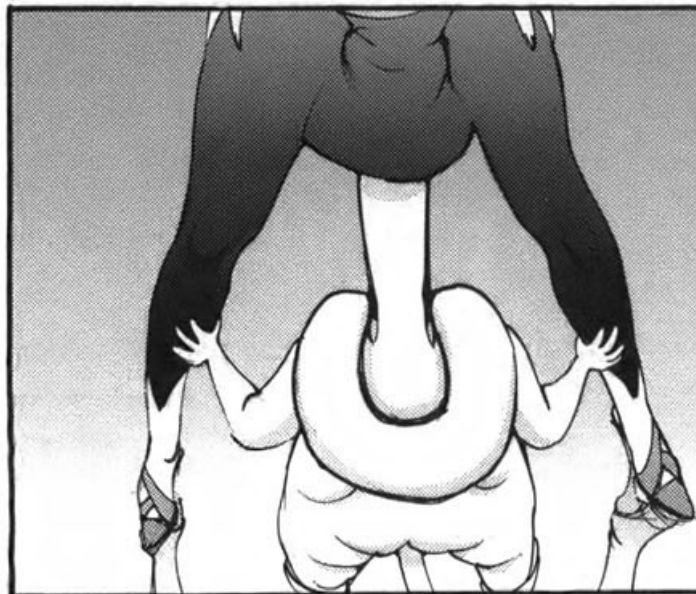
人体が
便器になつて
いるとかいう

本来
いつそう驚くべき
事実に対しては
なかつた

それは
ポーリーンの態度の
あまりの平然さの
せいでも
あつたし

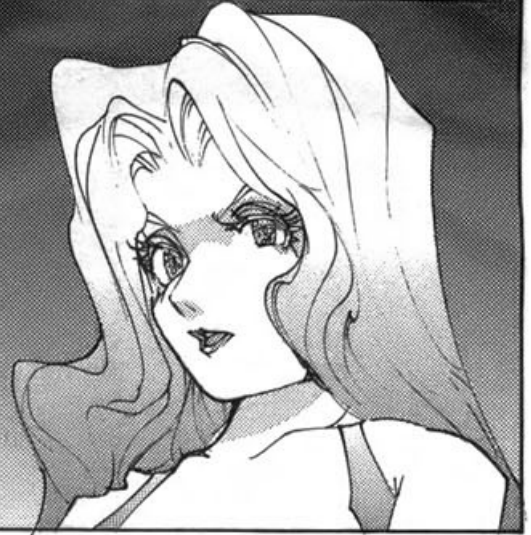


セツチンの身体でいちばん
人間的な部分である
頭部が隠れ
目に見える部分が
ひどく非人間的な姿態を
示していたためでも
あろうが



※ことに馬蹄肉瘤↑の凹みから水平に伸びた細長い首がズボンの中に消えているのは、ポンプにつないだゴム・ホースを連想させた

ポーリーンから
聞かされた
ヤブー本質論に



いつの間にか
彼女の下意識が
説得されかかって
いたことが
いちばん大きな原因
だった



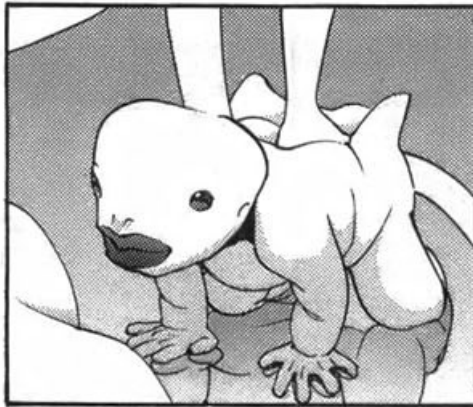
さつきは
クララは
ポーリーンに
むきになって
反対したが



それはひとえに
愛人のため
であった



最初ポーリーンの
体の下に
クッション代わりに
なっていた
奇形侏儒を
見たときも



次に
四這人間が
人犬ひといぬになって
飛び出して
来た時も



彼女はただ
理性が
彼らの人間なることを
教えた限りにおいて



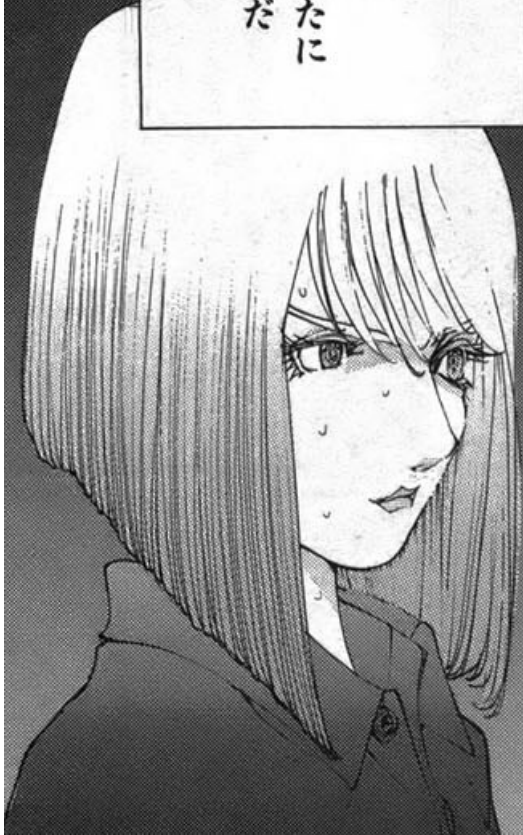
人間に対する
このような取扱いに
対して
疑問を感じたに
過ぎず

感情からの
反発はなかった

だから
それらが
人間でなく
ヤプーであり
知性猿猴シミアスサピエンスという
猿チンパンジーの一種だとする
ポーリーンの
議論は



本来なら
それだけで
彼女を安心させたに
違いなかったのだ

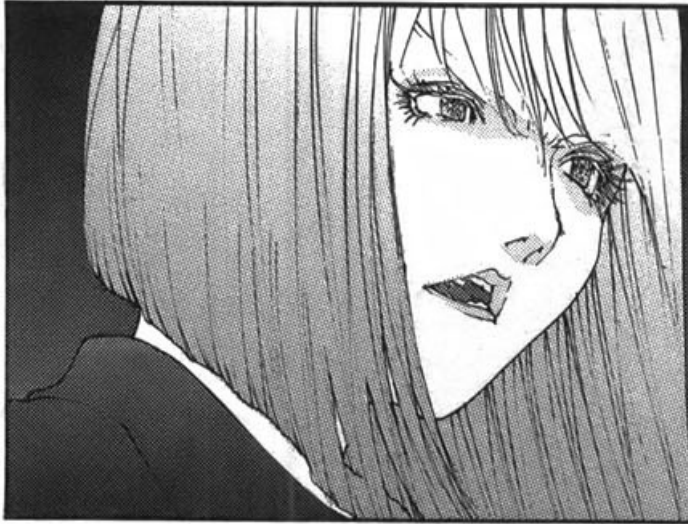


ただ
ポーリーンの
結論は



彼女の愛人鱗一郎も
そのヤブーだ
というにあった
から

その限り
彼女は
反発せざるを
得なかったに
すぎない

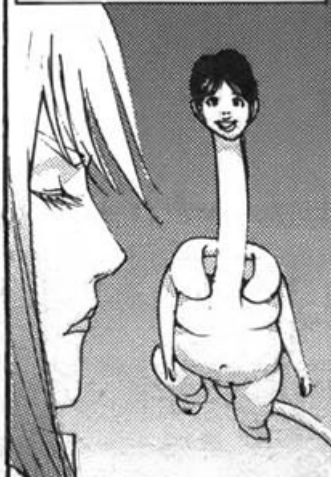


つまり
表立って
意識こそせね
彼女は

肉足台に対して
人間的な
sym = pathy
(共感)は
感じていなかった

そこへ
この廁畜であつた

ゴム・ホースのような
首の奇形侏儒に
対する同類意識は
ちつともわかない



だから
人体を
便器にすると
いうことは気に
ならない

人体と
いうふうには
思えないのだ

むしろ
気になるのは

ポーリーンの
姿態だった

これこそ
彼女の
まぎれもない

同類なの
だから…

踏み開いた
両脚を
少し曲げ
中腰になった
ポーリーンの
格好は

クララに
米国旅行の折りに
見た



サニ・スタンド
(婦人用立小便器)を
思い出させた

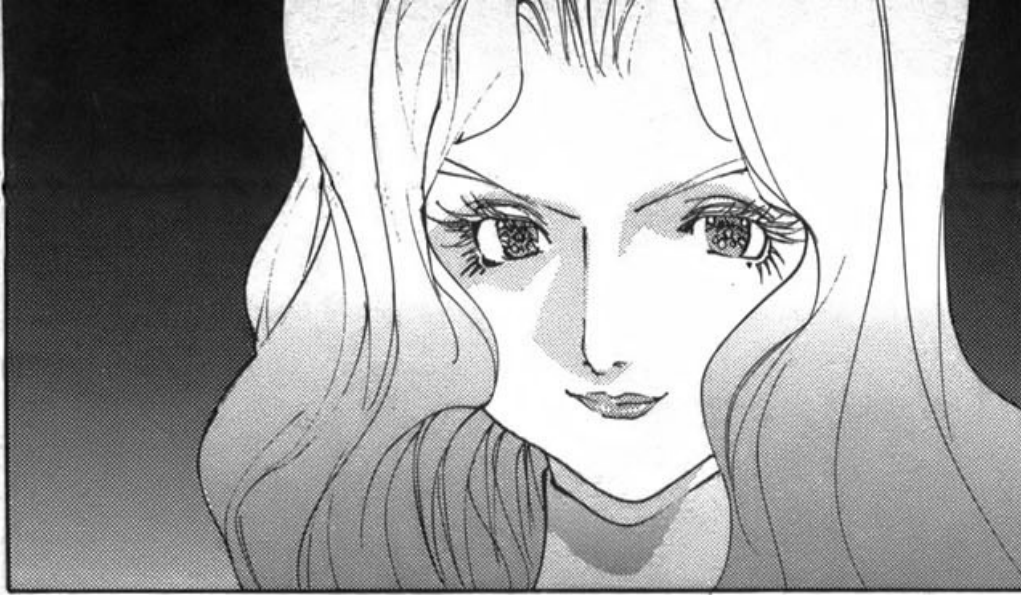


腰を
下ろせないのが
妙に不安で

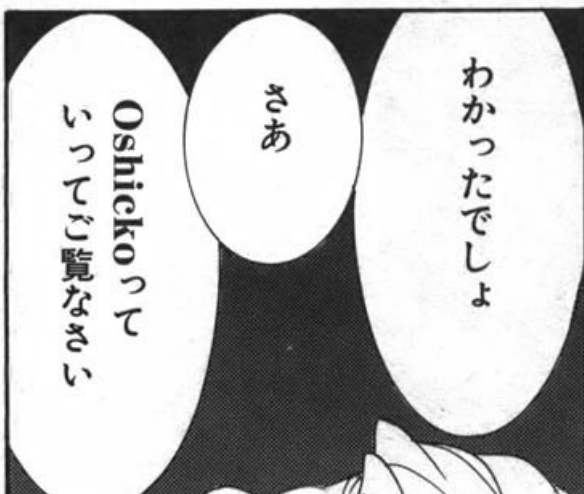


とうとう
使わなくて
出て来た
クララであった





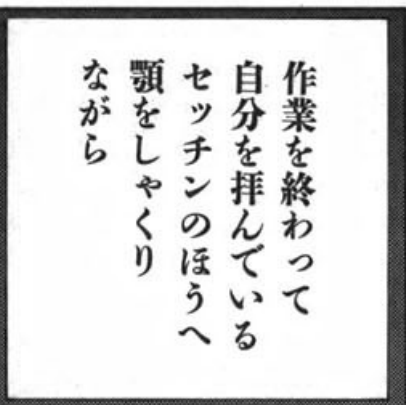
だから
ポーリーンが
朗らかに



わかったでしょ

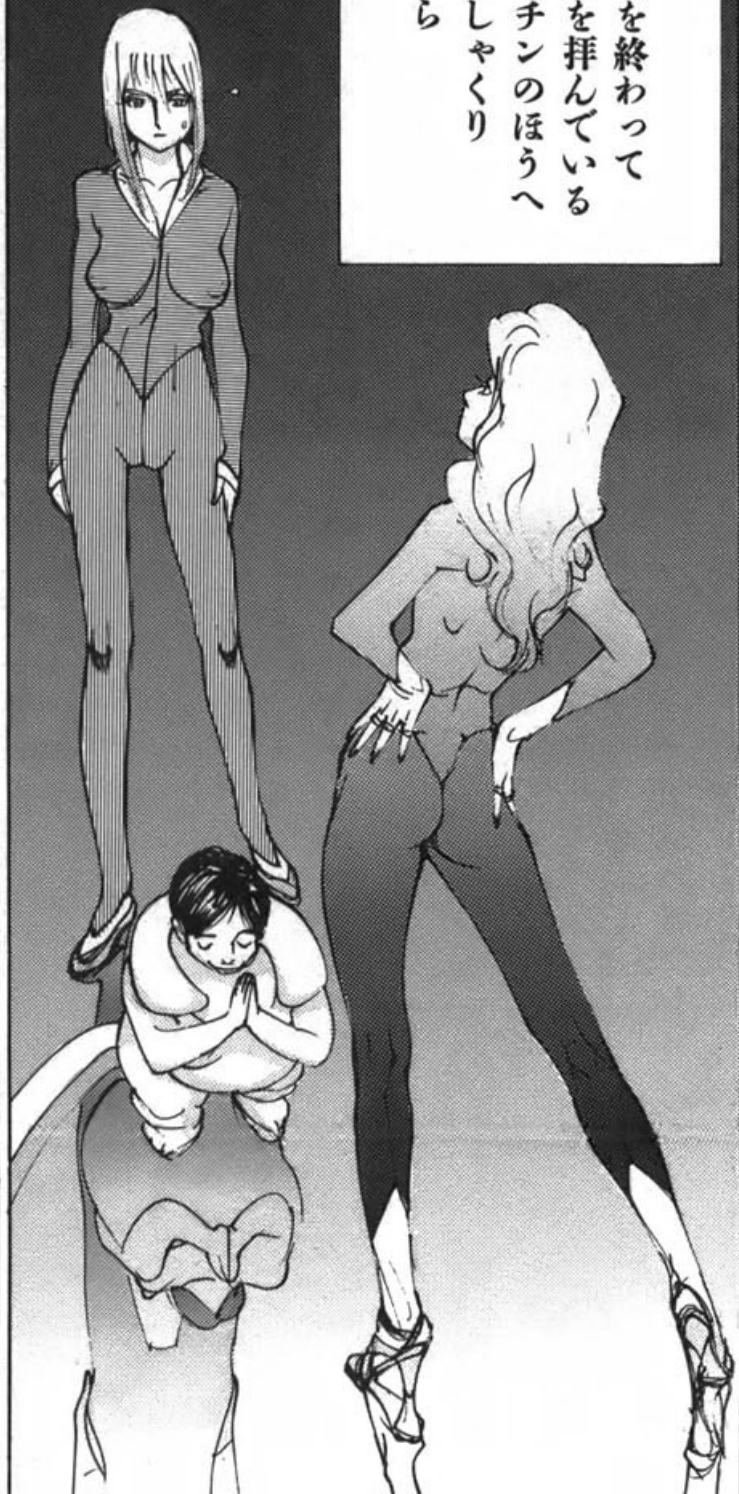
さあ

Oshickoって
いってご覧なさい



作業を終わって
自分を拝んでいる
セツチンのほうへ
顎をしゃくり
ながら

と勧めた時



クララの心中に
あった
躊躇の大部分は



自分が取らねばならぬ
姿勢にあったのである

しかしこの躊躇を
吹き飛ばしたのは



尿意の
緊迫だった

他人が放尿したのを見たと

もう

我慢てきない

Oshicko

呪文の意味は知らぬままに

見真似て

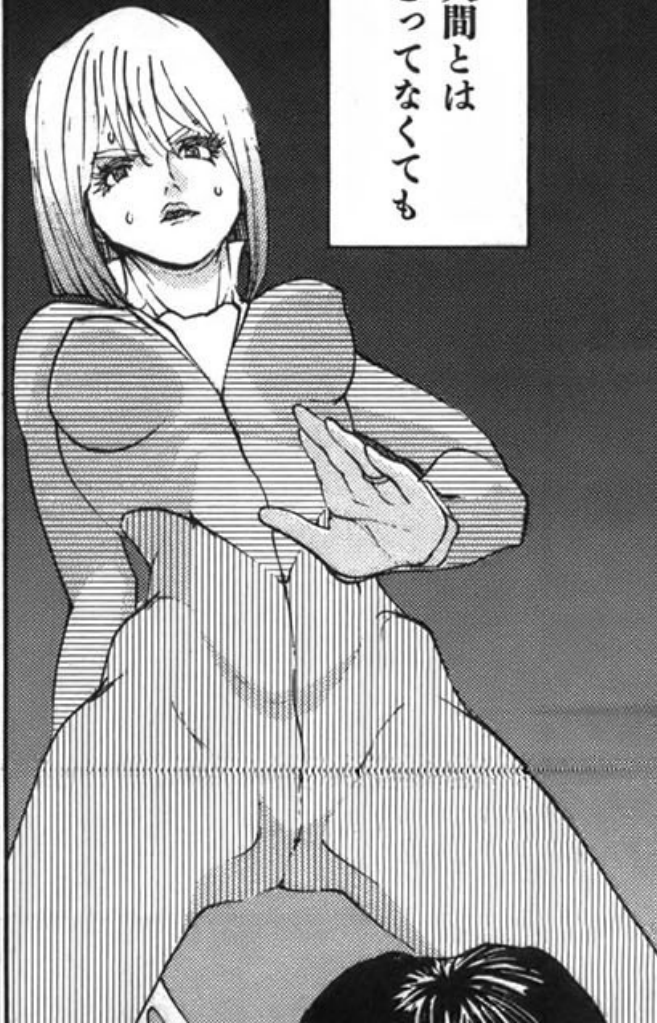
足を
踏み開き



少し腰を
落とした



人間とは
思っ
て
な
く
て
も



ぐつと
人間
同
様
の
顔
が



寄
っ
て
来
て



ズ
ボ
ン
に
孔
が
開
き





丸く

厚い唇が

露出した
局部の
周りに



じかに
差し当てられたのを
感じた時

無理もないことだが



人間だろうか？

一瞬
恐怖に伴う
後悔があった

という
疑惑も
改めてわいた

人間じゃない

こんな細長い
首の人間が
いるわけがない

いったい
人間が
こんな仕事を
させられたって
するものか

いやあの肉足台も元は
正常な人間だったという
話だった
奇形というだけでは……

それを喜んで
首を伸ばして
来るような
奴は

人間では
なく

ヤブーとかいう
別の動物に違いない



自問と自答を
一瞬の躊躇の
うちに終えると

後は
耐えてきた
膀胱の緊張が

ゆるみゆく

快感

だけが



占領した

彼女の心を



安心感を
与えた



サニ・スタンドに
なかった

下のほうに
放射を
垂らさないで
済むのが

嚥下できる
ものではない



人間は
多量の液体を
一息に

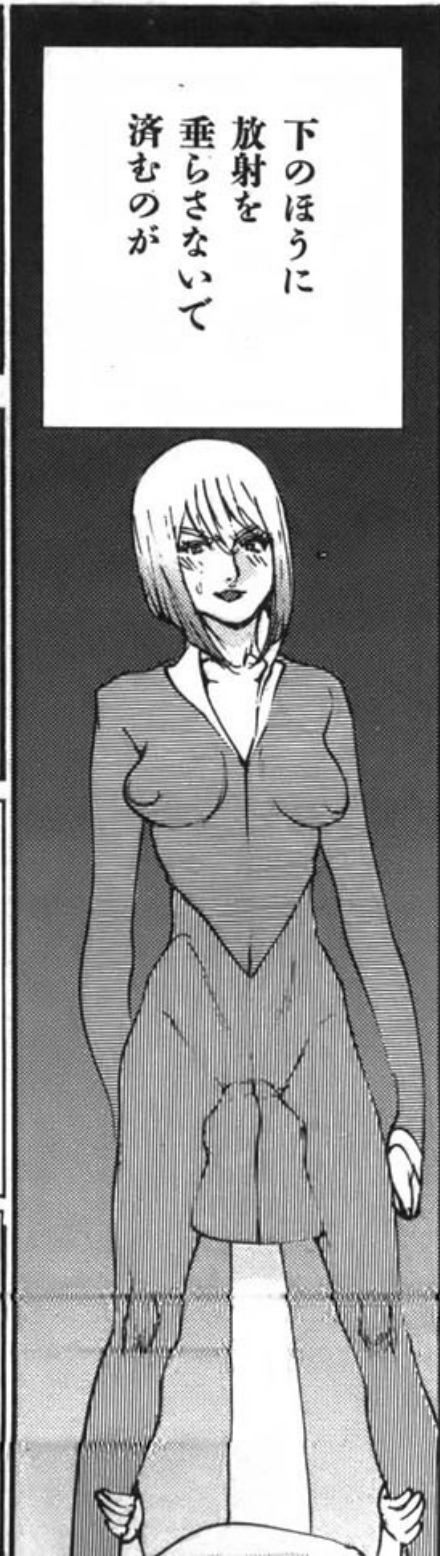


必ず途中で
息を継がなければ
ならない

放出を



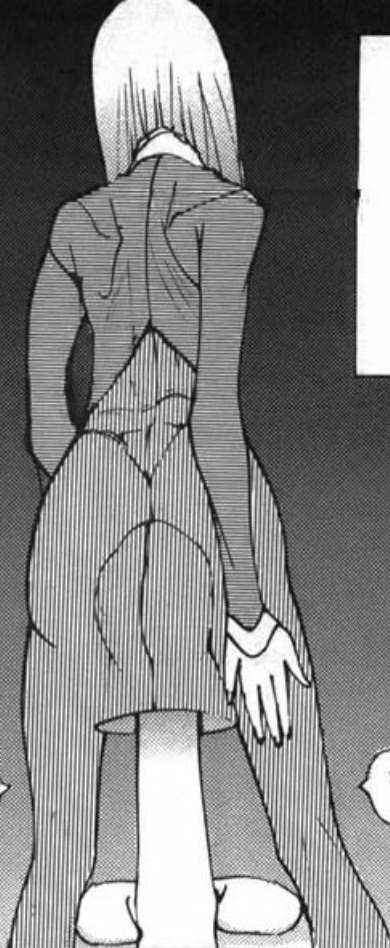
それが
彼女の一気の



平気で

中斷なしに
吸い取るのを
不思議と
思わせなかつた
のは

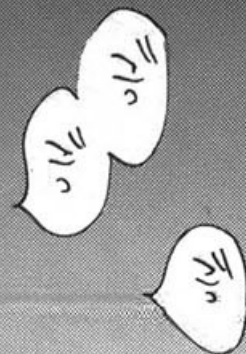
やはり
自問自答による
納得が
あつたからで
あろう



自分の排泄した
液体が今
股の間に
口を当てている
顔を経て

この奇怪な
動物の体内に
収まってゆくという
今まで考えたことも
なかつた事態が

何か当然のことの
ように思われて
くるのだった



股間部が
下から顔で
支持されている
感じて不安定で
なく



脚の筋肉を
緩めても
平気なので



中腰の姿勢も
それほど
不自然でないように
思えてきた



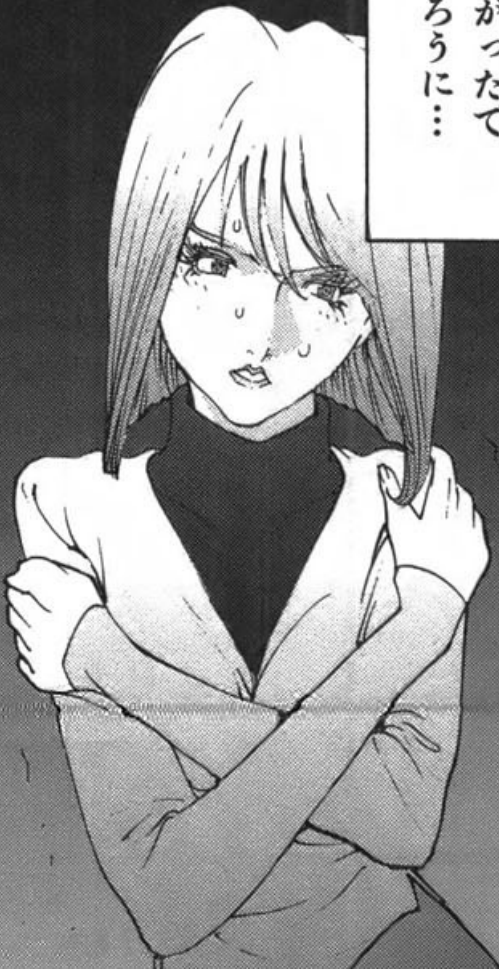
昨日までの
クララだったら



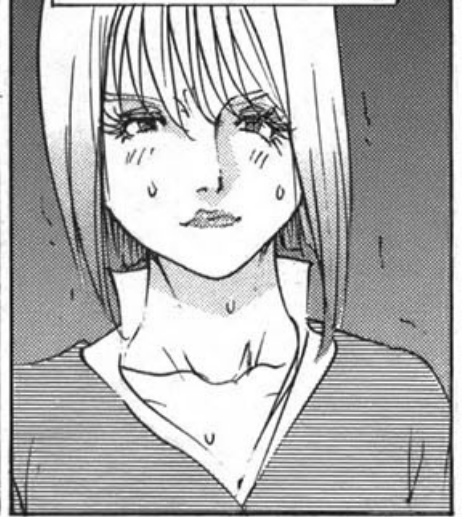
セクスに
人の顔が
当たるなどと
考えただけで



ふるえ
上がったて
あろうに…



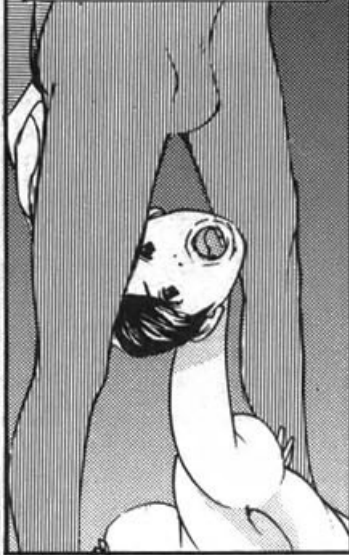
局部に
何か
くすぐりたい
感触を覚え



温かい息が
かかったかと
思うと



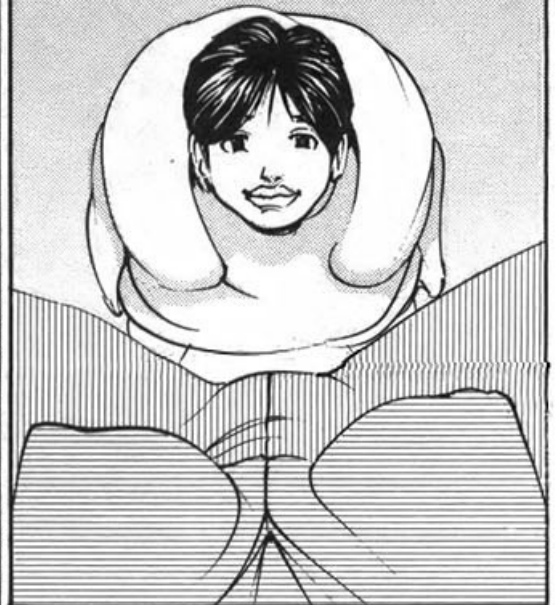
首は
早くも抜き
出されて



畳まれ



凹みの
埋まった
肩の線の上に
チョココンと
載っているのが
見えた



紙で
ぬぐったように
局部は少しも
濡れていないのを
感じる



セツチンは
両手掌を
合わせて
彼女を拜んだ



「サンクスギビング
感謝礼拝」の
躰みのことは
知らぬクララにも
この廁畜が
喜んでいることは
想像がついた



——やっぱり
人間じゃない

生きている
道具だわ

思ったより
あっけなかつた



だが
これが
クララが
イース文化を
味わった
最初の
記念すべき
瞬間だったので
ある

今後もう
二度と
再び



彼女の体から
出たものが

無駄に
捨てられることは
ないだろう





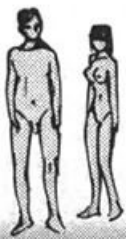
コトウィツキ
Kotowickiと
命名された

彼女の
姓
フオン
コトウィツツ
v. Kotwitz
ちなんて

黒奴酒の
銘酒が



誕生する日も
遠くは
あるまい



彼女は
ヤプー家畜論を

クララの心は
早くも
イス文化に
傾きそうに
見える



カルー星
どころか

知性猿猴の
実在を



地球別荘
どころか



信じ始めたのでは
ないだろうか



まだ
一九六×号球面を
離れもせぬうちから



…もちろん
まだ彼女の
隣一郎に対する
愛情には
変わりはない



が
下意識では
どうで
あろうか



先ほど
ポーリーンの
廁番に
話しかける言葉が
日本語なのを
聞いて



疑ぎつと
したのも



自分には
同類意識のない



彼女に問えば
彼女はそう
答えるに
違いないのだ



奇形侏儒と

自分の愛人との

案外な
共通性を
暴露された
ように感じ

将来の
離反の可能性を
無意識に
予感したためでは
なかっただろうか



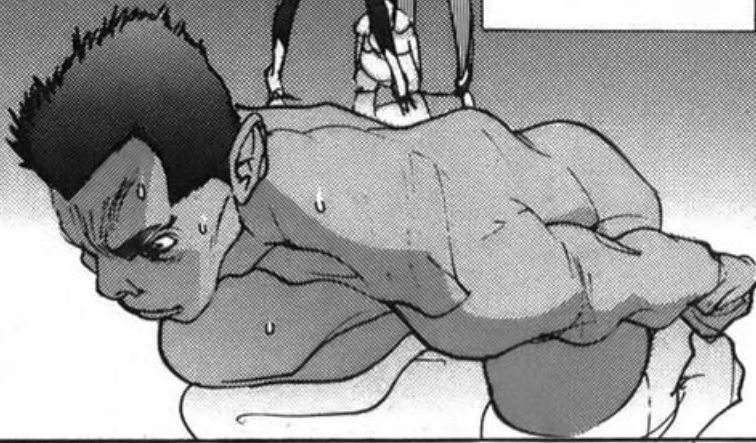
鱗一郎は
さつきと
同じ姿勢で
這いつくばって
いる



女二人は
彼の視界を
去ったまま



彼は
何も見て
いない



ただ耳から
聞こえるもので



今
着替えを
したな



用便
したな



と見当を
つけているだけだ



オシッコ

と二度
耳にしただけの
彼に



もし
セツチンの
仕事振りが
みえたの
だったら





彼は

彼は
たとえ
全身不随の
ままでもいいから
この球面に
残りたいと
思ったに
違いない



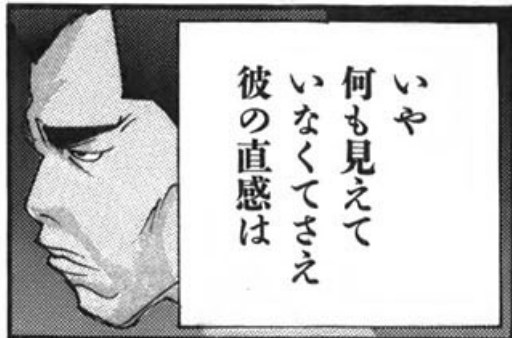
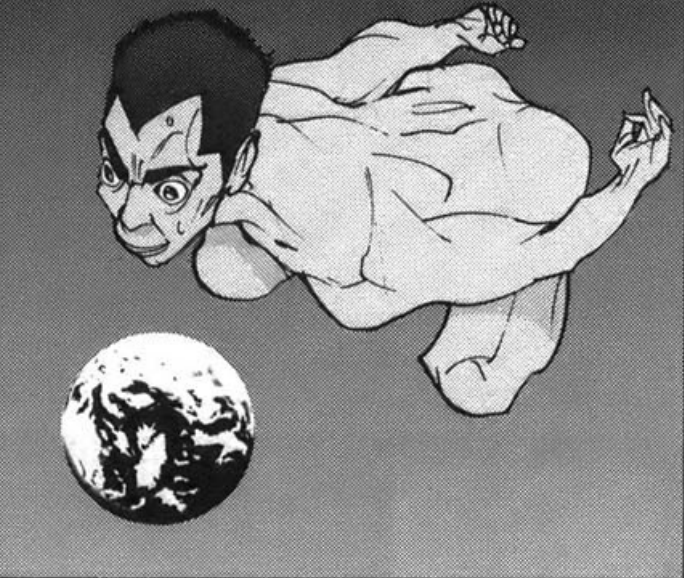
や
肉足台



犬に



感じたのと
同じ
同類意識を



いや
何も見えて
いなくてさえ
彼の直感は

それだけ
その仕事の
おぞましさを
見るに
忍びなかった
だろうから

この
廁畜にも
感じたて
あろうし



クララに
伴われて
行く



「イース」
への
旅に



何か気味
悪いものを
感じ始めている





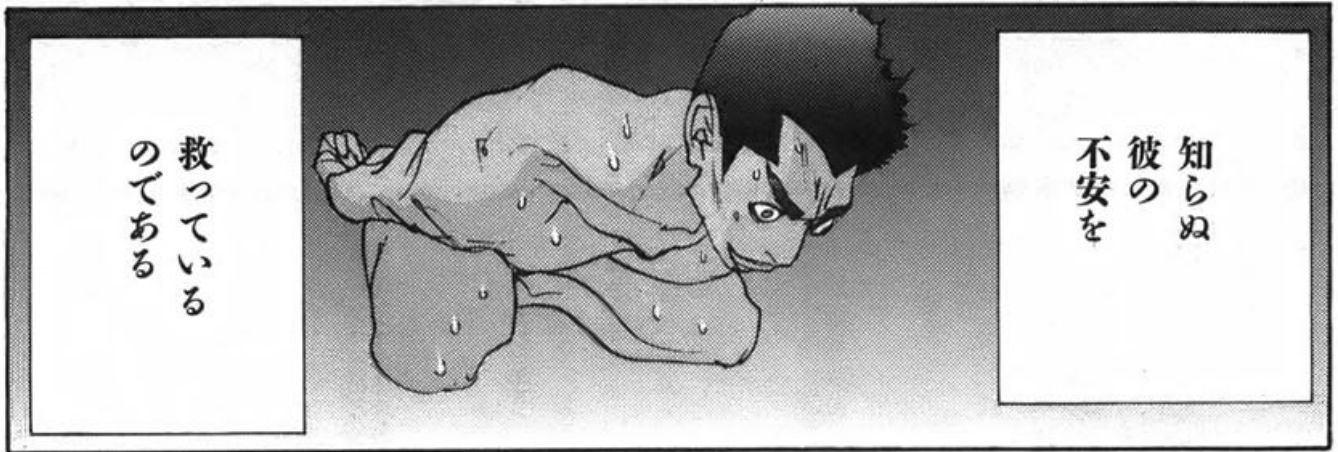
彼女の
内心に
何が
芽生えたかを



先ほど
涙を流して
喜んだ



彼女の愛情への
信頼だけが



救っている
のである

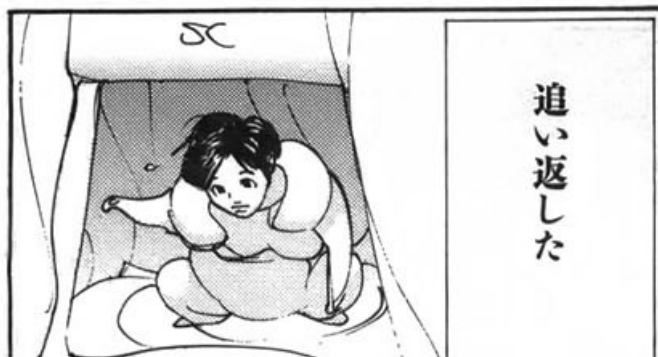
知らぬ
彼の
不安を



セツチンを



SCに



追い返した

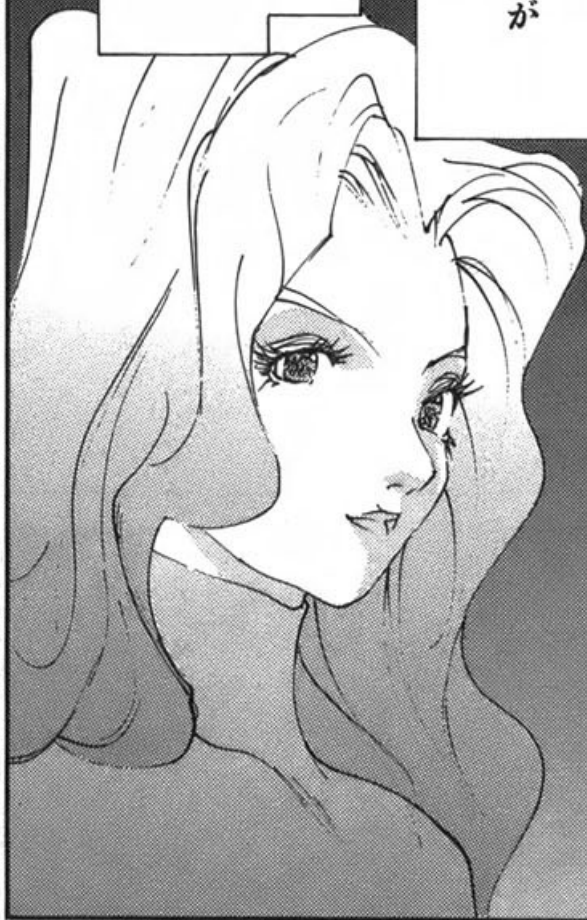


短い口笛の
一吹きて

ポーリーンが

その時

つと



円卓上の
立体
レーダーを

クララに
指し示した



細長い
直立円筒体が

ステレオ
立体盤の
真上を示す
位置に
突如
出現している



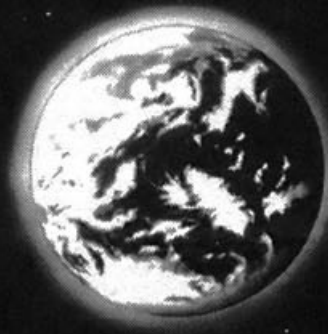
ついに
迎えの
航時快速船

「グレイシア
氷河号」が



この
球面に

到着
したのだ



バースコミックス

家畜人ヤプー③

2004年3月24日 第1刷発行

著者

えがわたつや
江川達也

ぬま しょうぞう
沼正三

発行人

伊藤嘉彦

発行元

株式会社 幻冬舎コミックス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6431(編集)

発売元

株式会社 幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6222(営業)

振替00120-8-767643

印刷・製本所

大日本印刷株式会社

検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。幻冬舎宛にお送り下さい。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。定価はカバーに表示してあります。

©Egawa Tatsuya, Numa Shozo, GENTOSHA COMICS 2004

ISBN4-344-80381-7 C9979 Printed in Japan

幻冬舎コミックスホームページ <http://www.gentosha-comics.net>

この本に関するご意見・ご感想をメールでお寄せいただく場合は、comics@gentosha.co.jpまで。

本作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには関係ありません。